

担当者氏名 下村 友季子

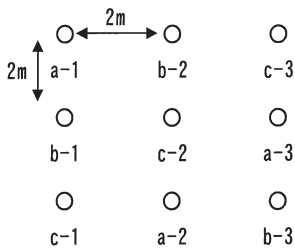
1. 試 験 目 的
- 防除効果及び葉害の検討
2. 試 験 方 法
- 試験地場所 有田郡有田川町奥 果樹試験場内ガラス温室
- 対 象 病 害 虫 発 生 状 況
- 中発生(放虫)

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種: 田口早生 樹齢: 4年生、樹高: 150cm、ポット植え栽培(直径52cm)、施設栽培、施肥その他一般管理は慣行に準じた。

土性: 埴壤土 試験期間中の防除薬剤: なし

区制・面積・試験区の構成 1 区 1 樹 3 連制



a : クミガードSC、b : ICボルドー66D、
c : 無処理 1、2、3は連制を示す

処理年月日・量・方法・処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(作物のステージ) 果実肥大期

(処理年月日・処理方法) 2024年6月7日に供試薬剤を所定の希釈倍数に調製し、バッテリー式電動噴霧機を用いて1樹あたり約1L (10 aあたり約300L) 散布した。

(試験期間中の降雨影響) 施設栽培のため、降雨なし。

試験期間中の気象条件

月日	6/7	6/8	6/9	6/10	6/11	6/12	6/13	6/14
平均気温(℃)	21.3	21.9	18.6	21.2	22.1	22.8	24.2	24.2

観測地点: 果樹試験場内

調査月日・方法(月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、葉害の判断方法・時期を記載)

(調査方法) 散布1日後(6月8日)、散布3日後(6月10日)、散布7日後(6月14日)に供試虫を樹上、地上、死亡、不明にわけて計数し、以下の式により登攀率を算出した。

登攀率: $\frac{\text{樹上虫数}}{(\text{樹上虫数} + \text{地上虫数} + \text{死亡虫数})} \times 100$

各調査日に食害箇所を数えた。

葉害は葉と果実を対象に、葉害症状の有無を以下の内容で肉眼により観察した。

- : 葉害を認めない。+ : 軽微な葉害症状を認める。++ : 中程度の葉害症状を認める。

+++ : 重度の葉害症状を認める。

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期、詳細な方法を記載)

(供試虫) 6月3日に果樹試験場内のウンシュウミカン樹より採集し、ダイコンの葉で飼育した。

(放虫) 薬剤散布後、樹体が乾いたことを確認し、株元の地表面に1区あたり30頭を均一に放虫した。

逃亡防止のため、ポットの外縁を銅板で囲った。

貝の乾燥死を防ぐため、散布前、6/10、6/12に灌水を行った。

対象病害虫名・学名 カタツムリ類(オナジマイマイ)

試験場名 和歌山県果樹試験場

3. 試 験 成 績

1樹あたり虫数(頭)															
薬剤	倍数	連制	放虫数	散布1日後(6/8)						散布3日後(6/10)					
				樹上	地上	死亡	不明	食害 葉数	登攀率 (%)	樹上	地上	死亡	不明	食害 葉数	登攀率 (%)
97) クミガードSC 水酸化第二銅20.0% (銅として13.0%) LotE4A05	1,000倍	1	30	11	18	0	1	0		7	21	0	2	0	
		2	30	5	24	0	1	0		5	25	0	0	0	
		3	30	2	26	0	2	0		6	21	0	3	0	
		計	90	18	68	0	4	0	20.9	18	67	0	5	0	21.2
		対無処理比(%)								39.5				33.0	
対) ICボルドー66D 塩基性硫酸銅28.1%	100倍	1	30	3	24	0	3	0		6	19	0	5	0	
		2	30	15	13	0	2	0		13	14	0	3	0	
		3	30	1	28	0	1	0		7	21	0	2	0	
		計	90	19	65	0	6	0	22.6	26	54	0	10	0	32.5
		対無処理比(%)								42.7				50.6	
無処理		1	30	23	7	0	0	0		22	4	0	4	0	
		2	30	13	14	0	3	0		14	14	0	2	0	
		3	30	9	19	0	2	0		16	11	0	3	0	
		計	90	45	40	0	5	0	52.9	52	29	0	9	0	64.2
薬剤	倍数	連制	放虫数	散布7日後(6/14)						薬害					
				樹上	地上	死亡	不明	食害 葉数	登攀率 (%)	(6/8、6/10、 6/14)					
97) クミガードSC 水酸化第二銅20.0% (銅として13.0%) LotE4A05	1,000倍	1	30	17	10	0	3	0		-					
		2	30	16	9	0	5	0		-					
		3	30	9	16	0	5	0		-					
		計	90	42	35	0	13	0	54.5						
		対無処理比(%)								71.1					
対) ICボルドー66D 塩基性硫酸銅28.1%	100倍	1	30	9	17	2	2	0		-					
		2	30	22	3	1	4	0		-					
		3	30	3	23	0	4	0		-					
		計	90	34	43	3	10	0	42.5						
		対無処理比(%)								55.5					
無処理		1	30	24	1	1	4	0							
		2	30	17	7	1	5	0							
		3	30	18	8	0	4	0							
		計	90	59	16	2	13	0	76.6						

4. 考 察

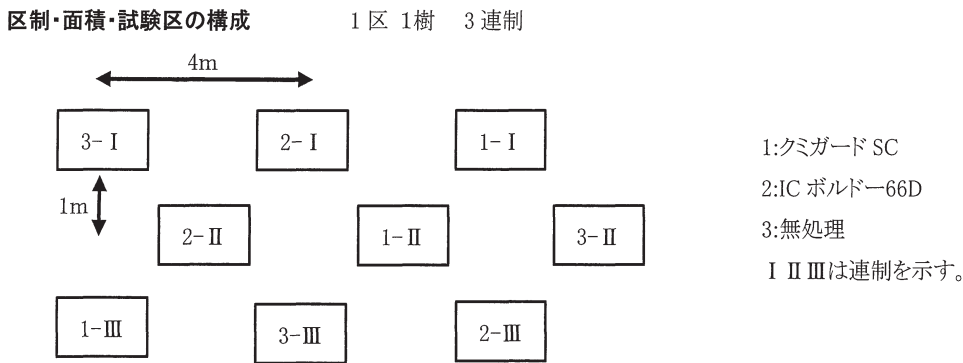
死亡虫および食害が認められなかったため、散布 1、3、7 日後の登攀率の対無処理比により判定を行った。

97)クミガード SC 1,000 倍 CCC-

本剤の 1,000 倍液散布は、対照の IC ボルドー66D の 100 倍液散布と比較してやや効果が劣り、無処理と比較して効果は認められるがその程度はやや低かった。効果はやや低いが実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

担当者氏名 田場 秀卓

1. 試 験 目 的 防除効果及び薬害の検討
2. 試 験 方 法 試験地場所 沖縄県名護市 農業県農業研究センター名護支所内
- 対 象 病 害 虫 発 生 状 況 多発生(放虫)
- 耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)
品種:シークワサー 樹齢:5年 樹高:85~100cm 栽植距離:4m 畝間:1m 土性:埴壤土
栽培条件:45Lポット 施設栽培 試験期間中は寒冷紗を用いて遮光した。
施肥その他一般管理は慣行に準じた 試験期間中の防除薬剤:なし



処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2024年8月20日

(処理時の作物のステージ) 新梢発生期

(処理方法) 供試薬剤を所定の希釈倍数に調製し、0.5L/樹の割合で背負式動力噴霧器を用いて薬液を散布した。

(処理前後の降雨影響) 施設のため降雨の影響はなかった。

試験期間中の気象条件

月日	8/20	8/21	8/22	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27
平均気温 (°C)	30.2	30.5	31.1	29.2	29.1	29.6	29.0	29.1

観測地点:試験施設内

調査月日・方法(月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 処理翌日(8月21日)、3日後(8月23日)、5日後(8月25日)、7日後(8月27日)

(調査方法) 薬効は、各調査日に被害葉数の全葉調査および樹上虫数の計数を行い、以下の式により防除価を算出した。

また、処理7日後の樹下虫数、死亡虫数を調査した。

防除価=100-(処理区の被害葉数(樹上虫数))/無処理区の被害葉数(樹上虫数))×100

薬害は、薬効調査時に葉の薬害症状を以下の基準により肉眼で観察した。

ー:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。

+++ :重度の薬害症状を認める。

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期、詳細な方法を記載)

供試虫は処理前日の8月19日に、農業研究センター名護支所カンキツほ場より採集した。薬剤散布後、十分に風乾させた後、30頭/樹ずつ株元に放虫し、防虫ネットで覆い逃亡を防止した。

対象病害虫名・学名 カタツムリ類(オキナワウスカワマイマイ主体)

試験場名 沖縄県農業研究センター名護支所

3. 試 験 成 績

供試薬剤	希釈 倍数	連制	放虫数	調査 葉数	処理翌日(8/21)		処理3日後(8/23)		処理5日後(8/25)		処理7日後(8/27)					葉害 (8/21、 8/23、8/25、 8/27)
					累積 被害葉数	樹上 個体数	累積 被害葉数	樹上 個体数	累積 被害葉数	樹上 個体数	累積 被害葉数	樹上 個体数	樹下 個体数	死亡 個体数	不明 個体数	
97)クミガードSC 水酸化第二銅20.0% (銅として13.0%) Lot E4A05	1000倍 散布	I	30	190	0	2	0	3	0	0	1	1	28	1	0	—
		II	30	170	0	0	0	6	1	1	3	2	28	0	0	—
		III	30	210	0	3	0	5	0	2	0	3	23	0	4	—
		計	90	570	0	5	0	14	1	3	4	6				
		防除価			100	50	100	0	97.4	62.5	93.1	53.8				
対)ICボルドー66D 塩基性硫酸銅28.1%	100倍 散布	I	30	187	0	0	1	0	4	0	8	0	26	0	4	—
		II	30	210	0	0	0	3	0	2	1	3	23	1	3	—
		III	30	205	0	1	0	3	0	1	3	2	28	0	0	—
		計	90	602	0	1	1	6	4	3	12	5				
		防除価			100	90	92.9	53.8	89.5	62.5	79.3	61.5				
無処理		I	30	200	0	4	0	9	1	3	1	5	25	0	0	
		II	30	200	0	3	0	3	1	2	4	2	26	0	2	
		III	30	208	3	3	14	1	36	3	53	6	22	0	2	
		計	90	608	3	10	14	13	38	8	58	13				
		防除価			0	0	0	0	0	0	0	0				

4. 考 察

効果の判定は、処理 7 日後の累積被害葉数の防除価によって行った。

97) クミガード SC 1,000 倍散布 AAA-

本処理は、対照の IC ボルドー66D100 倍と比較してまさる効果を示し、無処理区と比較して効果は高かった。実用性は高いと考えられる。葉害は認められなかった。

対象病害虫名 カタツムリ類 (ウスカワマイマイ *Acusta sieboldiana*)

試験場名 サンケイ化学株式会社 (鹿児島)

担当者氏名 青野聡司、赤坂奨斗

1. 試験目的 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 鹿児島県鹿児島市南栄 2 丁目 9 サンケイ化学株式会社 試験圃場

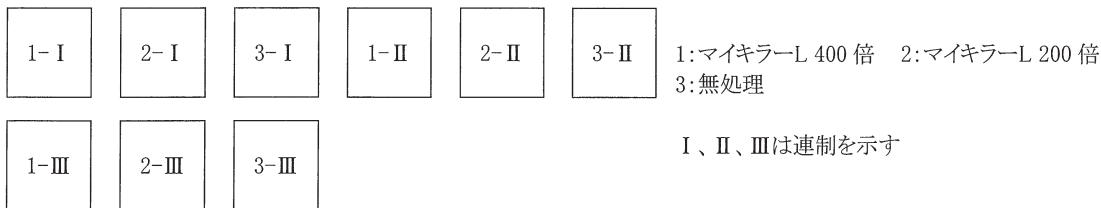
対象病害虫発生状況 多発生(放虫試験)

耕種概要

品種:宮川早生(カラタチ台木) 2 年生樹 樹高 60~70 cm ポット植え栽培(直径 25 cm 黒ポット使用) 施設栽培

土性:壤土 施肥、その他一般管理は慣行に準じた。 試験期間中の防除薬剤: なし

区制・面積・試験区の構成 1 区 1 樹 3 連制 各ポットは 100 cm 間隔で配置

試験区の構成 (2m×6m=12 m²)

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2024 年 6 月 4 日 (処理時の作物のステージ) 春枝伸長期

(処理方法) 供試薬剤を所定の希釈倍数に調製し、電池式噴霧器を用いて 0.5L/樹の割合で葉の表裏が十分に濡れるよう散布した。

(処理前後の降雨影響) 施設内で管理したため降雨の影響はなかった。

試験期間中の気象条件

ハウス内設置データロガー(2024 年 6 月 4 日~6 月 11 日)

月日	6/4	6/5	6/6	6/7	6/8	6/9	6/10	6/11
平均気温(℃)	26.1	25.0	22.2	24.9	23.0	25.0	24.4	26.2

調査月日・方法

(調査年月日) 2024 年 6 月 5 日(処理 1 日後)、6 月 7 日(処理 3 日後)、6 月 11 日(処理 7 日後)

(調査方法) 処理直前に各供試樹の葉数を計数した。各調査日に株全体の被害葉数を計数し、累積被害葉率(%)を求めた。

また、各調査日にウスカワマイマイの生存状況を調査し、死亡率(%)を求めた。

葉害は葉の葉害症状を葉効調査時に以下の基準により肉眼で観察した。

- : 葉害を認めない。+ : 軽微な葉害症状を認める。++ : 中程度の葉害症状を認める。

+++ : 重度の葉害症状を認める。

その他

ウスカワマイマイは試験圃場周辺で採集した個体を散布 1 時間前に 1 区あたり 10 頭放飼した。

供試虫の逃亡を防ぐために不織布平袋(50×60 cm)にて上から覆い、開口部を結束バンドにて固定した。

なお、調査は袋を外して行った。

供試樹においては果実の着生はなかった。

ウスカワマイマイの活動を促すために毎日朝 9 時に樹上よりなるべく葉へかからないよう配慮しながら、樹幹が濡れるように如雨露にて 500ml を散水した。

対象病害虫名 カタツムリ類 (ウスカワマイマイ *Acusta sieboldiana*)

試験場名 サンケイ化学株式会社 (鹿児島)

3. 試験成績

供試薬剤		連制	調査 葉数	累積被害葉率（％） （対無処理比）			葉害 （1, 3, 7 日後）
				散布 1 日後 （6/5）	散布 3 日後 （6/7）	散布 7 日後 （6/11）	
251) マイキラー-L 400 倍 メタアルデヒド 10.0% Lot. No：25.10-4J009K	I	189	0.0	0.0	0.5	-	
	II	184	0.0	0.0	0.0	-	
	III	166	0.0	0.0	0.0	-	
			0.0	0.0	0.2		
	計	539	(0.0)	(0.0)	(0.8)		
対) マイキラー-L 200 倍 メタアルデヒド 10.0% Lot. No：25.10-4J009K	I	250	0.0	0.0	0.0	-	
	II	124	0.0	0.0	0.0	-	
	III	121	0.0	0.0	0.0	-	
			0.0	0.0	0.0		
	計	495	(0.0)	(0.0)	(0.0)		
無処理	I	188	2.7	16.0	27.1		
	II	181	5.0	13.8	29.8		
	III	179	1.7	5.0	12.3		
	計	548	3.1	11.7	23.2		

(参考)

供試薬剤	連制	放飼 頭数	死亡頭数								
			散布 1 日後 (6/5)			散布 3 日後 (6/7)			散布 7 日後 (6/11)		
			生	死	死亡率	生	死	死亡率	生	死	死亡率
251) マイキラーL 400 倍 メタアルデヒド 10.0% Lot. No : 25. 10-4J009K	I	10	10	0		9	1		7	3	
	II	10	10	0		8	2		6	4	
	III	10	10	0		9	1		7	3	
	計	30	30	0	0.0%	26	4	13.3%	20	10	33.3%
対) マイキラーL 200 倍 メタアルデヒド 10.0% Lot. No : 25. 10-4J009K	I	10	10	0		10	0		6	4	
	II	10	10	0		6	4		4	6	
	III	10	10	0		9	1		6	4	
	計	30	30	0	0.0%	25	5	16.7%	16	14	46.7%
無処理	I	10	10	0		10	0		10	0	
	II	10	10	0		10	0		10	0	
	III	10	10	0		10	0		10	0	
	計	30	30	0	0.0%	30	0	0.0%	30	0	0.0%

4. 考察

判定は散布 1, 3, 7 日後の累積被害葉率の対無処理比により行った。

251) マイキラーL 400 倍 BBB-

本剤の防除効果は、対照薬剤のマイキラーL200 倍と比較して同等の効果であり、無処理と比較すると効果が認められた。実用性はあると考えられる。なお、葉害は認められなかった。

対 象 病 害 虫 名 ナメクジ類(チャコウラナメクジ)

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会 茨城研究所 担当者氏名 佐藤紅音、黒澤駿、島崎祐樹

1. 試 験 目 的 (依 頼 事 項) 防除効果及び被害の検討

2. 試 験 方 法 試験地場所 茨城県牛久市結束町 535 一般社団法人日本植物防疫協会茨城研究所

対 象 病 害 虫 発 生 状 況 多発生(放虫)

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

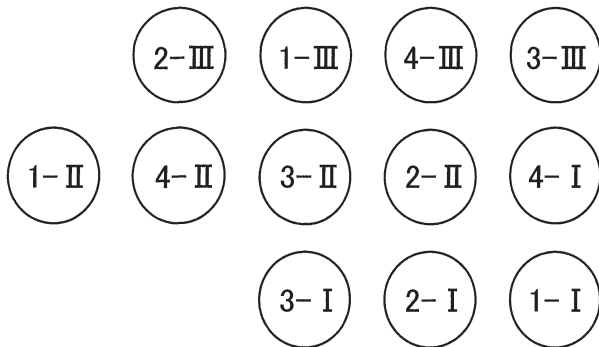
品種:興津早生(温州みかん) 17~19 年生樹 樹高 120~150cm 強剪定樹

施設ポット(ポット直径 60cm 容量 100L)栽培 土性:壤土

一般管理は現地慣行に準じた。 試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積・試験区の構成 1区 1 樹 3 連制

試験区の構成



1:オリオン水和剤 40、2:パダン SG 水溶剤、3:ハチハチフロアブル、4:無処理 I、II、IIIは連制を示す。

供試虫の逃亡を防ぐため、樹全体をポットの縁部分から防虫白ネット(目合い 2mm)で覆った。また、試験期間中は灌水チューブを用いて樹に水があたらないう程度に常時散水を行い、施設内が高湿度条件となるようにした。

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2024 年 7 月 11 日 (処理時の作物のステージ) 果実肥大期、樹高 120~150cm

(処理方法) 供試薬剤を所定の希釈倍数に調製し、1 樹あたり 1.0L を葉の表裏が十分濡れるように背負式バッテリー噴霧機を用いて散布した。

(処理前後の降雨影響) 施設栽培のため降雨の影響はなかった。

試験期間中の気象条件

月 日	7/11	7/12	7/13	7/14	7/15	7/16	7/17	7/18
平均気温 (°C)	29.1	26.7	29.1	27.2	26.3	26.0	28.4	30.2

観測地:試験施設

調査月日・方法(月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 処理 1 日後(7 月 12 日)、処理 3 日後(7 月 14 日)、処理 5 日後(7 月 16 日)、処理 7 日後(7 月 18 日)

(調査方法) 虫数調査:樹上と樹下に生息するチャコウラナメクジの数を調査した。

はい跡調査:枝葉のナメクジのはい跡の有無を調査した。

ー:這い跡なし、+:這い跡がある

被害調査:最終調査時(処理 7 日後)にネットの被覆を除去し、樹全体の被害葉数を調査した。

被害調査:茎葉と果実を対象に、散布後の調査時に肉眼により被害症状の有無を以下の内容で観察した。

ー:被害を認めない。+:軽微な被害症状を認める。++:中程度の被害症状を認める。

+++ : 重度の被害症状を認める。

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

7月11日(処理の約4時間後)にチャコウラナメクジをポットの地表面に1区あたり30頭放虫した(日本植物防疫協会茨城研究所内で自然発生した個体)。ナメクジの隠れ場として、割れた素焼きの鉢をポット内に数カ所設置した。

3. 試験成績

供試薬剤	処理方法	連制	1樹あたりのチャコウラナメクジ生息虫数												各調査日のはい跡*				被害葉数 (7/18)	葉害 7/12,14,16,18
			処理1日後			処理3日後			処理5日後			処理7日後								
			7/12			7/14			7/16			7/18								
			樹上	樹下	計	樹上	樹下	計	樹上	樹下	計	樹上	樹下	計	7/12	7/14	7/16	7/18		
74) オリオン水和剤40 アラニカルブ 40.0%	1000倍 散布	I	0	14	14	0	9	9	0	4	4	0	2	2	+	+	+	+	2	-
		II	1	12	13	0	8	8	0	3	3	0	4	4	+	+	+	+	4	-
		III	0	5	5	0	4	4	0	4	4	0	0	0	+	-	+	+	2	-
		計	1	31	32	0	21	21	0	11	11	0	6	6					8	
		Lot.No.: 24.10 2C72	密度指数	56.1			39.6			30.6			20.0			対無処理比				17.0
135) パダンSG水溶剤 カルタップ塩酸塩 75%	3000倍 散布	I	0	16	16	0	14	14	0	14	14	0	10	10	+	+	+	+	5	-
		II	0	12	12	0	8	8	0	5	5	0	2	2	-	-	+	+	1	-
		III	0	12	12	0	6	6	0	3	3	0	2	2	+	-	+	+	0	-
		計	0	40	40	0	28	28	0	22	22	0	14	14					6	
		Lot.No.: 25.10 SJB950	密度指数	70.2			52.8			61.1			46.7			対無処理比				12.8
対照 ハチハチフロアブル トルフェンビト 15%	1000倍 散布	I	0	8	8	0	1	1	0	1	1	0	0	0	-	-	+	+	1	-
		II	0	6	6	0	5	5	0	5	5	0	3	3	-	-	+	+	11	-
		III	0	8	8	0	6	6	0	1	1	0	0	0	+	-	+	+	3	-
		計	0	22	22	0	12	12	0	7	7	0	3	3					15	
		密度指数	38.6			22.6			19.4			10.0			対無処理比				31.9	
無処理	-	I	0	19	19	1	17	18	0	15	15	0	11	11	+	+	+	+	16	
		II	0	19	19	0	19	19	0	12	12	1	12	13	+	+	+	+	26	
		III	0	19	19	1	15	16	0	9	9	0	6	6	-	+	+	+	5	
		計	0	57	57	2	51	53	0	36	36	1	29	30					47	
		密度指数	100			100			100			100			対無処理比				100	

* +:はい跡あり、-:はい跡なし

4. 考 察

実用性の判定は、処理7日後の被害葉数の対無処理比から行った。

74) オリオン水和剤 40 1000 倍散布 ABB-

本処理は、対照薬剤のハチハチフロアブルの1000倍散布と比較して優り、無処理と比較して防除効果が認められた。実用性はあると考えられる。

葉害は認められなかった。

135) パダン SG 水溶剤 3000 倍散布 ABB-

本処理は、対照薬剤のハチハチフロアブルの1000倍散布と比較して優り、無処理と比較して防除効果が認められた。実用性はあると考えられる。

葉害は認められなかった。

対 象 病 害 虫 名 ナメクジ類(チャコウラナメクジ)

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会 茨城研究所

担当者氏名 佐藤紅音、黒澤駿、島崎祐樹

1. 試 験 目 的 (依 頼 事 項) 防除効果及び被害の検討

2. 試 験 方 法 試験地場所 茨城県牛久市結束町 535 一般社団法人日本植物防疫協会茨城研究所

対 象 病 害 虫 発 生 状 況 多発生(放虫)

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:興津早生(温州みかん) 17~19 年生樹 樹高 120~150cm 強剪定樹

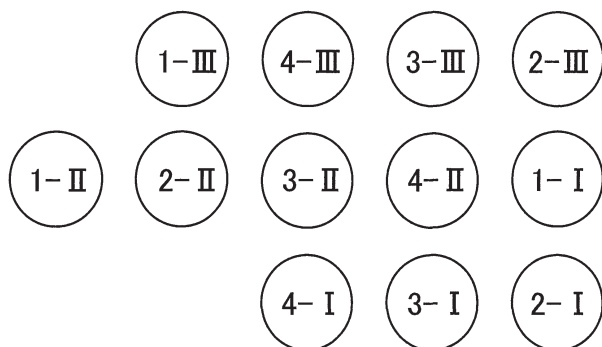
施設ポット(ポット直径 60cm 容量 100L)栽培 土性:壤土

一般管理は現地慣行に準じた。 試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積・試験区の構成

1区 1 樹 3 連制

試験区の構成



1:アクセルキングフロアブル、2:ハチハチフロアブル(2000 倍)、3:ハチハチフロアブル(1000 倍)、4:無処理

I、II、IIIは連制を示す。

供試虫の逃亡を防ぐため、樹全体をポットの縁部分から防虫白ネット(目合い 2mm)で覆った。また、試験期間中は灌水チューブを用いて樹に水があたらない程度に常時散水を行い、施設内が高湿度条件となるようにした。

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2024 年 8 月 6 日

(処理時の作物のステージ) 果実肥大期、樹高 120~150cm

(処理方法) 供試薬剤を所定の希釈倍数に調製し、1 樹あたり 1.0L を葉の表裏が十分濡れるように背負式バッテリー噴霧機を用いて散布した。

(処理前後の降雨影響) 施設栽培のため降雨の影響はなかった。

試験期間中の気象条件

月日	8/6	8/7	8/8	8/9	8/10	8/11	8/12	8/13
平均気温(℃)	30.7	30.6	30.6	31.3	29.8	33.2	33.2	32.8

観測地:試験施設

調査月日・方法(月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 処理 1 日後(8 月 7 日)、処理 3 日後(8 月 9 日)、処理 5 日後(8 月 11 日)、処理 7 日後(8 月 13 日)

(調査方法) 虫数調査:樹上と樹下に生息するチャコウラナメクジの数を調査した。

はい跡調査:枝葉のナメクジのはい跡の有無を調査した。

ー:這い跡なし、+:這い跡がある

被害調査:最終調査時(処理 7 日後)にネットの被覆を除去し、樹全体の被害葉数を調査した。

薬害調査:茎葉と果実を対象に、散布後の調査時に肉眼により薬害症状の有無を以下の内容で観察した。

ー:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。

+++ :重度の薬害症状を認める。

対 象 病 害 虫 名 ナメクジ類(チャコウラナメクジ)

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会 茨城研究所

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

8月6日(処理の約2時間後)にチャコウラナメクジをポットの地表面に1区あたり30頭放虫した(茨城県常総市および日本植物防疫協会茨城研究所内の自然発生個体を採集)。ナメクジの隠れ場として、割れた素焼きの鉢をポット内に数カ所設置した。

3. 試験成績

供試薬剤	処理方法	連制	1樹あたりのチャコウラナメクジ生息虫数												各調査日のはい跡*				被害葉数 (8/13)	薬害 8/7,9,11,13	
			処理1日後 8/7			処理3日後 8/9			処理5日後 8/11			処理7日後 8/13			8/7	8/9	8/11	8/13			
			樹上	樹下	計	樹上	樹下	計	樹上	樹下	計	樹上	樹下	計							
66) アクセルキングフロアブル メタフルミゾン19% トルフェンビラト12%	2000倍 散布	I	0	15	15	0	11	11	0	4	4	0	1	1	-	+	+	-	2	-	
		II	0	11	11	0	3	3	0	3	3	0	1	1	+	-	-	-	0	-	
		III	0	8	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	+	-	-	-	0	-	
		計	0	34	34	0	14	14	0	7	7	0	2	2					2		
		密度指数	50.0			29.8			15.2			4.9			対無処理比				8.0		
142) ハチハチフロアブル トルフェンビラト15%	2000倍 散布	I	0	12	12	0	12	12	0	4	4	0	4	4	+	-	+	+	3	-	
		II	0	13	13	0	8	8	0	6	6	0	4	4	+	+	-	+	1	-	
		III	1	8	9	0	3	3	0	3	3	0	3	3	+	+	-	+	0	-	
		計	1	33	34	0	23	23	0	13	13	0	11	11					4		
		密度指数	50.0			48.9			28.3			26.8			対無処理比				16.0		
対照	ハチハチフロアブル トルフェンビラト15%	1000倍 散布	I	0	20	20	0	8	8	0	6	6	0	1	1	+	-	-	1	-	
			II	0	17	17	0	10	10	0	4	4	0	3	3	+	+	+	+	2	-
			III	0	6	6	0	2	2	0	1	1	0	0	0	+	+	-	-	1	-
			計	0	43	43	0	20	20	0	11	11	0	4	4					4	
			密度指数	63.2			42.6			23.9			9.8			対無処理比				16.0	
無処理	-		I	0	28	28	0	20	20	0	19	19	0	14	14	+	+	+	+	5	
			II	0	18	18	0	9	9	0	10	10	0	14	14	+	+	+	+	13	
			III	0	22	22	0	18	18	0	17	17	0	13	13	+	+	+	+	7	
			計	0	68	68	0	47	47	0	46	46	0	41	41					25	
			密度指数	100			100			100			100			対無処理比				100	

* +: はい跡あり、-: はい跡なし

4. 考 察

実用性の判定は、処理7日後の被害葉数の対無処理比から行った。

66) アクセルキングフロアブル 2000倍散布 AAA-

本処理は、対照薬剤のハチハチフロアブルの1000倍散布と比較して優り、無処理と比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。

薬害は認められなかった。

142) ハチハチフロアブル 2000倍散布 BBB-

本処理は、対照薬剤のハチハチフロアブルの1000倍散布と比較して同等で、無処理と比較して防除効果が認められた。実用性はあると考えられる。

薬害は認められなかった。

担当者氏名 宮下 裕司・梶原 千椰・魚住 暢

1. 試 験 目 的 防除効果及び被害の検討
2. 試 験 方 法 試験地場所 愛媛県松山市下伊台町果樹研究センター内圃場
- 対 象 病 害 虫 発 生 状 況 中発生(放虫)

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:宮川早生 樹齡:5年生 樹高:0.6m 栽植距離:1m×1m 土性:砂壤土
栽培条件:ポット栽培 露地栽培
施肥その他一般管理は慣行に準じた。
試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積・試験区の構成 1 区 1 樹 3 連制

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
2-I 1-I 5-I 3-I 4-I 2-II 1-II 5-II

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
3-II 4-II 2-III 1-III 5-III 3-III 4-III

1:クミガード SC 2:パダン SG 水溶剤 3:ハチハチフロアブル 4:ICボルドー66D 5:無処理
I、II、IIIは連制を示す

処理年月日・量・方法・処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 令和6年5月 14 日
(処理時の作物のステージ) 新梢伸長停止期(新葉硬化前)
(処理方法) 供試薬剤を所定の倍数に調製し、0.5L/樹の割合で樹全体が十分濡れるようにバッテリー式噴霧機を用いて散布した。
(処理前後の降雨影響) 散布前後に降雨は無く、影響はなかった。

試験期間中の気象条件

月日	5月												
	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日
平均気温(℃)	15.9	17.7	15.5	18.2	19.7	17.4	18.7	21.3	19.7	19.7	20.6	21.2	21.5
降水量(mm)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

観測地点:果樹研究センター内

調査月日・方法(月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 寄生状況調査:5/14(処理当日)、5/15(処理1日後)、5/16(2日後)、5/20(同6日後)、5/21(同7日後)
被害葉調査:5/26(処理12日後)
(調査方法) 寄生状況調査は、各調査日の20:30~21:30にネットを外し、樹上、地面及びネット部に生息するナメクジ個体数を部位別に計数した。計数後はネットで再び樹を覆った。
被害葉調査は、処理12日後にネットを外し、全新葉を以下の食害程度別に計数し、被害度を算出した。
無:食害なし 少:白い傷状の食害 中:食害孔が1つ 多:食害孔が複数
被害度 = ((少×1)+(中×3)+(多×5))/(全調査葉×5)×100
葉害は、処理5日後の調査時に葉の葉害症状を以下の基準により肉眼で観察した。
-:葉害を認めない。+:軽微な葉害症状を認める。++:中程度の葉害症状を認める。+++:重度の葉害症状を認める。

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期、詳細な方法を記載)

薬剤処理当日樹が乾いていることを確認後、センター内のかんきつ樹ポット下に生息していたチャコウラナメクジを、各樹30頭供試樹ポット※の地面に放飼した。放飼後に、供試樹を20kg玉ねぎネットで覆い、ポットの淵に紐取手を締め付けて逃亡を防止した。登攀を促すため、調査日の日没直前に乾電池式スプレーを用いて、ネットの上から葉から水が滴り落ちない程度(約100ml/樹)の水を散布した。
※供試樹ポット:ナメクジの定着場所として、各ポットの土の上に割れた素焼き鉢を置いたポット(9号)。

対象病害虫名・学名 ナメクジ類 (チャコウラナメクジ)

試験場名 愛媛県農林水産研究所果樹研究センター

3. 試 験 成 績

【寄生状況調査】

供試薬剤	処理方法	処理当日 (5/14)				処理1日後 (5/15)				処理2日後 (5/16)				処理6日後 (5/20)				処理7日後 (5/21)				累計				葉害 ³⁾
		ナメクジ数		登攀率 ²⁾ (%)	ナメクジ数		登攀率 (%)	ナメクジ数		登攀率 (%)	ナメクジ数		登攀率 (%)	ナメクジ数		登攀率 (%)	ナメクジ数		登攀率 (%)	ナメクジ数		登攀率 (%)				
		連制	樹下 ¹⁾ 樹上		樹下 樹上	樹下 樹上		樹下 樹上	樹下 樹上		樹下 樹上	樹下 樹上		樹下 樹上	樹下 樹上											
97)	クミガードSC 水酸化第二銅20.0% Lot No. 26. 10E4A05 (770/200倍加用)	1,000倍 散布	I	23	0	0.0	14	2	12.5	15	0	0.0	10	2	16.7	13	0	0.0	75	4	5.1	—				
			II	22	0	0.0	15	4	21.1	19	1	5.0	12	2	14.3	13	0	0.0	81	7	8.0	—				
			III	30	0	0.0	26	1	3.7	26	1	3.7	22	2	8.3	22	1	4.3	125	5	3.8	—				
			合計	75	0	0.0	55	7	11.3	60	2	3.2	44	6	12.0	48	1	2.0	282	16	5.4	—				
			(対無処理比)		(30.4)		(40.0)		(35.3)		(4.1)		(22.8)													
140)	バダンSG水溶剤 カルタップ 塩酸塩75.0% Lot No. 26. 10SJCO08	3,000倍 散布	I	25	2	7.4	23	2	8.0	19	1	5.0	16	4	20.0	13	8	38.1	96	17	15.0	—				
			II	27	0	0.0	15	7	31.8	19	1	5.0	11	4	26.7	8	7	46.7	80	19	19.2	—				
			III	19	0	0.0	18	7	28.0	22	1	4.3	18	1	5.3	13	6	31.6	90	15	14.3	—				
			合計	71	2	2.7	56	16	22.2	60	3	4.8	45	9	16.7	34	21	38.2	266	51	16.1	—				
			(対無処理比)		(59.9)		(59.0)		(49.1)		(76.4)		(68.2)													
142)	ハチハチフロアブル トノエンピラド [®] 15.0% Lot No. 3K73A	2,000倍 散布	I	26	0	0.0	9	8	47.1	18	4	18.2	9	3	25.0	13	3	18.8	75	18	19.4	—				
			II	29	0	0.0	24	3	11.1	24	1	4.0	19	5	20.8	15	8	34.8	111	17	13.3	—				
			III	26	0	0.0	11	10	47.6	23	1	4.2	9	10	52.6	10	10	50.0	79	31	28.2	—				
			合計	81	0	0.0	44	21	32.3	65	6	8.5	37	18	32.7	38	21	35.6	265	66	19.9	—				
			(対無処理比)		(87.1)		(104.8)		(95.4)		(71.2)		(84.5)													
対)	ICボルドー66D 塩基性硫酸銅28.1% (770/200倍加用)	100倍 散布	I	25	0	0.0	24	1	4.0	22	0	0.0	20	0	0.0	13	0	0.0	104	1	1.0	—				
			II	27	0	0.0	25	1	3.8	26	0	0.0	21	1	4.5	17	0	0.0	116	2	1.7	—				
			III	26	0	0.0	23	0	0.0	23	0	0.0	20	0	0.0	16	1	5.9	108	1	0.9	—				
			合計	78	0	0.0	72	2	2.7	71	0	0.0	61	1	1.6	46	1	2.1	328	4	1.2	—				
			(対無処理比)		(7.3)		(0.0)		(4.7)		(4.3)		(5.1)													
無散布			I	22	1	4.3	11	5	31.3	14	0	0.0	7	4	36.4	4	7	63.6	58	17	22.7	—				
			II	27	0	0.0	13	10	43.5	25	1	3.8	11	10	47.6	6	11	64.7	82	32	28.1	—				
			III	26	0	0.0	15	8	34.8	18	4	18.2	17	4	19.0	14	6	30.0	90	22	19.6	—				
			合計	75	1	1.3	39	23	37.1	57	5	8.1	35	18	34.0	24	24	50.0	230	71	23.6	—				

1) 樹下は、ネット部の個体も含む。 2) 登攀率=樹上/(樹上+樹下)×100 3) 葉害調査日 5/14、5/15、5/16、5/20、5/21

【被害葉調査】

供試薬剤		処理方法	処理12日後（5/26）新梢調査					被害度	葉害
			被害度別葉数						
			連制	無	少	中	多		
97)	クミガードSC	1,000倍 散布 (77°ロ200倍加用)	I	70	0	0	0	0.0	—
	水酸化第二銅20.0%		II	75	1	0	0	0.3	—
	Lot No. 26. 10E4A05		III	80	2	5	1	5.0	—
			合計	225	3	5	1	2.0	
			(対無処理比)					(19.8)	
140)	バダンSG水溶剤	3,000倍 散布	I	83	5	7	0	5.5	—
	カルタップ塩酸塩75.0%		II	92	9	4	0	4.0	—
	Lot No. 26. 10SJCO08		III	45	2	2	0	3.3	—
			合計	220	16	13	0	4.4	
			(対無処理比)					(44.5)	
142)	ハチハチフロアブル	2,000倍 散布	I	39	0	0	0	0.0	—
	トノエンピラド [®] 15.0%		II	43	3	4	3	11.3	—
	Lot No. 3K73A		III	61	12	3	0	5.5	—
			合計	143	15	7	3	6.1	
			(対無処理比)					(61.1)	
対)	ICボルドー66D	100倍 散布	I	74	0	1	0	0.8	—
	塩基性硫酸銅28.1%		II	79	1	1	1	2.2	—
	(77°ロ200倍加用)		III	85	1	3	0	2.2	—
			合計	238	2	5	1	1.8	
			(対無処理比)					(18.0)	
無散布			I	77	10	7	6	12.2	
			II	77	13	10	1	9.5	
			III	71	7	9	0	7.8	
			合計	225	30	26	7	9.9	

4. 考 察

実用性の判定は、1、6、7日後の登攀率及び処理12日後の被害度の対無処理比を基に行った。

97) クミガードSC 1,000倍散布 BBB-

本処理は、対照処理と比較して効果は同等であり、無処理と比較して効果は認められた。実用性はあると考えられる。

葉害は認められなかった。

140) バダンSG水溶剤 3,000倍散布 DCC-

本処理は、対照処理と比較して効果は劣った。無処理と比較して効果は認められるがその程度はやや効果は低かった。効果はやや低い実用性はあると考えられる。

葉害は認められなかった。

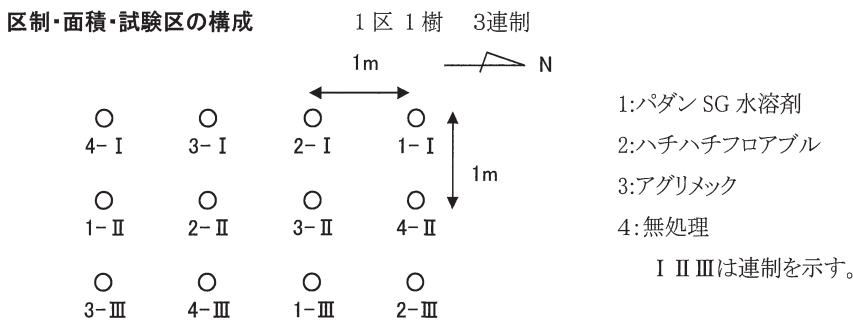
142) ハチハチフロアブル 2,000倍散布 DDD-

本処理は、対照処理と比較して効果は劣った。無処理と比較して効果は低かった。実用性はないと考えられる。

葉害は認められなかった。

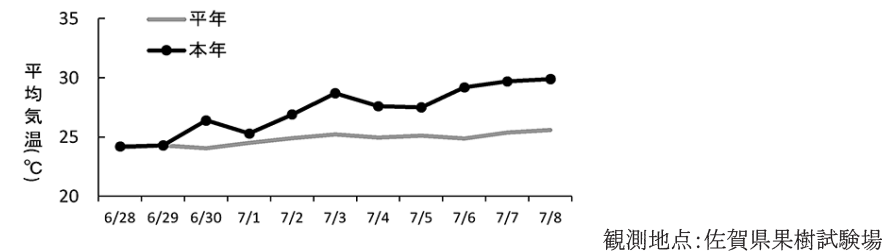
担当者氏名 白石祥子・石丸晃成・前田貢輝

1. 試験目的 防除効果及び被害の検討
2. 試験方法 試験地場所 佐賀県小城市小城町晴気(佐賀県果樹試験場内網室)
- 対象病害虫発生状況 多発生(放虫)
- 耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)
- 品種:上野早生 樹齢:9年生 樹高:0.8m ポット間距離:1m×1m 土性:埴壤土
- 栽培条件:施設(網室)栽培 ポット植え(ポット内径 40 cm)
- 施肥その他一般管理は慣行に準じた。
- 試験期間中の防除薬剤:無し



- 処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響
- (処理年月日) 2024 年 6 月 28 日
- (処理時の作物のステージ) 果実肥大期
- (処理方法) 背負式電動噴霧器(工進製 SLS-7N)を用いて、葉の表裏が濡れるよう十分量(0.7L/樹)を散布した。
- (処理前後の降雨影響) 網室内での試験のため、降雨の影響なし

試験期間中の気象条件



- 調査月日・方法(月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)
- (調査月日) 処理3日後(7月1日)、処理5日後(7月3日)、処理7日後(7月5日)、処理10日後(7月8日)
- (調査方法) 寄生状況調査:各調査日に生存状況を樹上部と地上部に分けて調査し、以下の式により登はん率を求めた。
- 登はん率(%)=(樹上の生存虫数/生存虫数)×100
- 這い跡調査:各調査日に樹に残存する這い跡を次の基準で調査し、各試験区の平均値を算出した。
- 0:這い跡無し。 1:這い跡が若干認められる。 5:這い跡が散見される。 10:這い跡が樹全体で認められる。
- 被害状況調査:処理10日後に果実の被害状況を調査したが、本年は落果が多く、ほとんどの樹が果実無し〜極少となったため、調査データは参考とする。
- 被害は、薬効調査時に葉および果実の被害症状を以下の基準により肉眼で観察した。
- 一:被害を認めない。+:軽微な被害症状を認める。++:中程度の被害症状を認める。+++ :重度の被害症状を認める。

対象病害虫名・学名 ナメクジ類(チャコウラナメクジ)

試験場名 佐賀県果樹試験場

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期、詳細な方法を記載)

試験には、放虫当日に場内の施設ナシ園で採集したチャコウラナメクジを供試した。放虫は、薬剤処理当日の夕方に、各樹の葉液が乾いていることを確認して行った。供試樹の各ポットに隠れ場所として素焼きの植木鉢の破片(約 10 cm 四方)を 2 個静置した後に、ポット内の地面にチャコウラナメクジ 20 頭を放虫した。供試虫の逃亡を防ぐため、テトロンゴースで作成した袋(約 70 cm×140 cm)で供試樹をポットごと覆った。袋はゴムバンドとクリップを使ってポットに固定するとともに、開口部はクリップでとめた。

3. 試 験 成 績

1) 寄生状況調査

供試薬剤	希釈 倍数	連制	供試 虫数 (頭)	処理3日後(7/1)					(対無処 理比)	処理5日後(7/3)					(対無処 理比)		
				生存虫数(頭)		累積死亡 虫数(頭)	不明虫 数(頭)	登はん 率(%)		生存虫数(頭)		累積死亡 虫数(頭)	不明虫 数(頭)	登はん 率(%)			
				樹上部	地上部			樹上部		地上部	樹上部			地上部		樹上部	地上部
140) ハダシSG水溶剤 カルタプ塩酸塩 75% Lot.SJC008	3,000倍	I	20	12	5	0	3	70.6		6	14	0	0	30.0			
		II	20	2	18	0	0	10.0		0	20	0	0	0			
		III	20	6	14	0	0	30.0		3	17	0	0	15.0			
		計	60	20	37	0	3	35.1	(62.7)	9	51	0	0	15.0	(42.9)		
142) ハチハチフロアブル トルフェンピラト 15.0% Lot.3K73A	2,000倍	I	20	0	17	0	3	0		2	8	0	10	20.0			
		II	20	12	8	0	0	60.0		7	13	0	0	35.0			
		III	20	16	4	0	0	80.0		7	13	0	0	35.0			
		計	60	28	29	0	3	49.1	(87.8)	16	34	0	10	32.0	(91.4)		
対) アグリメック アバメクチン 1.8%	2,000倍	I	20	11	6	0	3	64.7		10	8	0	2	55.6			
		II	20	11	7	0	2	61.1		0	20	0	0	0			
		III	20	10	10	0	0	50.0		3	17	0	0	15.0			
		計	60	32	23	0	5	58.2	(104.0)	13	45	0	2	22.4	(64.0)		
無散布		I	20	13	7	0	0	65.0		13	7	0	0	65.0			
		II	20	11	8	0	1	57.9		6	14	0	0	30.0			
		III	20	9	11	0	0	45.0		2	18	0	0	10.0			
		計	60	33	26	0	1	55.9		21	39	0	0	35.0			

つづき

供試薬剤	希釈 倍数	連制	供試 虫数 (頭)	処理7日後(7/5)					(対無処 理比)	処理10日後(7/8)					(対無処 理比)		
				生存虫数(頭)		累積死亡 虫数(頭)	不明虫 数(頭)	登はん 率(%)		生存虫数(頭)		累積死亡 虫数(頭)	不明虫 数(頭)	登はん 率(%)			
				樹上部	地上部					樹上部	地上部						
140) バタンSG水溶剤 カルタプ塩酸塩 75% Lot.SJC008	3,000倍	I	20	8	12	0	0	40.0		9	11	0	0	45.0			
		II	20	0	20	0	0	0		0	20	0	0	0			
		III	20	12	8	0	0	60.0		1	19	0	0	5.0			
		計	60	20	40	0	0	33.3	(84.1)	10	50	0	0	16.7	(47.6)		
142) ハチハチフロアブル トルフェンピラト 15.0% Lot.3K73A	2,000倍	I	20	0	4	2	14	0		1	11	2	6	8.3			
		II	20	11	9	0	0	55.0		5	15	0	0	25.0			
		III	20	9	11	0	0	45.0		12	8	0	0	60.0			
		計	60	20	24	2	14	45.5	(115)	18	34	2	6	34.6	(98.9)		
対) アグリメック アバメクチン 1.8%	2,000倍	I	20	12	5	0	3	70.6		17	3	0	0	85.0			
		II	20	2	18	0	0	10.0		0	20	0	0	0			
		III	20	6	14	0	0	30.0		2	18	0	0	10.0			
		計	60	20	37	0	3	35.1	(88.5)	19	41	0	0	31.7	(90.5)		
無散布		I	20	18	2	0	0	90.0		18	2	0	0	90.0			
		II	20	4	14	0	2	22.2		3	17	0	0	15.0			
		III	20	1	19	0	0	5.0		0	20	0	0	0			
		計	60	23	35	0	2	39.7		21	39	0	0	35.0			

2) 這い跡調査

供試薬剤	希釈 倍数	連制	処理3日後(7/1)		処理5日後(7/3)		処理7日後(7/5)		処理10日後(7/8)		果実被害調査(7/8)*			薬害 (7/1,7/3,7/5, 7/8)
			這い跡 指数	(対無処 理比)	這い跡 指数	(対無処 理比)	這い跡 指数	(対無処 理比)	這い跡 指数	(対無処 理比)	調査果 実数	被害果 実数	被害果 率(%)	
140) バダンSG水溶剤 カルタプ塩酸塩 75% Lot.SJC008	3,000倍	I	1		1		1		1		0	0		-
		II	0		1		1		5		4	0	0	-
		III	1		5		5		5		11	0	0	-
		平均	0.7	(13.3)	2.3	(35.0)	2.3	(28.0)	3.7	(36.7)	15	0		
142) ハチハチフロアブル トルフェンピラト 15.0% Lot.3K73A	2,000倍	I	0		1		1		1		0	0		-
		II	1		1		5		5		5	0	0	-
		III	0		5		5		10		3	0	0	-
		平均	0.3	(6.7)	2.3	(35.0)	3.7	(44.0)	5.3	(53.3)	8	0		
対) アグリメック アバメクチン 1.8%	2,000倍	I	1		5		10		10		3	0		-
		II	1		5		5		5		6	0	0	-
		III	1		10		10		10		3	0	0	-
		平均	1	(20.0)	6.7	(100)	8.3	(100)	8.3	(83.3)	12	0		
無散布		I	5		10		10		10		2	0		
		II	5		5		5		10		3	0		
		III	5		5		10		10		1	0	0	
		平均	5.0		6.7		8.3		10.0		6	0		

対象病害虫名・学名 ナメクジ類(チャコウラナメクジ)

試験場名 佐賀県果樹試験場

※果実数が少ないため、果実被害調査のデータは参考とする。

4. 考察

効果の判定は、処理3, 5, 7, 9日後の登はん率と這い跡の対無処理比で判定した。

140) パダン SG 水溶剤 3,000 倍散布 ABB-

本処理は、対照のアグリメック 2000 倍と比較して優る効果を示し、無処理区と比較して効果はある。実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

142) ハチハチフロアブル 2,000 倍散布 BCC-

本処理は、対照のアグリメック 2000 倍と比較して同等の効果を示し、無処理区と比較して効果は認められるがその程度はやや低かった。効果はやや低い実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

対象病害虫名 ナメクジ類(チャコウラナメクジ *Ambigolimax valentianus*)

試験場名 サンケイ化学株式会社(鹿児島)

担当者氏名 赤坂 奨斗

1. 試験目的 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 鹿児島県鹿児島市南栄2丁目9 サンケイ化学株式会社 試験圃場

対象病害虫発生状況 多発生(放虫試験)

耕種概要

品種:宮川早生(カラタチ台木) 1年生樹 樹高50~60 cm ポット植え栽培(直径15 cm 黒ポット使用) 施設栽培

土性:壤土 施肥、その他一般管理は慣行に準じた。 試験期間中の防除薬剤: なし

区制・面積・試験区の構成 1区 1樹 3連制 各ポットは100 cm間隔で配置

試験区の構成(1m×10m=10 m²)

1-I	2-I	3-I	1-II	2-II	3-II	1-III	2-III	3-III
-----	-----	-----	------	------	------	-------	-------	-------

1:マイキラーL400 倍 2:マイキラーL200 倍 3:無処理 I、II、IIIは連制を示す

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2023 年 11 月 8 日 (処理時の作物のステージ) 秋枝伸長期

(処理方法) 供試薬剤を所定の希釈倍数に調製し、乾電池式噴霧器を用いて0.5L/樹の割合で葉の表裏が十分に濡れるよう散布した。

(処理前後の降雨影響) 施設内で管理したため降雨の影響はなかった。

試験期間中の気象条件

ハウス内設置データロガー(2023 年 11 月 8 日~11 月 15 日)

月日	11/8	11/9	11/10	11/11	11/12	11/13	11/14	11/15
平均気温(℃)	18.9	20.5	20.3	18.7	16.4	16.5	20.3	20.7

調査月日・方法

(調査月日) 2023 年 11 月 9 日(散布1日後)、11 月 11 日(散布3日後)、11 月 15 日(散布7日後)

(調査方法) 各調査日に生存状況を地上部、樹上部に分けて調査し、登攀率(%)を求めた。

登攀率(%)=(樹上の生存虫数/生存虫数)×100

被害は葉の被害症状を以下の基準により肉眼で随時観察した

- : 被害を認めない。+ : 軽微な被害症状を認める。++ : 中程度の被害症状を認める。

+++ : 重度の被害症状を認める。

その他 チャコウラナメクジは試験圃場周辺で採集した個体を散布1時間前に1区あたり10頭放飼した。

供試虫の逃亡を防ぐために不織布布袋(50×60 cm)にて上から覆い、開口部を結束バンドにて固定した。

なお、調査は袋を外して行った。

供試樹においては果実の着生はなかった。また、葉におけるチャコウラナメクジの加害痕は認められなかった。

ナメクジの活動を促すために毎日朝9時に樹上よりなるべく葉へかからないよう配慮しながら樹幹が濡れるように如雨露にて500mlを散水した。

対象病害虫名 ナメクジ類(チャコウラナメクジ *Ambigolimax valentianus*)

試験場名 サンケイ化学株式会社(鹿児島)

3. 試験成績

供試薬剤	連供試 制虫数	散布 1 日後(11/9)						散布 3 日後(11/11)					
		生存虫数 (頭)		累積 死亡 虫数	不明 虫数	死亡率 (%)	登攀率(%) (対無処理比)	生存虫数 (頭)		累積 死亡 虫数	不明 虫数	死亡率 (%)	登攀率(%) (対無処理比)
		地上	樹上					地上	樹上				
251) マイキラー-L 400 倍 メタアルデヒド 10.0% Lot. No : 23-074K	I	10	0	0	9	1	100.0 (0.0)	0	0	9	1	100.0 (0.0)	0.0 (0.0)
	II	10	0	0	10	0		0	0	10	0		
	III	10	0	0	10	0		0	0	10	0		
	計	30	0	0	29	1		0	0	29	1		
対) マイキラー-L 200 倍 メタアルデヒド 10.0% Lot. No : 23-074K	I	10	0	0	10	0	100.0 (0.0)	0	0	10	0	100.0 (0.0)	0.0 (0.0)
	II	10	0	0	10	0		0	0	10	0		
	III	10	0	0	10	0		0	0	10	0		
	計	30	0	0	30	0		0	0	30	0		
無処理	I	10	7	3	0	0	0.0 66.7	3	7	0	0	0.0 77.8	
	II	10	1	7	0	2		2	6	0	2		
	III	10	1	8	0	1		1	8	0	1		
	計	30	9	18	0	3		6	21	0	3		

供試薬剤	連供試 制虫数	散布 7 日後(11/15)					登攀率(%) (対無処理比)	薬害 (1, 3, 7 日後)
		生存虫数 (頭)		累積 死亡 虫数	不明 虫数	死亡率 (%)		
		地上	樹上					
251) マイキラー-L 400 倍 メタアルデヒド 10.0% Lot. No : 23-074K	I	10	0	0	9	1	100.0 (0.0)	-
	II	10	0	0	10	0		-
	III	10	0	0	10	0		-
	計	30	0	0	29	1		
対) マイキラー-L 200 倍 メタアルデヒド 10.0% Lot. No : 23-074K	I	10	0	0	10	0	100.0 (0.0)	-
	II	10	0	0	10	0		-
	III	10	0	0	10	0		-
	計	30	0	0	30	0		
無処理	I	10	1	9	0	0	0.0 80.0	
	II	10	2	8	0	0		
	III	10	3	7	0	0		
	計	30	6	24	0	0		

4. 考察

無処理区においても食害が確認されなかったため、散布 1, 3, 7 日後の死亡率及び樹上部への登攀率により行った。

251) マイキラー-L 400 倍 BAA-

本剤の防除効果は、対照薬剤のマイキラー200 倍と比較して効果はほぼ同等であり、無処理区と比較して効果は高い。実用性は高いと考えられる。なお、薬害は認められなかった。

担当者氏名 青野聡司、赤坂奨斗

1. 試験目的 防除効果及び被害の検討

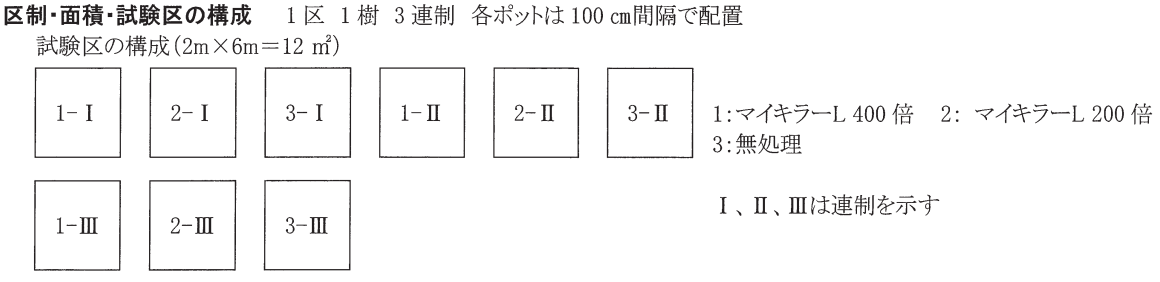
2. 試験方法 試験地場所 鹿児島県鹿児島市南栄 2 丁目 9 サンケイ化学株式会社 試験圃場

対象病害虫発生状況 多発生(放虫試験)

耕種概要

品種:宮川早生(カラタチ台木) 2 年生樹 樹高 50~60 cm ポット植え栽培(直径 15 cm 黒ポット使用) 施設栽培

土性:壤土 施肥、その他一般管理は慣行に準じた。 試験期間中の防除薬剤: なし



処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2024 年 5 月 7 日 (処理時の作物のステージ) 春枝伸長期

(処理方法) 供試薬剤を所定の希釈倍数に調製し、電池式噴霧器を用いて 0.5L/樹の割合で葉の表裏が十分に濡れるよう散布した。

(処理前後の降雨影響) 施設内で管理したため降雨の影響はなかった。

試験期間中の気象条件

ハウス内設置データロガー(2024 年 5 月 7 日~5 月 14 日)

月日	5/7	5/8	5/9	5/10	5/11	5/12	5/13	5/14
平均気温(℃)	21.9	20.9	20.6	22.9	23.7	20.9	23.1	25.2

調査月日・方法

(調査年月日) 2024 年 5 月 8 日 (処理 1 日後)、5 月 10 日 (処理 3 日後)、5 月 14 日 (処理 7 日後)

(調査方法) 各調査日に地上および樹上のチャコウラナメクジの生存状況を調査し、登攀率 (%) を求めた。

登攀率 (%) = (樹上の生存虫数/全生存虫数) × 100

葉害は葉の葉害症状を葉効調査時に以下の基準により肉眼で観察した。

－: 葉害を認めない。+: 軽微な葉害症状を認める。++: 中程度の葉害症状を認める。

+++ : 重度の葉害症状を認める。

その他

チャコウラナメクジは試験圃場周辺で採集した個体を散布 1 時間前に 1 区あたり 10 頭放飼した。

供試虫の逃亡を防ぐために不織布平袋 (50×60 cm) にて上から覆い、開口部を結束バンドにて固定した。

なお、調査は袋を外して行った。

供試樹においては果実の着生はなかった。また、葉におけるチャコウラナメクジの加害痕は認められなかった。

ナメクジの活動を促すために毎日朝 9 時に樹上よりなるべく葉へかからないよう配慮しながら、樹幹が濡れるように如雨露にて 500ml を散水した。散布 3 日後調査時に活動があまり認められなかったため、以降は朝 9 時に加え夕方 5 時にも如雨露にて散水した。

対象病害虫名 ナメクジ類(チャコウラナメクジ*Ambigolimax valentianus*)

試験場名 サンケイ化学株式会社 (鹿児島)

3. 試験成績

供試薬剤	連供試 制虫数	散布 1 日後 (5/8)						散布 3 日後 (5/10)					
		生存虫数 (頭)		累積 死亡 虫数	不明 虫数	死亡率 (%)	登攀率 (%) (対無処理比)	生存虫数 (頭)		累積 死亡 虫数	不明 虫数	死亡率 (%)	登攀率 (%) (対無処理比)
		地上	樹上					地上	樹上				
251) マイキラー-L 400 倍 メタアルデヒド 10.0% Lot. No : 25. 10-4J009K	I	10	5	0	5	0		1	0	9	0		
	II	10	9	0	1	0		2	0	8	0		
	III	10	10	0	0	0	20.0	6	0	4	0	70.0	0.0
	計	30	24	0	6	0	(0.0)	9	0	21	0	(0.0)	(0.0)
対) マイキラー-L 200 倍 メタアルデヒド 10.0% Lot. No : 25. 10-4J009K	I	10	9	0	1	0		1	0	9	0		
	II	10	10	0	0	0		0	0	10	0		
	III	10	10	0	0	0	3.3	4	0	5	1	82.8	0.0
	計	30	29	0	1	0	(0.0)	5	0	24	1	(0.0)	(0.0)
無処理	I	10	6	1	0	3		8	0	0	2		
	II	10	10	0	0	0		9	0	0	1		
	III	10	6	2	0	2	0.0	5	4	0	1	0.0	15.4
	計	30	22	3	0	5	12.0	22	4	0	4		

供試薬剤	連 制	供試 虫数	散布 7 日後 (5/14)						薬害 (1, 3, 7 日後)
			生存虫数 (頭)		累積 死亡 虫数	不明 虫数	死亡率 (%)	登攀率 (%) (対無処理比)	
			地上	樹上					
251) マイキラー-L 400 倍 メタアルデヒド 10.0% Lot. No : 23-074K	I	10	1	0	9	0	73.3	0.0 (0.0)	-
	II	10	2	0	8	0			-
	III	10	5	0	5	0			-
	計	30	8	0	22	0			
対) マイキラー-L 200 倍 メタアルデヒド 10.0% Lot. No : 23-074K	I	10	0	0	10	0	86.2	0.0 (0.0)	-
	II	10	0	0	10	0			-
	III	10	4	0	5	1			-
	計	30	4	0	25	1			
無処理	I	10	6	3	0	1	0.0	44.4	
	II	10	8	2	0	0			
	III	10	1	7	0	2			
	計	30	15	12	0	3			

4. 考察

無処理区においても食害が確認されなかったため、判定は散布1, 3, 7 日後の死亡率と散布 7 日後の樹上への登攀率の対無処理比により行った。

251) マイキラー-L 400 倍 CBB-

本剤の防除効果は、対照薬剤のマイキラー-L200 倍と比較してやや劣る効果であり、無処理と比較すると効果が認められた。実用性はあると考えられる。なお、薬害は認められなかった。

(2024) 年 度 委 託	作物名 (びわ)																																																			
対象病害虫名・学名 キジラミ類(ビワキジラミ)																																																				
試験場名 一般社団法人和歌山県植物防疫協会																																																				
担当者氏名 島津 康・下村 友季子(和果試)																																																				
1. 試験目的	防除効果及び被害の検討																																																			
2. 試験方法	試験地場所 海南市下津町笠畑 現地ほ場																																																			
対象病害虫発生状況	多発生																																																			
耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)																																																				
品種:茂木 樹齢:35年生、樹高:400cm、栽植距離:8m×8m、土性:埴壤土、露地栽培、施肥その他一般管理は慣行に準じた。																																																				
試験期間中の防除薬剤:なし																																																				
区制・面積・試験区の構成	1区 1樹 3反復																																																			
○ a-1 ○ b-1 ○ c-1 ○ a-2 ○ b-2 ○ c-2 ○ a-3 ○ b-3 ○ c-3 ← 8m → a:サイモディスDC 5,000倍、b:モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍、c:無処理 1、2、3は反復を示す。																																																				
処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響																																																				
(処理年月日) 2024年3月15日																																																				
(作物のステージ) 果実肥大期																																																				
(処理方法) 供試薬剤を所定の希釈倍数に調製し、1樹あたり約30L(10aあたり約600L)動力噴霧機を用いて散布した。																																																				
(試験期間中の降雨影響) 降雨の影響はなかった。																																																				
試験期間中の気象条件																																																				
<table><tr><th>月日</th><th>3月15日</th><th>3月16日</th><th>3月17日</th><th>3月18日</th><th>3月19日</th><th>3月20日</th><th>3月21日</th><th>3月22日</th><th>3月23日</th><th>3月24日</th><th>3月25日</th><th>3月26日</th><th>3月27日</th><th>3月28日</th><th>3月29日</th><th>3月30日</th></tr><tr><td>平均気温(℃)</td><td>10.9</td><td>14.1</td><td>13.1</td><td>11.5</td><td>13.6</td><td>15.2</td><td>15.6</td><td>10.3</td><td>9.9</td><td>13</td><td>13.4</td><td>13.8</td><td>13.7</td><td>16.6</td><td>16.3</td><td>16.4</td></tr><tr><td>降水量(mm)</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>2.5</td><td>30</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0.5</td><td>0</td><td>0</td><td>32</td><td>0</td><td>0</td></tr></table> アメダスデータ (和歌山市)		月日	3月15日	3月16日	3月17日	3月18日	3月19日	3月20日	3月21日	3月22日	3月23日	3月24日	3月25日	3月26日	3月27日	3月28日	3月29日	3月30日	平均気温(℃)	10.9	14.1	13.1	11.5	13.6	15.2	15.6	10.3	9.9	13	13.4	13.8	13.7	16.6	16.3	16.4	降水量(mm)	0	1	0	0	0	2.5	30	0	0	0	0.5	0	0	32	0	0
月日	3月15日	3月16日	3月17日	3月18日	3月19日	3月20日	3月21日	3月22日	3月23日	3月24日	3月25日	3月26日	3月27日	3月28日	3月29日	3月30日																																				
平均気温(℃)	10.9	14.1	13.1	11.5	13.6	15.2	15.6	10.3	9.9	13	13.4	13.8	13.7	16.6	16.3	16.4																																				
降水量(mm)	0	1	0	0	0	2.5	30	0	0	0	0.5	0	0	32	0	0																																				
調査月日・方法(月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)																																																				
(調査月日) 散布前(3月15日)、散布8日後(3月23日)、散布15日後(3月30日)																																																				
(調査方法) 1樹あたり3果房をマークし、散布前(3月15日)に果房に生息するビワキジラミ幼虫を計数した。散布8日後(3月23日)、15日後(3月30日)に果房に生息するビワキジラミ幼虫を計数し、補正密度指数を算出した。																																																				
被害は薬効調査時に果実および葉を対象に、被害症状の有無を以下の内容で肉眼により観察した。																																																				
-:被害を認めない。+:軽微な被害症状を認める。++:中程度の被害症状を認める。																																																				
+++ :重度の被害症状を認める。																																																				
その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期、詳細な方法を記載)																																																				
なし																																																				

対象病害虫名・学名 キジラミ類(ビワキジラミ)

試験場名 一般社団法人和歌山県植物防疫協会

3. 試 験 成 績

薬剤名	希釈 倍数	反復	ビワキジラミ幼虫の生息数 (頭/3果房)			薬害 (3/23、3/30)
			散布前 (3/15)	散布8日後 (3/23)	散布15日後 (3/30)	
106) サイモディスDC イソシクロセラム9.3% Lot. 10593	5,000	1	325	35	48	-
		2	264	31	47	-
		3	282	56	98	-
		計	871	122	193	
		補正密度指数		15.6	23.5	
対) モスピラン顆粒水溶剤 アセタミプリド20.0%	2,000	1	192	18	13	-
		2	180	34	14	-
		3	275	21	40	-
		計	647	73	67	
		補正密度指数		12.5	11.0	
無処理		1	180	152	153	
		2	193	177	218	
		3	218	203	186	
		計	591	532	557	

4. 考 察

散布 8、15 日後の補正密度指数により判定を行った。

106) サイモディス DC CBB-

本剤の 5,000 倍液散布は、対照のモスピラン顆粒水溶剤 2,000 倍液散布と比較して効果がやや劣り、無処理に対して効果があった。実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

対 象 病 害 虫 名 ビワキジラミ (*Cacopsylla biwa*)

試験場名 香川県農業試験場府中果樹研究所

担当者氏名 秋山晃輝、生咲 巖

1. 試験目的 (依頼事項) 防除効果及び葉害の検討

2. 試験方法 試験地場所 香川県坂出市府中町 香川県農業試験場府中果樹研究所内圃場

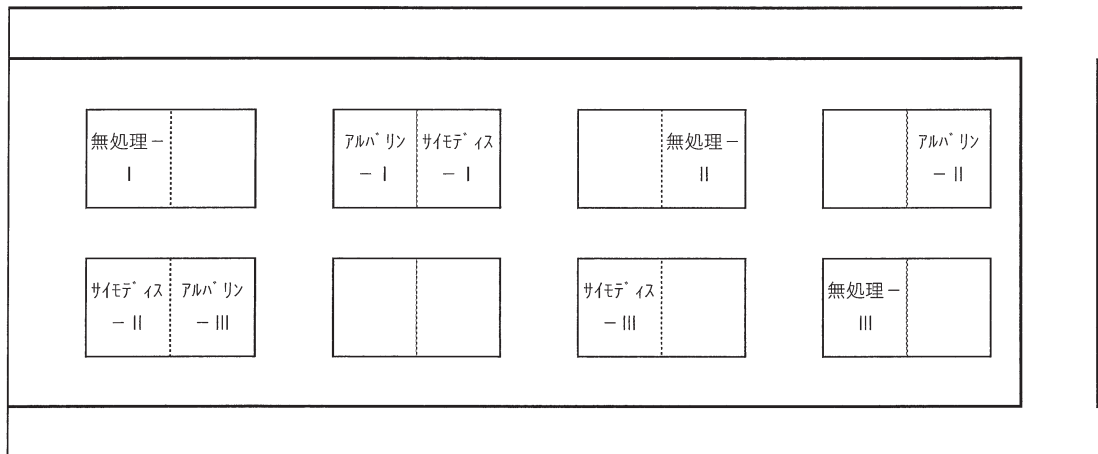
対象病害虫発生状況 中発生

耕種概要(品種・施肥・一般管理) 品種: 茂木 29 年生 露地栽培 施肥その他一般管理は慣行に準じた。
植栽距離: 6.5m×6.5m 土性: 埴壤土
試験期間中の防除薬剤: なし

区制・面積・試験区の構成 1区 半樹 3反復 (Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで示す)

試験区の構成

Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは反復を示す



処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2024 年 3 月 29 日

(処理方法) 花カスを取り除き、2果に調整した後に薬剤を動力噴霧機で半樹あたり 12L 散布した。薬剤には展着剤まくびか 5,000 倍を加用した。薬剤散布後に葉液が乾いたのを確認して直ちに袋掛けを行った。

(処理前後の降雨) 3 月 29 日は処理の 10 時間前に降雨があったが、散布時に植物体は乾いており降雨による効果への影響はなかった。

期 日	3/16	3/17	3/18	3/19	3/20	3/21	3/22	3/23	3/24	3/25	3/26	3/27	3/28	3/29	3/30	3/31
平均気温 (°C)	13.9	11.9	9.3	9.2	7.1	5.9	7.0	9.7	11.0	11.9	10.3	10.3	12.2	16.8	17.4	18.3
降水量 (mm)	0.0	8.5	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	9.0	24.0	10.0	13.5	0.0	4.5	2.5	0.0	0.0

期 日	4/1	4/2	4/3	4/4	4/5	4/6	4/7	4/8	4/9	4/10	4/11	4/12	4/13	4/14	4/15
平均気温 (°C)	10.1	8.1	10.4	13.3	12.5	16.4	16.0	16.1	16.8	17.7	17.1	19.1	19.8	17.6	14.7
降水量 (mm)	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.5	3.0

期 日	4/16	4/17	4/18	4/19	4/20	4/21	4/22	4/23	4/24	4/25	4/26	4/27	4/28	4/29	4/30
平均気温 (°C)	13.8	13.8	16.1	17.3	17.8	15.5	19.0	20.0	17.0	19.8	20.9	20.2	18.5	15.3	14.6
降水量 (mm)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.0	0.0	0.0	7.0	0.0	18.0	3.5	0.0	15.5	0.0

期 日	5/1	5/2	5/3	5/4	5/5	5/6	5/7	5/8	5/9	5/10	5/11	5/12	5/13	5/14	5/15
平均気温 (°C)	16.0	15.7	15.2	17.2	18.4	20.2	21.3	18.5	15.1	17.2	18.6	18.8	18.7	19.9	17.0
降水量 (mm)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.5	10.0	17.0	4.5	0.0

期 日	5/16	5/17	5/18	5/19	5/20	5/21	5/22	5/23	5/24	5/25	5/26	5/27	5/28	5/29	5/30	5/31
平均気温 (°C)	18.4	18.1	21.6	21.3	17.3	20.7	19.4	21.1	23.3	21.5	21.4	23.2	18.6	20.1	20.5	18.0
降水量 (mm)	0.0	0.0	0.0	5.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	34.0	85.5	0.0	0.0	2.5

期 日	6/1	6/2	6/3	6/4	6/5	6/6
平均気温 (°C)	20.6	22.0	20.5	20.4	21.4	20.9
降水量 (mm)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

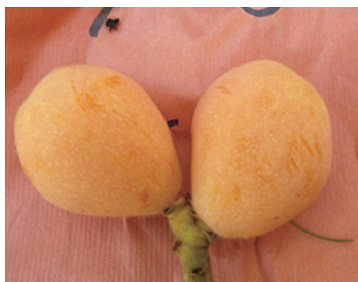
観測地点: 香川県高松のアメダスデータ

調査月日・方法

(調査月日) 効果試験:6月6日(散布 69 日後) 薬害試験:6月6日(散布 69 日後)

(調査方法) 各区 43~53 果についてビワキジラミの老廃物の有無を確認し、下記の基準に従って程度別に調査し、被害果率、被害度を算出した。

被害指数 0:被害なし、1:果柄付近のみの被害で果皮にほとんど被害がない、5:果皮に被害が見られる

被害度 = $[\sum (\text{被害指数} \times \text{果数}) / (5 \times \text{調査果数})] \times 100$ 

0:被害なし



1:果柄付近のみの被害で果皮にほとんど被害がない



5:果皮に被害が見られる

薬害は果実を対象に肉眼により、薬害症状の有無を以下の内容で観察した。

- :薬害を認めない + :軽微な薬害症状を認める ++ :中程度の薬害症状を生じる

+++ :重度の薬害症状を認める

その他

3. 試 験 成 績

供 試 薬 剤	希釈倍数	反復	調査果数	程度別被害果数			被害果率	被害度	防除価	薬害 (6/6)
				0	1	5				
106) サイモディス D C イソクロセラム 9.3% Lot.No.HWI002-041-002	5,000倍	I	44	43	1	0	2.3	0.5		-
		II	48	41	6	1	14.6	4.6		-
		III	43	43	0	0	0	0		-
		平均					5.6	1.7	87.9	
対) アルバリン顆粒水溶剤 ジノテフラン 20.0%	2,000倍	I	46	44	2	0	4.3	0.9		-
		II	52	49	2	1	5.8	2.7		-
		III	51	47	2	2	7.8	4.7		-
		平均					6.0	2.8	80.1	
無 処 理		I	51	41	5	5	19.6	11.8		-
		II	53	38	7	8	28.3	17.7		-
		III	53	39	9	5	26.4	12.8		-
		平均					24.8	14.1	-	

防除価は被害度から算出した

4. 考 察

収穫時の無処理区の被害果率が 24.8% で中発生となった。

106) サイモディス DC 5,000 倍散布 (BBB-)

本剤の 5,000 倍は、対照のアルバリン顆粒水溶剤 2,000 倍と比べて同等の防除効果であり、無処理と比べて防除効果が認められた。実用性はあると考えられた。薬害は認められなかった。

対象病害虫名・学名 ハマキムシ類(チャノコカクモンハマキ)

試験場名 静岡県農林技術研究所 果樹研究センター

担当者氏名 鈴木晴喜

1. 試験目的 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 静岡県静岡市清水区茂畑 静岡県農林技術研究所 果樹研究センター

対象病害虫発生状況 多発生(放虫)

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

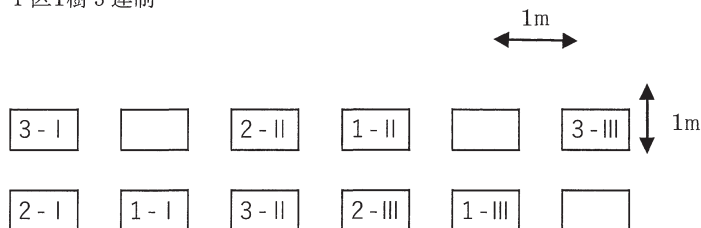
品種:ヘイワード 60L 鉢植え 9年生 樹高:2.0m 栽植距離:1.5m×1.5m 土性:埴壤土 露地栽培

施肥その他一般管理は慣行に準じた。

試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積・試験区の構成

1 区1樹3 連制



1:NNI-2101SC100 2:フェニックスフロアブル 3:無処理

I II IIIは連制を示す。

処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 令和6年5月 30 日

(処理時の作物のステージ) 落花期

(処理方法) バッテリー式噴霧器を用いて 600L/樹の水量で作物全体が十分に濡れるように散布した。展着剤は使用しなかった。薬剤散布後は薬液が乾いた後、ゴース袋を再度被覆した。

(処理前後の降雨影響) 処理後に降雨はなかった。

試験期間中の気象条件

対象病害虫名・学名 ハマキムシ類(チャノコカクモンハマキ)

試験場名 静岡県農林技術研究所 果樹研究センター

月日	5/24	5/25	5/26	5/27	5/28	5/29	5/30
平均気温 (°C)	20.4	19.9	19.2	19.0	21.8	20.6	21.0
降水量 (mm)	0.0	0.0	0.0	7.0	94.0	0.5	0.0

月日	5/31	6/1	6/2	6/3	6/4	6/5	6/6
平均気温 (°C)	18.5	19.8	18.3	18.2	18.9	19.3	20.2
降水量 (mm)	12.0	5.5	53.5	0.5	1.0	0.5	0.0

観測地点: 静岡市清水区茂畑

調査月日・方法(月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 薬効試験: 6月6日(処理7日後)

薬害試験: 6月2日(処理3日後)、6月6日(処理7日後)

(調査方法) 薬効はゴース袋を外した後、各区卵塊を放虫した4新梢の生存虫数を調査した。

薬害は、枝葉を対象に、各調査時に肉眼により観察し、薬害症状を下記の基準に従って程度別に調査した。

ー: 薬害を認めない。+: 軽微な薬害症状を認める。++: 中程度の薬害症状を認める。+++ : 重度の薬害症状を認める。

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期、詳細な方法を記載)

当該圃場では自然発生が認められなかったため、5月24日(処理6日前)に各区任意の4新梢を選び、各新梢の頂葉を束ねた中に孵化直前のチャノコカクモンハマキの卵塊(1986年に大阪府富田林市の茶で採集し累代飼育した個体と、直近で2022年に静岡県磐田市の茶園で採集し累代飼育した個体を2024年4月に交配した個体群)を3個接種し、ゴース袋(40cm×30cm)で包んだ。定着を確認した後、ゴース袋を外して薬剤処理を行った。

3. 試 験 成 績

対象病害虫名・学名 ハマキムシ類(チャノコカクモンハマキ)

試験場名 静岡県農林技術研究所 果樹研究センター

供試薬剤 Lot.No.	処理方法	連制	生息虫数					薬害 5/27,6/6
			接種卵塊数	処理 7 日後				
			5 月 24 日	6 月 6 日				
			卵塊数	若 齢	中 齢	老 齢	計	
41) NNI-2101 SC100 新規化合物 100g/L Lot.No.019-320015	5,000倍 散布	I	12	13	0	0	13	－
		II	12	4	0	0	4	－
		III	12	11	0	0	11	－
		計	36	28	0	0	28	
		(密度指数)					(9.8)	
対) フェニックスフロアブル フルベンジアミド 18.0%	4,000倍 散布	I	12	9	2	0	11	－
		II	12	3	0	0	3	－
		III	12	27	1	0	28	－
		計	36	39	3	0	42	
		(密度指数)					(14.6)	
無処理		I	12	69	0	0	69	－
		II	12	25	0	0	25	－
		III	12	180	13	0	193	－
		計	36	274	13	0	287	
		(密度指数)					(100)	

4. 考察

実用性は、処理7日後の生息虫数(密度指数)により判定した。

41) NNI-2101 SC100 5,000 倍 散布 BAA-

本処理は、対照処理のフェニックスフロアブル 4,000 倍散布と比較してほぼ同等の効果であり、無処理区と比較して高い効果が認められた。実用性は高いと考えられる。

薬害は認められなかった。

対 象 病 害 虫 名 ハマキムシ類(チャノコカクモンハマキ)

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会 山梨試験場 担当者氏名 丸山直哉、生田目直樹、杖田浩二

1. 試 験 目 的 (依 頼 事 項) 防除効果および葉害の検討

2. 試 験 方 法 試験地場所 山梨県甲州市塩山牛奥 現地農家圃場

対 象 病 害 虫 発 生 状 況 多発生(放虫)

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土性条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:ヘイワード 樹齢:37 年生 樹高:1.8m 棚仕立て 露地栽培

施肥、その他一般管理は現地慣行に準じた。 土性:不明

試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積・試験区の構成 1 区 7.5 m²(2.5m×3.0m) 3 連制

1- I	2- I	3- I	4- I	1:NNI-2101 SC100 2:グレーシアフロアブル 3:フェニックスフロアブル 4:無処理
3- II	4- II	1- II	2- II	
2- III	3- III	4- III	1- III	I、II、IIIは連制を示す

処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2024 年 5 月 27 日 (処理量) 270L/10a (作物のステージ) 落花期

(処理方法) 背負い式バッテリー噴霧機(MSB1500Li)を用いて、作物全体が十分に濡れるよう散布した。展着剤は加用しなかった。

(処理前後の降雨) 処理前後に降雨はなく、試験に対する影響はなかった。

試験期間中の気象条件

月 日	5/24	5/25	5/26	5/27	5/28	5/29	5/30
平均気温(℃)	22.6	20.6	18.4	19.5	21.0	22.3	22.1
降水量(mm)	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0

月 日	5/31	6/1	6/2	6/3	6/4	6/5	6/6	6/7
平均気温(℃)	17.4	19.5	17.7	18.4	18.8	20.4	21.5	21.4
降水量(mm)	39.5	1.5	9.5	29.5	0.5	0.0	0.0	0.0

山梨県勝沼アメダスデータより

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、葉害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 薬効試験:6 月 7 日(処理 11 日後)

薬害試験:5 月 30 日(処理 3 日後)および 6 月 7 日(処理 11 日後)

(調査方法) 薬効は各区卵塊を放虫した 5 新梢の被害葉数および生存幼虫数を調査した。

薬害は、茎葉および果実を対象に、各調査時に肉眼により観察し、薬害症状を下記の基準に従って程度別に調査した。

ー:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。+++ :重度の薬害症状を認める。

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

当該は場では自然発生が認められなかったため、5 月 24 日(処理 3 日前)に各区任意の 5 新梢を選び、各新梢の頂葉を束ねた中にふ化直前の卵塊(日産化学株式会社提供虫:静岡大学<静岡県焼津市>の茶畑にて 2008 年と 2009 年に採集し掛け合わせた系統)を 1 個接種し、定着・食害を確認した後、薬剤処理を行った。接種した卵塊には 50 個程度の卵があった。

3. 試験成績

薬効薬害調査

供試薬剤	処理方法	連制	5新梢あたりの合計値 処理11日後 6/7					薬害
			被害葉数	生存虫数			合計	5/30,6/7
				若齢	中齢	老齢		
41) NNI-2101 SC100 新規化合物 100g/L Lot No.124-420015	5000倍 散布	I	7	6	0	0	6	-
		II	8	2	0	0	2	-
		III	10	4	0	0	4	-
		合計	25	12	0	0	12	
		(対無処理比)	(73.5)	[密度指数]			[5.4]	
99) グレーシアフロアブル フルキサメタクト 10.0% Lot No.OCL020	4000倍 散布	I	10	7	2	0	9	-
		II	8	5	2	0	7	-
		III	11	14	11	0	25	-
		合計	29	26	15	0	41	
		(対無処理比)	(85.3)	[密度指数]			[18.3]	
対) フェニックスフロアブル フルベンジアクト 18.0%	4000倍 散布	I	10	13	0	0	13	-
		II	11	7	0	0	7	-
		III	12	30	9	0	39	-
		合計	33	50	9	0	59	
		(対無処理比)	(97.1)	[密度指数]			[26.3]	
無処理	—	I	12	57	10	0	67	
		II	12	47	21	0	68	
		III	10	59	30	0	89	
		合計	34	163	61	0	224	
		(対無処理比)	(100)	[密度指数]			[100]	

4. 考 察 (判定した時期、判定記号を記載)

本試験における実用性の判定は、処理 11 日後の生存虫数の密度指数より行った。

41) NNI-2101 SC100 5000 倍 散布 AAA-

本剤の 5000 倍散布は、対照のフェニックスフロアブル 4000 倍散布にまさる防除効果を示し、無処理に比べて高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。

薬害は認められなかった。

99) グレーシアフロアブル 4000 倍 散布 ABB-

本剤の 4000 倍散布は、対照のフェニックスフロアブル 4000 倍散布にまさる防除効果を示し、無処理に比べて防除効果が認められた。実用性はあると考えられる。

薬害は認められなかった。

対 象 病 害 虫 名 ハマキムシ類(チャノコカクモンハマキ)

試験場名 福岡県農林業総合試験場

担当者氏名 清水信孝

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 福岡県筑紫野市大字吉木(試験場内)

対 象 病 害 虫 発 生 状 況 少発生(放虫)

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:「へイワード」 10 年生 露地栽培 一文字仕立 樹間:5m 樹高 1.8m 施肥その他一般管理は県内慣行に準じた。

土性:砂壤土 試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積 1区 1/4 樹(約 5 m²) 3 連制

4-III	1-III	3-II	2-II	4-I	1-I
3-III	2-III	4-II	1-II	3-I	2-I

1 グレーシアフロアブル 2 NNI-2101SC100 3 フェニックスフロアブル 4 無処理

I ~ III は連制を示す

処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2024 年 5 月 22 日 (作物のステージ) 新梢伸長期

(処理方法) 蓄圧式噴霧器を用いて、1.5L/区を散布した。薬剤散布後は薬液が風乾したのを確認し、ゴース袋を再度被覆した。

(処理前後の降雨) 降雨による試験への影響はなかった。

試験期間中の気象条件

月/日	5/22	5/23	5/24	5/25	5/26	5/27	5/28	5/29
平均気温(°C)	21.4	23.0	22.0	21.5	23.9	22.5	17.2	19.1
降水量(mm)	0	0	0	0	24.0	17.5	31.0	0

観測地点:福岡県太宰府市のアメダスデータ

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 薬効試験:5 月 29 日(散布 7 日後)

薬害試験:5 月 24 日(散布 2 日後)、5 月 29 日(散布 7 日後)

(調査方法)ゴース袋を外して生存幼虫数を計数した。薬害は枝葉と花・幼果を対象として肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で観察した。

-:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。+++ :重度の薬害症状を認める。

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

供試虫は 1986 年に大阪府富田林市内の茶園より採集し累代、直近で 2022 年に静岡県磐田市の茶園で採集し累代した個体と 2024 年 4 月に交配したもの。2024 年 5 月 20 日(散布 2 日前)に重ねた葉の間に孵化直前の卵塊を 1 卵塊ずつ、区当たり 10 卵塊を虫ピンで固定して接種し、捕食者からの加害を防ぐためゴース袋(約 40×55cm)で包んだ。

対 象 病 害 虫 名 ハマキムシ類(チャノコカクモンハマキ)

試験場名 福岡県農林業総合試験場

3. 試 験 成 績

	供試薬剤名 有効成分名・量	希釈倍率	連制	接種した 卵塊数	生存幼虫数	薬害 5/24,29
					5/29(散布7日後)	
41)	NNI-2101SC100 新規化合物 100g/L Lot.No. 124-420015	5,000倍	I	10	0	—
			II	10	0	—
			III	10	0	—
			計	30	0	
			対無処理比		0	
99)	グレーシアフロアブル フルキサメタミド 10.0% Lot.No. 25.04-OBFO10	4,000倍	I	10	0	—
			II	10	0	—
			III	10	0	—
			計	30	0	
			対無処理比		0	
対)	フェニックスフロアブル フルベンジアミド 18.0%	4,000倍	I	10	0	—
			II	10	1	—
			III	10	0	—
			計	30	1	
			対無処理比		2.5	
無処理			I	10	11	
			II	10	9	
			III	10	20	
			計	30	40	
			対無処理比		100	

4. 考 察

実用性の判定は散布 7 日後の生存幼虫数(対無処理比)で行った。

41) NNI-2101SC100 5,000 倍散布 BAA-

対照薬剤のフェニックスフロアブル 4,000 倍散布と比較して同等の効果を示し、無処理区と比較して高い防除効果が認められたことから、実用性は高いと思われる。薬害は認められなかった。

99) グレーシアフロアブル 4,000 倍散布 BAA-

対照薬剤のフェニックスフロアブル 4,000 倍散布と比較して同等の効果を示し、無処理区と比較して高い防除効果が認められたことから、実用性は高いと思われる。薬害は認められなかった。

対象病虫害名 コガネムシ類 成虫 (マメコガネ)

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会 山梨試験場

担当者氏名 丸山直哉、生田目直樹、杖田浩二

1. 試験目的 (依頼事項) 防除効果および薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 山梨県甲州市塩山牛奥 現地農家圃場

对象病虫害发生状况 多发生(放虫)

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土性条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:ヘイワード 樹齡:37年生 樹高:1.8m 棚仕立て 露地栽培

施肥、その他一般管理:現地慣行に準じた。土性:不明

試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積・試験区の構成 1区 7.5 m²(2.5m×3.0m) 3連制

3-III	
2-III	1-III
1-II	3-II
3-I	2-II
2-I	1-I

1:OAT-1408 SC
2:コテツフロアブル
3:無処理
I、II、IIIは連制を示す

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2024 年 7 月 4 日 (処理量) 約 300L/10a (作物のステージ) 果実肥大期

(処理方法) 背負い式バッテリー噴霧機(MSB1500Li)を用いて、作物全体が十分に濡れるよう散布した。展着剤は加用しなかった。

(処理前後の降雨) 処理前後に降雨はなく、試験に対する影響はなかった。

試験期間中の気象条件

月日	7/4	7/5	7/6	7/7	7/8	7/9	7/10	7/11	7/12	7/13	7/14
平均气温(℃)	29.1	28.7	27.6	29.7	26.9	24.4	25.7	24.7	22.0	24.6	25.5
降水量(mm)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	7.5	0.0	0.0

山梨県勝沼アメダスデータより

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 7月8日(処理1日後放虫の3日後)および7月14日(処理7日後放虫3日後)

(調査方法) 虫数調査: 各区、放虫した3ヶ所につき、生存、死亡の虫数を調査し、下式にて補正死虫率を算出した。

$$\text{補正死虫率} = (\text{処理区の死虫率} - \text{無処理区の死虫率}) / (100 - \text{無処理区の死虫率}) \times 100 \geq 0$$

被害調査:各区の放虫した3新梢(区あたり18葉)の食害を、下記の基準により程度別に調査し食害度を算出した。

A:被害面積 1%~10%

B:被害面積 11%~30%

C:被害面積 31%以上

N:調査葉数

$$\text{食害度} = \frac{(A + 3B + 6C)}{6N} \times 100$$

薬害は、各放虫時および各調査時に茎葉と果実を対象として、薬害症状を下記の基準に従って程度別に調査した。

－：薬害を認めない。＋：軽微な薬害症状を認める。++：中程度の薬害症状を認める。+++：重度の薬害症状を認める。

その他（特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載）

7月5日(処理1日後)および7月11日(処理7日後)に次の方法で放虫した。区あたり新梢を任意に3枝選び、それぞれの新梢を虫の被害のない6葉に調整してテトラゴース製の袋(85×30cm)で覆い、その中に5頭のマメコガネの成虫を放虫した(15頭/区)。供試虫の由来は2024年7月上旬に山梨県北杜市高根町で自然発生した虫を採集してぶどう葉を与えて飼育した個体群とした。

対 象 病 害 虫 名 コガネムシ類 成虫 (マメコガネ)

試験場名 (一社)日本植物防疫協会 山梨試験場

3. 試験成績

薬効薬害調査 (虫数)

供試薬剤	処理方法	連制	放虫数	虫数(3ヶ所あたり合計値)				薬害
				処理1日後放虫の3日後(7/8)		処理7日後放虫の3日後(7/14)		
				生存虫数	死亡数	生存虫数	死亡数	
51) OAT-1408 SC 既知化合物 20.0% Lot.No.24I-5049	2000倍 散布	I	15	0	15	2	13	-
		II	15	0	15	4	11	-
		III	15	0	15	5	10	-
		計	45	0	45	11	34	
		(死虫率)			(100)		(75.6)	
		(補正死虫率)			(100)		(75.6)	
対) コテツフロアブル クロルフェナピル 10.0%	2000倍 散布	I	15	2	13	8	7	-
		II	15	0	15	8	7	-
		III	15	0	15	7	8	-
		計	45	2	43	23	22	
		(死虫率)			(95.6)		(48.9)	
		(補正死虫率)			(93.4)		(48.9)	
無処理	-	I	15	11	4	15	0	
		II	15	7	8	15	0	
		III	15	12	3	15	0	
		計	45	30	15	45	0	
		(死虫率)			(33.3)		(0)	
		(補正死虫率)						

薬効調査 (食害)

供試薬剤	処理方法	連制	調査葉数	18葉あたりの程度別被害									
				処理1日後放虫の3日後(7/8)					処理7日後放虫の3日後(7/14)				
				程度別被害葉数				※食害度	程度別被害葉数				※食害度
				0	A	B	C		0	A	B	C	
51) OAT-1408 SC	2000倍 散布	I	18	16	2	0	0	1.9	14	4	0	0	3.7
		II	18	18	0	0	0	0	16	1	1	0	3.7
		III	18	15	3	0	0	2.8	16	2	0	0	1.9
		計	54	49	5	0	0	(平均)1.6	46	7	1	0	(平均)3.1
	(対無処理比)						(4.4)					(15.7)	
対) コテツフロアブル	2000倍 散布	I	18	8	6	3	1	19.4	14	4	0	0	3.7
		II	18	10	7	1	0	9.3	9	7	2	0	12.0
		III	18	12	4	2	0	9.3	15	2	1	0	4.6
		計	54	30	17	6	1	(平均)12.7	38	13	3	0	(平均)6.8
	(対無処理比)						(34.9)					(34.5)	
無処理	-	I	18	8	6	2	2	22.2	9	5	4	0	15.7
		II	18	4	8	2	4	35.2	8	7	2	1	17.6
		III	18	2	5	5	6	51.9	6	4	8	0	25.9
		計	54	14	19	9	12	(平均)36.4	23	16	14	1	(平均)19.7
	(対無処理比)						(100)					(100)	

※食害度: Σ (程度別被害葉数 × 食害指数) ÷ (総調査葉数 × 6) × 100 指数 0:0、A:1、B:3、C:6

4. 考 察

実用性の判定は、処理 1、7 日後放虫の各 3 日後の生存虫数(補正死虫率)および葉の食害度(対無処理比)より行った。

51) OAT-1408 SC 2000 倍 散布 ABB-

本剤の 2000 倍散布は、対照のコテツフロアブル(2000 倍)にまさる防除効果を示し、無処理に比べて防除効果が認められた。実用性はあると考えられる。

薬害は認められなかった。

担当者氏名 上田 衛

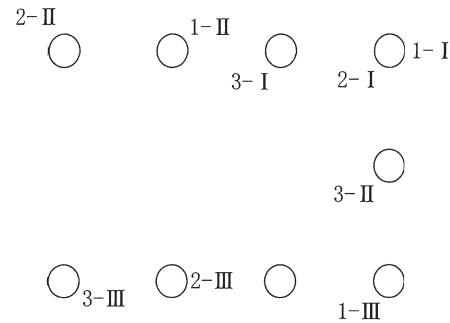
1. 試験目的 防除効果及び被害の検討
2. 試験方法 試験地場所 滋賀県甲賀市甲賀町和田武蔵 179 番地 1 油日アグリサーチ(株) 武蔵山研究農場
- 対象病害虫発生状況 多発生(放虫)

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:ヘイワード 樹齢:14 年生 棚仕立て 樹高:約 2m 栽植距離:7m×7m 土性:砂質埴壌土 露地栽培

試験期間中の防除薬剤:なし 施肥その他一般管理は慣行に準じた。

区制・面積・試験区の構成 1 区 1 主枝 3 連制



1:OAT-1408 SC 2:コテツフロアブル 3:無処理区 I II IIIは連制を示す。

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

- (処理年月日) 2024 年 4 月 26 日
- (処理時の作物のステージ) 新梢伸長期
- (処理方法) 供試薬剤を所定の希釈倍数に調製し、1.7L/主枝(200L/10a)の割合で葉の表裏が十分濡れるようにバッテリー式噴霧器を用いて散布した。
- (処理前後の降雨影響) 試験に影響する降雨はなかったと思われる。

試験期間中の気象条件

月日	4/26	4/27	4/28	4/29	4/30	5/1	5/2	5/3	5/4	5/5	5/6	5/7
平均気温(℃)	16.1	17.0	19.2	17.2	18.0	13.0	13.6	15.6	17.8	18.3	18.2	17.5
降水量(mm)	0.0	0.5	0.0	2.1	8.6	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	4.4	16.8

観測地点:油日アグリサーチ(株) 武蔵山研究農場常設観測機器

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

- (調査月日)
- 薬効:処理 6 日後(放虫 4 日後、5 月 2 日)、同 11 日後(放虫 5 日後、5 月 7 日)
- 薬害:処理 2 日後(4 月 28 日)、同 6 日後(5 月 2 日)、同 11 日後(5 月 7 日)
- (調査方法)
- 死虫率および被害程度:各区の成虫の生存、苦悶、死亡虫数を調査し補正死虫率を算出した。また、放虫した箇所の新梢の葉の被害を下記の基準に従って程度別に調査し、下記の計算式により被害度を算出した。
- 死虫率=(苦悶虫数+死虫数)/放虫数×100
- 補正死虫率=(処理区の死虫率－無処理区の死虫率)/(100－無処理区の死虫率)×100≥0
- 葉の被害程度:0 被害なし A 被害面積 1～10% B 被害面積 11～30% C 被害面積 31%以上
- 被害度=(N_A+3N_B+6N_C)/6N×100
- 薬害:葉および花を対象として、薬害症状を以下の基準により肉眼で観察した。
- －:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。+++ :重度の薬害症状を認める。

対象病害虫名 コガネムシ類成虫(ヒラタアオコガネ)

試験場名 油日アグリサーチ株式会社

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期、詳細な方法を記載)

放虫は処理2日後(4月28日)と同6日後(5月2日)の2回実施し、ヒラタアオコガネをそれぞれ異なる新梢に供試した。供試虫は社内圃場内のりんごに寄生している個体を採集し試験に用いた。成虫5頭を入れたネット袋(60cm×50cm)を1主枝あたり、処理2日後は3箇所、同6日後は2箇所(新梢1本あたり葉15枚程度)に被せることで放虫した。

3. 試験成績

表1. 死虫数

供試薬剤	希釈倍数 処理方法	連制	処理 6 日後・放虫 4 日後(5/2)					処理 11 日後・放虫 5 日後(5/7)			
			放虫数	生存	苦悶	死亡	不明	放虫数	生存	苦悶	死亡
51) OAT-1408 SC 既知化合物 20.0% Lot No. 24I-5049	2000 倍 散布	I	15	1	9	5	0	10	1	1	8
		II	15	0	9	5	1	10	3	1	6
		III	15	9	3	3	0	10	1	0	9
		計	45	10	21	13	1	30	5	2	23
		(死虫率(%))	(75.6)					(83.3)			
		(補正死虫率(%))	(73.2)					(77.2)			
対照) コテツフロアブル クロルフェナピル 10.0%	2000 倍 散布	I	15	10	1	4	0	10	3	0	7
		II	15	0	0	15	0	10	7	1	2
		III	15	0	0	15	0	10	2	0	8
		計	45	10	1	34	0	30	12	1	17
		(死虫率(%))	(77.8)					(60.0)			
		(補正死虫率(%))	(75.6)					(45.4)			
無処理	—	I	15	13	0	2	0	10	8	0	2
		II	15	14	0	1	0	10	7	1	2
		III	15	14	0	1	0	10	7	0	3
		計	45	41	0	4	0	30	22	1	7
		(死虫率(%))	(8.9)					(26.7)			
		(補正死虫率(%))	(0)					(0)			

対象病害虫名 コガネムシ類成虫(ヒラタアオコガネ)

試験場名 油日アグリサーチ株式会社

表 3. 薬害

供試薬剤	希釈倍数 処理方法	連制	薬害		
			処理 2 日後	処理 6 日後	処理 11 日後
			4/28	5/2	5/7
51) OAT-1408 SC	2000 倍 散布	I	—	—	—
		II	—	—	—
		III	—	—	—
対照) コテツフロアブル	2000 倍 散布	I	—	—	—
		II	—	—	—
		III	—	—	—
無処理	—	I			
		II			
		III			

4. 考 察

実用性の判定は、処理 6 日後、11 日後の被害度の対無処理比を基に行った。なお 5 月 5 日に強風が吹き、その際に調査樹が被害を受けたと思われたが、評価には影響はないと思われる。

51) OAT-1408 SC 2000 倍 散布 ABB-

本処理は、対照処理と比較して防除効果が優り、無処理と比較して防除効果が認められた。実用性はあると考えられる。

薬害は認められなかった。

対 象 病 害 虫 名 コガネムシ類成虫(ドウガネブイブイ)

試験場名 福岡県農林業総合試験場

担当者氏名 清水信孝・海口直弥

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 福岡県筑紫野市大字吉木(試験場内)

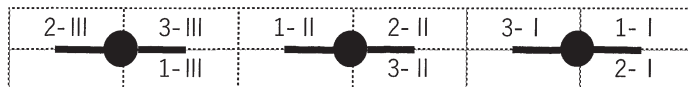
対象病害虫発生状況 多発生(放虫)

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:「ヘイワード」10年生 露地栽培 一文字仕立 樹間:5m 樹高1.8m 施肥その他一般管理は県内慣行に準じた。

土性:砂壤土 試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積 1区1/4樹(約5㎡)3連制



1 OAT-1408SC 2 コテツ707フル 3 無処理

I～IIIは連制を示す

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2024年6月9日 (作物のステージ) 新梢伸長期

(処理方法) 蓄圧式噴霧器を用いて、1.5L/区を散布した。

(処理前後の降雨) 薬剤散布当日の4～8時に7.5mmの降雨が認められたため、薬剤散布は枝葉が乾いたのを確認した14時に行った。同日19～20時に5.5mmの降雨が認められたが、薬液が乾いた後であり、降雨による試験への影響はなかったと思われる。

試験期間中の気象条件

月/日	6/9	6/10	6/11	6/12	6/13	6/14	6/15	6/16	6/17	6/18	6/19	6/20
平均気温(℃)	21.8	23.9	24.6	25.4	26.4	26.6	26.7	25.8	22.7	23.3	25.5	21.9
降水量(mm)	13.0	0	0	0	0	0	0	0	50.5	17.0	0	45.5

観測地点:福岡県太宰府市のアメダスデータ

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 薬効試験:6月13日(散布4日後)、6月20日(散布11日後)

被害試験:6月10日(散布1日後)、6月13日(散布4日後)、6月17日(散布8日後)、6月20日(散布11日後)

(調査方法) 薬効調査:上記調査日に供試虫の生死を調査した。なお、正常な行動を示さない個体については異常虫とし、死亡数に含めて計数した。併せて、たまねぎネットで被覆した全葉について下記の基準により程度別に調査し、被害度を算出した。

被害程度別基準

甚(D):被害面積率50%以上

多(C):被害面積率30～50%

中(B):被害面積率11～30%

少(A):被害面積率10%以下

無(0):被害なし

調査葉数(N) ※被害度=100×(NA+2NB+3NC+4ND)/4N

被害調査:上記調査日に枝葉と幼果を対象に肉眼で被害症状の有無を以下の内容で観察した。

－:被害を認めない。+:軽微な被害症状を認める。++:中程度の被害症状を認める。+++ :重度の被害症状を認める。

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

供試虫は、2024年6月に福岡県農林業総合試験場内に設置したフェロモントラップで採集したドウガネブイブイ成虫。6月10日(散布1日後)、6月17日(同8日後)、に新梢をたまねぎネット(10kg用、35×65cm)で覆い、その中にドウガネブイブイ成虫を雌雄区別せずに5頭ずつ放虫した。

対 象 病 害 虫 名 コガネムシ類成虫(ドウガネブイブイ)

試験場名 福岡県農林業総合試験場

3. 試験成績

散布4日後(6/13)調査(散布1日後(6/10)放虫処理)

供試薬剤名 有効成分名・量 Lot. No.	希釈倍率	連制	放飼 虫数	成虫数		葉数	被害葉数					被害度
				生存虫	死亡虫 (うち異常虫)		無 (0)	少 (A)	中 (B)	多 (C)	甚 (D)	
51) OAT-1408 SC 既知化合物 20.0% Lot.No. 24I-5049	2000倍	I	5	0	5(4)	8	4	4	0	0	0	17.9 32.2
		II	5	0	5(4)	11	3	7	1	0	0	
		III	5	0	5(5)	9	3	5	1	0	0	
		計	15	0	15(13)	28	10	16	2	0	0	
		対無処理比		0								
対) コテツフロアブル クロルフェナビル 10.0%	2000倍	I	5	0	5(0)	9	2	7	0	0	0	16.7 30.1
		II	5	0	5(0)	10	3	7	0	0	0	
		III	5	0	5(0)	11	5	6	0	0	0	
		計	15	0	15(0)	30	10	20	0	0	0	
		対無処理比		0								
無処理		I	5	4	1(0)	7	0	3	3	1	0	55.4
		II	5	5	0	8	0	1	3	2	2	
		III	5	5	0	8	0	1	5	1	1	
		計	15	14	1(0)	23	0	5	11	4	3	

散布11日後(6/20)調査(散布8日後(6/17)放虫処理)

供試薬剤名 有効成分名・量 Lot. No.	希釈倍率	連制	放飼 虫数	成虫数		葉数	被害葉数					被害度	薬害 6/10,13, 17,20
				生存虫	死亡虫 (うち異常虫)		無 (0)	少 (A)	中 (B)	多 (C)	甚 (D)		
51) OAT-1408 SC 既知化合物 20.0% Lot.No. 24I-5049	2000倍	I	5	0	5(5)	10	4	2	4	0	0	-	
		II	5	0	5(5)	11	6	1	2	2	0	-	
		III	5	0	5(5)	12	6	4	2	0	0	-	
		計	15	0	15(15)	33	16	7	8	2	0	22.0	
対無処理比				0									42.2
対) コテツフロアブル クロルフェニル 10.0%	2000倍	I	5	0	5(3)	8	1	3	3	1	0	-	
		II	5	0	5(2)	11	2	4	4	0	1	-	
		III	5	0	5(3)	10	2	4	3	1	0	-	
		計	15	0	15(8)	29	5	11	10	2	1	35.3	
対無処理比				0									67.9
無処理		I	5	5	0	13	0	5	7	1	0		
		II	5	5	0	11	1	2	7	0	1		
		III	5	5	0	12	1	0	5	1	5		
		計	15	15	0	36	2	7	19	2	6	52.1	

4. 考 察

実用性の判定は散布4日後、11日後の生存虫数および被害度(対無処理比)で行い、被害度を重視した。

51) OAT-1408SC 2,000 倍散布 BBB-

対照薬剤のコテツフロアブル 2,000 倍散布と比較して同等の効果を示し、無処理区と比較して防除効果が認められたことから、実用性はあると思われる。薬害は認められなかった。

対象病害虫名・学名 チャノキイロアザミウマ *Scirtothrips dorsalis*

試験場名 宮崎県総合農業試験場

担当者氏名 工藤英志・後藤 弘・中村正和

1 試験目的(依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2 試験方法 試験地場所 宮崎市佐土原町 宮崎県総合農業試験場

対象病害虫発生状況 中発生

耕種概要(品種・施肥・一般管理等)

品種:アーウィン 鉢植え22年生 施設栽培(硬質フィルムハウス) 開花盛期:3月上旬

施肥その他一般管理は宮崎県果樹栽培指針に準じた。

土性:不明 試験期間中の防除薬剤:無し

区制・面積・試験区の構成 1区 1樹 3連制

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージ及び処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2024年7月23日

(作物ステージ) 新梢発生期

(処理方法) 電動噴霧器を用いて1樹当たり1.67Lを散布した。

(処理前後の降雨) 試験は施設内で実施し、降雨の影響はみられなかった。

試験期間中の気象条件

月 日	7/23	7/24	7/25	7/26	7/27	7/28	7/29	7/30	7/31	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5	8/6
平均気温(°C)	30.5	30.0	28.2	28.3	28.7	30.3	30.3	31.1	29.8	30.0	30.2	30.4	30.6	30.1	29.7

観測地点:宮崎市(宮崎地方気象台)

調査月日・方法

(調査月日) 薬効:散布前(7/23)、散布2日後(7/25)、散布3日後(7/26)、散布7日後(7/30)、散布14日後(8/6)

被害:散布3日後(7/26)、散布7日後(7/30)、散布14日後(8/6)

(調査方法) 1樹当たり任意の4か所の新梢を選び、各新梢5葉ずつ計20葉についてチャノキイロアザミウマ成虫及び幼虫数を調査した。被害は、葉に対する被害の有無を肉眼で観察した。

-:被害を認めない。+:軽微な被害を認める。++:中程度の被害を認める。+++ :重度の被害を認める。

3 試験成績

		20葉当たりの寄生頭数												被害		
		散布前			2日後			3日後			7日後			14日後		
		7/23			7/25			7/26			7/30			8/6		
129) テッパン液剤 シクニプロール 4.5% Lot.003223	希釈倍数	成虫	幼虫	計	成虫	幼虫	計	成虫	幼虫	計	成虫	幼虫	計	成虫	幼虫	計
	連制	I	II	III	計	I	II	III	計	I	II	III	計	I	II	III
	2000	50	29	79	3	2	5	1	0	1	0	0	0	4	0	4
		3	2	5	0	0	0	2	0	2	1	0	1	2	20	22
	計	22	8	30	1	0	1	3	1	4	7	0	7	4	30	34
(補正密度指数)		75	39	114	4	2	6	6	1	7	8	0	8	10	50	60
					(3.7)			(4.7)			(3.9)			(6.8)		
対スピノエース 顆粒水和剤 スピノサド25%	希釈倍数	成虫	幼虫	計	成虫	幼虫	計	成虫	幼虫	計	成虫	幼虫	計	成虫	幼虫	計
	連制	I	II	III	計	I	II	III	計	I	II	III	計	I	II	III
	5000	8	12	20	2	6	8	1	3	4	7	1	8	5	21	26
		45	20	65	3	5	8	8	12	20	0	0	0	12	0	12
	計	18	12	30	2	0	2	0	3	3	3	0	3	1	10	11
(補正密度指数)		71	44	115	7	11	18	9	18	27	10	1	11	18	31	49
					(10.9)			(18.0)			(5.4)			(5.5)		
無処理	希釈倍数	成虫	幼虫	計	成虫	幼虫	計	成虫	幼虫	計	成虫	幼虫	計	成虫	幼虫	計
	連制	I	II	III	計	I	II	III	計	I	II	III	計	I	II	III
	—	29	11	40	41	15	56	69	7	76	73	23	96	175	249	424
		25	17	42	41	27	68	13	25	38	56	5	61	42	213	255
	計	4	6	10	2	6	8	2	4	6	7	0	7	8	26	34
(補正密度指数)		58	34	92	84	48	132	84	36	120	136	28	164	225	488	713
					(100)			(100)			(100)			(100)		

4 考察

チャノキイロアザミウマの発生程度はこれまでの場内の発生状況から中発生と判断した。

実用性の判定は散布2、3、7、14日後の補正密度指数で行った。

129) テッパン液剤 2000倍散布 AAA-

本剤の2000倍散布のチャノキイロアザミウマに対する防除効果は、対照のスピノエース顆粒水和剤5000倍散布と比べてまさる効果、無処理と比較して効果は高い。実用性は高いと考えられる。被害は認められなかった。

対 象 病 害 虫 名 チャノキイロアザミウマ

試験場名 鹿児島県農業開発総合センター

担当者氏名 宇都 花奈

1. 試 験 目 的 (依 頼 事 項) 防除効果および葉害の検討

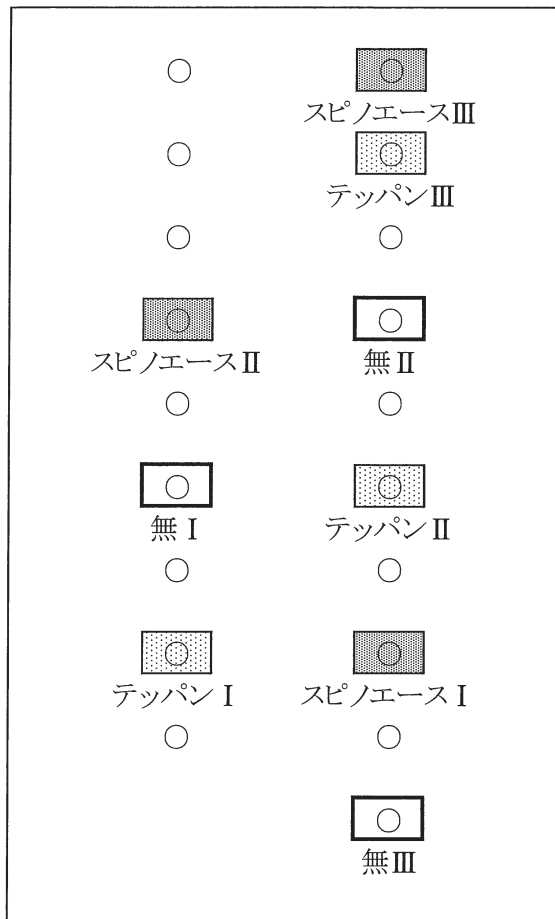
2. 試 験 方 法 試験地場所 鹿児島県南さつま市金峰町大野 鹿児島県農業開発総合センタービニルハウス

対 象 病 害 虫 発 生 状 況 中発生(放虫)

耕種概要

品種:アーウィン(ポット植え) 樹齢:9年生 樹高:約1m 植栽距離:1m×3m 施肥・一般管理:慣行施設栽培 ,
土性:灰色低地土 試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積・試験区の構成 1区1樹 3反復



テッパン I ~ III : テッパン液剤

スピノエース I ~ III: スピノエース顆粒水和剤(対照薬剤)

無 I ~ III: 無処理

※ I, II, III反復を示す

処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2024 年 10 月 20 日

(処理時の作物のステージ) 新梢発生期

(処理方法) 供試薬剤を所定の希釈倍数に調製し, 動力噴霧機(散布圧力 1.5Mpa, ヤマホ工業㈱B-7噴板)で1樹当たり 1.4L
(薬液がしたたり落ちる程度)を樹全体に散布した。

(処理前後の降雨影響) 試験は施設内で実施し, 降雨の影響はなかった。

試験期間中の気象条件:アメダスデータ(加世田)

年月日	10/20	10/21	10/22	10/23	10/24	10/25	10/26	10/27
平均気温(℃)	23.5	25.2	24.6	22.5	20	21.2	23.5	23.6
年月日	10/28	10/29	10/30	10/31	11/1	11/2	11/3	11/4
平均気温(℃)	22.9	22.6	22.3	20.9	24.6	25.3	20.7	19.9

対 象 病 害 虫 名 チャノキイロアザミウマ

試験場名 鹿児島県農業開発総合センター

調査月日・方法

(調査月日) 2024 年 10 月 20 日(薬剤処理前), 10 月 21 日(処理1日後), 10 月 23 日(処理 3 日後), 10 月 28 日(処理 8 日後), 10 月 31 日(処理 11 日後)

(調査方法) 1 樹あたり任意の8新梢の8葉計 64 葉のチャノキイロアザミウマ成幼虫の生息数を調査した。

また, 薬害調査は, 葉を対象とし, 調査時に肉眼により以下の内容で実施した。

- ┌ ー:薬害を認めない
└ +:軽微な薬害症状を認める ++:中程度の薬害症状を認める +++:重度の薬害症状を認める。

その他

試験用ハウスに近接する農業大学校マンゴー施設から採取したチャノキイロアザミウマの成幼虫を, 処理3日前(10 月 17 日)および処理2日前(10 月 18 日)に 1 樹あたり 80 頭放飼した。

3. 試 験 成 績

供試薬剤名		希釈倍数	反復	チャノキイロアザミウマ個体数 (64葉/樹)															
				10月20日				10月21日				10月23日				10月28日			
				処理前				処理1日後				処理3日後				処理8日後			
				成虫	幼虫	計		成虫	幼虫	計	薬害	成虫	幼虫	計	薬害	成虫	幼虫	計	薬害
129) テッパン液剤 シクラニプロール 4.5%	2000倍	Lot No. 003223	I	36	11	47		1	1	2	-	1	98	99	-	1	3	4	-
			II	28	15	43		0	3	3	-	1	39	40	-	0	1	1	-
			III	93	30	123		0	2	2	-	3	13	16	-	7	40	47	-
			合計	157	56	213		1	6	7		5	150	155		8	44	52	
			補正密度指数							2.1				21.8				2.2	
対) スピノエース顆粒水和剤 スピノサド 25.0%	5000倍		I	123	9	132		9	4	13	-	21	27	48	-	0	2	2	-
			II	46	29	75		2	5	7	-	13	19	32	-	28	91	119	-
			III	4	10	14		2	7	9	-	2	14	16	-	2	16	18	-
			合計	173	48	221		13	16	29		36	60	96		30	109	139	
			補正密度指数							8.5				13.0				5.6	
無処理	-		I	38	44	82		56	49	105		85	153	238		45	666	711	
			II	37	25	62		55	38	93		92	124	216		42	684	726	
			III	16	2	18		48	4	52		79	8	87		75	321	396	
			合計	91	71	162		159	91	250		256	285	541		162	1671	1833	
			補正密度指数							100				100				100	

4. 考 察

判定は, 処理 1 日後から処理 11 日後の補正密度指数で行った。

129) テッパン液剤 2,000 倍希釈液散布 BAA-

本処理は, 対照のスピノエース顆粒水和剤 5,000 倍希釈液散布と比較して効果はほぼ同等であり, 無処理と比較して効果が高い。実用性は高いと考えられる。

また, 薬害は認められなかった。

対 象 病 害 虫 名 チャノキイロアザミウマ

試験場名 鹿児島県農業開発総合センター大島支場

担当者氏名 倉本周代

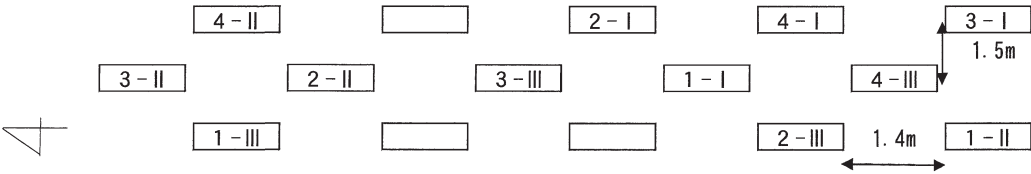
1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び被害の検討
2. 試験方法 試験地場所 鹿児島県奄美市名瀬浦上町 農業開発総合センター大島支場内 ガラス室
- 対象病害虫発生状況 多発生(放虫)

耕種概要(品種・施肥・一般管理)

品種:アーウィン, 樹齢:3年生, 樹高:100cm, 栽培条件:17 号ポット栽培 鉢植えの配置:150cm×140cm,
施設栽培, 施肥その他一般管理は慣行に準じた。 土性:重埴土, 試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積・試験区の構成

1区1樹 3連制



1:グレーシアフロアブル, 2:サイモディスDC, 3:スピノエース顆粒水和剤, 4:無処理 I, II, IIIは連制, □は番外を示す

処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2024 年7月9日 (処理量) 4000/10a

(処理時の作物ステージ) 新梢伸長期

(処理方法) 供試薬剤は所定倍数で希釈し, 乾電池式噴霧器(KOSHIN 社製 GT-5HSR)を用いて散布した。なお, 展着剤は加用しなかった。

(処理前後の降雨影響) 施設栽培(ガラス室)での試験のため, 降雨の影響なし。

試験期間中の気象条件

月日	7/9	7/10	7/11	7/12	7/13	7/14	7/15	7/16
平均気温(℃)	32.4	33.0	32.8	30.2	32.4	32.3	31.9	31.6
最高気温(℃)	41.7	42.6	40.5	37.2	41.3	39.2	42.0	39.9
最低気温(℃)	26.7	28.1	27.7	26.2	26.3	27.6	27.2	25.6

月日	7/17	7/18	7/19	7/20	7/21	7/22	7/23
平均気温(℃)	30.6	32.0	31.7	32.4	31.1	31.5	31.6
最高気温(℃)	37.9	41.9	40.0	39.9	40.0	38.2	36.6
最低気温(℃)	26.6	26.4	26.7	27.1	26.9	26.7	28.6

観測場所:鹿児島県奄美市名瀬浦上町(大島支場マンゴー栽培ガラス室実測値)

調査月日・方法

(調査月日) 散布3日後(7月 12 日), 散布7日後(7月 16 日), 散布 14 日後(7月 23 日)

(調査方法) 1区当たり新梢を4枝選んでマーキングし, 1枝当たり上位5葉についてチャノキイロアザミウマの成幼虫数を目視調査し, 下記により補正密度指数を算出した。

補正密度指数＝
(処理区処理後の密度/処理区処理前の密度)×(無処理区処理前の密度/無処理区処理後の密度)×100

被害は茎葉を対象として調査時に肉眼で褐変等の有無がないか観察し, 被害症状の有無を下記の内容で観察した。

被害 +++:重度の被害症状を認める
++ :中度の被害症状を認める
+ :軽微な被害症状を認める
- :被害を認めない

対 象 病 害 虫 名 チャノキイロアザミウマ

試験場名 鹿児島県農業開発総合センター大島支場

その他

供試虫は 2024 年 7 月 1 日, 7 月 4 日, 7 月 5 日に奄美市名瀬浦上町の支場内別棟ハウスで栽培しているマンゴーの新梢に寄生していたチャノキイロアザミウマ成虫を新梢ごと採集し, 各ポットの new梢近くに各 2 新梢ずつ設置し放虫した。

3. 試 験 成 績

表 薬効試験および薬害試験

供試薬剤	希釈倍数	連制	4 新梢枝数当たりの寄生虫数 (上位 20 葉の合計数)												薬害		
			散布前			3 日後			7 日後			14 日後			3 日後	7 日後	14 日後
			7/9			7/12			7/16			7/23			7/12	7/16	7/23
			幼虫	成虫	計	幼虫	成虫	計	幼虫	成虫	計	幼虫	成虫	計			
99) グレーシアフロアブル フルネミタム 10.0% Lot. 26. 10-0CL020	4,000 倍	I	0	49	49	21	1	22	0	1	1	0	0	0	—	—	—
		II	15	25	40	8	3	11	0	2	2	0	0	0	—	—	—
		III	0	46	46	4	0	4	1	0	1	0	0	0	—	—	—
		合計	15	120	135	33	4	37	1	3	4	0	0	0			
		(補正密度指数)						4. 1			0. 2			0. 0			
106) サイモディス DC イソクロセラム 9. 3% Lot. HWI002-041-002	5,000 倍	I	0	46	46	0	1	1	0	0	0	0	0	0	—	—	—
		II	1	60	61	1	0	1	0	1	1	0	0	0	—	—	—
		III	0	37	37	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—
		合計	1	143	144	1	1	2	0	1	1	0	0	0			
		(補正密度指数)						0. 2			0. 1			0. 0			
対) スピノエース顆粒水和剤 スピノサド 25. 0%	5,000 倍	I	0	36	36	0	8	8	0	0	0	0	0	0	—	—	—
		II	0	68	68	30	8	38	17	12	29	0	0	0	—	—	—
		III	9	18	27	13	10	23	2	1	3	0	0	0	—	—	—
		合計	9	122	131	43	26	69	19	13	32	0	0	0			
		(補正密度指数)						7. 8			1. 9			0. 0			
無処理	—	I	0	69	69	282	69	351	848	26	874	1	0	1			
		II	0	43	43	92	47	139	385	27	412	0	4	4			
		III	3	15	18	336	49	385	355	33	388	0	1	1			
		合計	3	127	130	710	165	875	1, 588	86	1, 674	1	5	6			
		(補正密度指数)															

4. 考 察

実用性の判定には, 散布 3, 7 日後の補正密度指数を用いた。

99) グレーシアフロアブル 4,000 倍散布 BAA—

本剤 4,000 倍液散布は, 対照のスピノエース顆粒水和剤 5,000 倍液散布と比較して, 効果は同等であり, 無処理と比較すると効果が高いことから, 実用性が高いと考えられる。薬害は認められなかった。

106) サイモディス DC 5,000 倍散布 BAA—

本剤 5,000 倍液散布は, 対照のスピノエース顆粒水和剤 5,000 倍液散布と比較して, 効果は同等であり, 無処理と比較すると効果が高いことから, 実用性が高いと考えられる。薬害は認められなかった。

担当者氏名　喜久村智子

1. 試 験 目 的　防除効果及び被害の検討
2. 試 験 方 法　試験地場所　沖縄県農業研究センター
- 対 象 病 害 虫 発 生 状 況　　中→多発生(放虫)

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:アーウィン　樹齢:13 年生　樹高:2m　栽植距離:1.5～2m　土性:重埴土(島尻マージ)

栽培条件:　ポット栽培(直径 70cm)　施設栽培

試験期間中の防除薬剤:　なし

施肥その他一般管理は慣行に準じた。

区制・面積・試験区の構成　　1 区 1 樹 3 連制

3-I			1-II	2-III			
2-I		1-I	2-II	3-II	1-III		3-III

1: グレーシアフロアブル区　2: スピノエース顆粒水和剤区　3: 無処理区　　I II IIIは連制を示す。

処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

- (処理年月日) 2024 年 9 月 3 日
- (処理時の作物のステージ) 生育期
- (処理方法) 所定の濃度に希釈した薬液を、背負い式手動噴霧器を用いて花序及び葉の表裏が十分に濡れるよう散布した
(375L/10a)
- (処理前後の降雨影響) 施設栽培のため、降雨の影響は無かった。

試験期間中の気象条件

試験施設内(データロガー測定値)

月/日	9/2	9/3	9/4	9/5	9/6	9/7	9/8	9/9	9/10	9/11	9/12	9/13	9/14	9/15	9/16	9/17
平均気温 (°C)	32.1	31.2	31.3	32.3	32.7	33.0	31.8	27.5	30.1	27.9	32.0	28.2	31.1	31.8	32.0	31.8

調査月日・方法(月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

- (調査月日) 処理前日(9月2日)、処理 3 日後(9 月 6 日)、8 日後(9 月 11 日) 、14 日後(9 月 17 日)
- (調査方法) 薬効は、各樹 20 葉に寄生するチャノキイロアザミウマ成幼虫を、ルーペを用いて計数した。
- 薬害は、薬効調査時に茎葉の薬害症状を以下の基準により肉眼で観察した。
- －:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。
- +++ :重度の薬害症状を認める。

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期、詳細な方法を記載)

試験圃場におけるチャノキイロアザミウマの発生がなかったため、2019 年に沖縄本島北部のトルコギキョウで採取したチャノキイロアザミウマ(C 系統)をピーマンの幼果で継代飼育した個体群を 2024 年 8 月 16 日、20 日に樹あたり成虫 20 頭放飼した。

対象病害虫名 チャノキイロアザミウマ
試験場名 沖縄県農業研究センター

3. 試 験 成 績

表 1 薬効・薬害試験結果

供試薬剤		処理方法	連制	チャノキイロアザミウマ数(1樹20葉)												薬害
				処理前日			処理3日後			処理8日後			処理14日後			9/6, 11, 17
				9/2			9/6			9/11			9/17			
				幼虫	成虫	計	幼虫	成虫	計	幼虫	成虫	計	幼虫	成虫	計	
99) グレーシアフロアブル	フルキサメタミド 10.0 %	4,000倍 散布	I	2	6	8	0	2	2	5	20	25	53	33	86	—
II			0	7	7	12	1	13	3	21	24	102	54	156	—	
III			9	26	35	9	5	14	2	14	16	141	96	237	—	
計			11	39	50	21	8	29	10	55	65	296	183	479		
Lot.0CL020			(補正密度指数)			(8.0)			(13.1)			(32.0)				
対) スピノエース顆粒水和剤	スピノサド 25.0%	5,000倍 散布	I	0	17	17	3	5	8	1	4	5	19	19	38	—
II			7	9	16	2	2	4	0	1	1	10	18	28	—	
III			16	15	31	1	1	2	0	1	1	28	21	49	—	
計			23	41	64	6	8	14	1	6	7	57	58	115		
Lot. K61L00			(補正密度指数)			(3.0)			(1.1)			(6.0)				
無処理			I	1	9	10	165	14	179	105	81	186	117	127	244	
			II	10	6	16	82	43	125	117	105	222	715	110	825	
			III	17	7	24	28	29	57	30	60	90	328	98	426	
			計	28	22	50	275	86	361	252	246	498	1160	335	1495	
			(補正密度指数)			(100)			(100)			(100)			(100)	

4. 考察

本試験における実用性の判定は、処理 3、8、14 日後の成幼虫数の補正密度指数の平均値に基づいて評価した。

99) グレーシアフロアブル 4,000 倍散布 CBB-

本剤 4,000 倍希釈液散布は対照薬剤スピノエース顆粒水和剤 5,000 倍希釈液散布と比較して防除効果はやや劣り、無処理区と比較して効果はある。実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

担当者氏名 喜久村智子

1. 試験目的 防除効果及び被害の検討
2. 試験方法 試験地場所 沖縄県農業研究センター
- 対象病害虫発生状況 中→多発生(放虫)

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:アーウィン 樹齢:13 年生 樹高:2m 栽植距離:1.5～2m 土性:重埴土(島尻マージ)

栽培条件: ポット栽培(直径 70cm) 施設栽培

試験期間中の防除薬剤: なし

施肥その他一般管理は慣行に準じた。

区制・面積・試験区の構成 1 区 1 樹 3 連制

3-I	1-I			2-III			1-III
2-I			2-II	3-II		1-II	3-III

1: テッパン液剤区 2: スピノエース顆粒水和剤区 3: 無処理区 I II IIIは連制を示す。

処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2024 年 9 月 3 日

(処理時の作物のステージ) 生育期

(処理方法) 所定の濃度に希釈した薬液を、背負い式手動噴霧器を用いて花序及び葉の表裏が十分に濡れるよう散布した(375L/10a)

(処理前後の降雨影響) 施設栽培のため、降雨の影響は無かった。

試験期間中の気象条件

試験施設内(データロガー測定値)

月/日	9/2	9/3	9/4	9/5	9/6	9/7	9/8	9/9	9/10	9/11	9/12	9/13	9/14	9/15	9/16	9/17
平均気温 (°C)	32.1	31.2	31.3	32.3	32.7	33.0	31.8	27.5	30.1	27.9	32.0	28.2	31.1	31.8	32.0	31.8

調査月日・方法(月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 処理前日(9月2日)、処理3日後(9月6日)、8日後(9月11日)、14日後(9月17日)

(調査方法) 薬効は、各樹 20 葉に寄生するチャノキイロアザミウマ成幼虫を、ルーペを用いて計数した。

薬害は、薬効調査時に茎葉の薬害症状を以下の基準により肉眼で観察した。

ー: 薬害を認めない。+: 軽微な薬害症状を認める。++: 中程度の薬害症状を認める。

+++ : 重度の薬害症状を認める。

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期、詳細な方法を記載)

試験圃場におけるチャノキイロアザミウマの発生がなかったため、2019 年に沖縄本島北部のトルコギキョウで採取したチャノキイロアザミウマ(C 系統)をピーマンの幼果で継代飼育した個体群を 2024 年 8 月 16 日、20 日に樹あたり成虫 20 頭放飼した。

対象病害虫名 アザミウマ類(チャノキイロアザミウマ)
試験場名 沖縄県農業研究センター

3. 試 験 成 績

表 1 薬効・薬害試験結果

供試薬剤		処理方法	連制	チャノキイロアザミウマ数(1樹20葉)												薬害
				処理前日			処理3日後			処理8日後			処理14日後			9/6, 11, 17
				9/2			9/6			9/11			9/17			
				幼虫	成虫	計	幼虫	成虫	計	幼虫	成虫	計	幼虫	成虫	計	
129) テッパン液剤	シクランプロロール 4.5 %	2,000倍 散布	I	1	4	5	3	3	6	3	20	23	60	49	109	—
II			2	13	15	6	1	7	0	19	19	76	27	103	—	
III			6	18	24	23	7	30	4	23	27	99	58	157	—	
計			9	35	44	32	11	43	7	62	69	235	134	369		
Lot. 003223			(補正密度指数)					(13.5)			(15.7)			(28.0)		
対) スピノエース顆粒水和剤	スピノサド 25.0%	5,000倍 散布	I	0	17	17	3	5	8	1	4	5	19	19	38	—
II			7	9	16	2	2	4	0	1	1	10	18	28	—	
III			16	15	31	1	1	2	0	1	1	28	21	49	—	
計			23	41	64	6	8	14	1	6	7	57	58	115		
Lot. K61L00			(補正密度指数)					(3.0)			(1.1)			(6.0)		
無処理			I	1	9	10	165	14	179	105	81	186	117	127	244	
			II	10	6	16	82	43	125	117	105	222	715	110	825	
			III	17	7	24	28	29	57	30	60	90	328	98	426	
			計	28	22	50	275	86	361	252	246	498	1160	335	1495	
			(補正密度指数)						(100)			(100)			(100)	

4. 考 察

本試験における実用性の判定は、処理 8、14 日後の成幼虫数の補正密度指数の平均値に基づいて評価した。

129) テッパン液剤 2,000 倍散布 CBB-

本剤 2,000 倍希釈液散布は対照薬剤スピノエース顆粒水和剤 5,000 倍希釈液散布と比較して防除効果はやや劣り、無処理区と比較して効果はある。実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

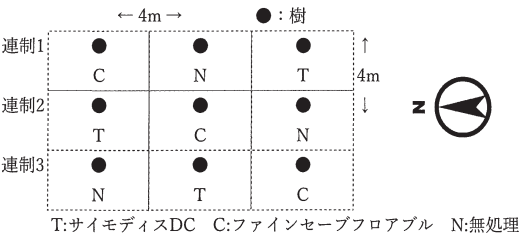
対象病害虫名 チャノキイロアザミウマ
試験場名 株式会社Field Styled Lab.

担当者氏名 柿元一樹・濱島朗子

1. 試験目的 防除効果及び薬害の検討
2. 試験方法 試験地場所 鹿児島県大崎町株式会社 Field Styled Lab.試験地
対象病害虫発生状況 少発生
耕種概要

品種:アーウィン 樹齢:5年生 樹高:約1.7m 栽植距離:約4m×4m 鉢植え栽培(20号鉢) 施設栽培
土性:淡色アロフェン質黒ボク土 試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積・試験区の構成 1区1樹 3連制

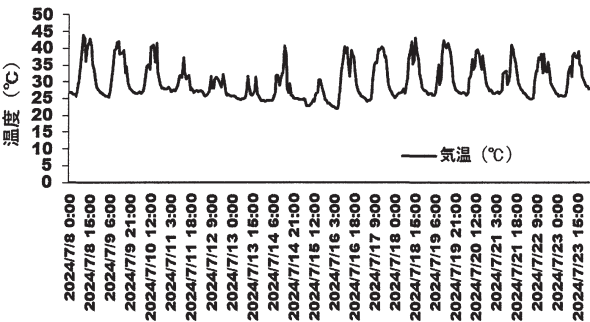


処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

- (処理年月日) 2024年7月8日
(処理時の作物のステージ) 生育期(新梢生育期)
(処理方法) 試験薬剤および対照薬剤の処理にあたっては、所定濃度に希釈した薬液を背負い式動力噴霧器により約2L/樹散布した。展着剤は加用しなかった。
(処理前後の降雨影響) 施設栽培のため降雨の影響はなかった。

試験期間中の気象条件

データロガー計測値;期間中平均 30.2℃



調査月日・方法

- (調査月日) 2024年7月8日(処理前), 7月11日(3日後), 7月14日(6日後), 7月22日(14日後)
(調査方法) 各樹に40cm四方の調査区画を5箇所定め、区画内に含まれる枝を素手で10回叩き、赤色調査板(23.5cm×33.5cm)に落下したチャノキイロアザミウマの成虫および幼虫個体数を目視により計数した。
薬害:薬効調査時に葉への薬害を以下の基準に従い遠観により評価した。
- :薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++ :中程度の薬害症状を認める。
+++ :重度の薬害症状を認める。

その他

なし

3. 試験成績

後述

対象病害虫名 チャノキイロアザミウマ

試験場名 株式会社Field Styled Lab.

4. 考察

マンゴーのチャノキイロアザミウマに対するサイモディス DC の効果は、処理後全調査日(処理から3日、6日および14日後)での薬効評価が可能であったため、これら3調査日における本種全個体数から算出した補正密度指数の平均値に基づき評価した。

106) サイモディス DC 5,000 倍 散布 BAA-

本剤;5,000 倍希釈液散布の効果は、対照薬剤であるファインセーブフロアブル;2,000 倍希釈液散布の効果と同等であり、無処理区と比較して効果は高かった。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

マンゴーのチャノキイロアザミウマ個体数/調査区画(40cm×40cm)×5

供試薬剤	処理濃度 処理方法	連制	調査項目、調査日、処理後経過日数※												評価 指数 †	薬害 7/11 7/14 7/22
			7月8日			7月11日			7月14日			7月22日				
			処理後経過日数													
			処理前			3日			6日			14日				
			成虫	幼虫	計	成虫	幼虫	計	成虫	幼虫	計	成虫	幼虫	計		
106) サイモディスDC イソシクロセラム9.3% Lot. HWI002-041-002	5,000倍 散布	1	8	12	20	1	0	1	0	1	1	0	0	0	—	
		2	7	5	12	1	1	2	0	0	0	0	3	3	—	
		3	3	16	19	1	0	1	0	1	1	1	3	4	—	
		合計	18	33	51	3	1	4	0	2	2	1	6	7		
		補正密度指数				5.8			2.2			4.9			4.3	
対) ファインセーブフロアブル フロメトキン10.0% Lot. 207002	2,000倍 散布	1	6	12	18	0	1	1	0	3	3	1	0	1	—	
		2	1	15	16	0	0	0	0	2	2	1	0	1	—	
		3	6	9	15	0	1	1	0	1	1	0	0	0	—	
		合計	13	36	49	0	2	2	0	6	6	2	0	2		
		補正密度指数				3.0			6.8			1.5			3.8	
無処理	—	1	5	11	16	4	20	24	1	25	26	5	29	34		
		2	12	13	25	0	24	24	1	27	28	1	42	43		
		3	3	5	8	1	17	18	1	33	34	13	47	60		
		合計	20	29	49	5	61	66	3	85	88	19	118	137		
		補正密度指数				100			100			100				

※薬剤処理日：7月8日

† 評価指数(判定に用いた調査日、算出方法)：処理3,6,14日後における成虫および幼虫個体数の補正密度指数平均値

対 象 病 害 虫 名 アザミウマ類(チャノキイロアザミウマ)

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会宮崎試験場

担当者氏名 八丁昭龍、近藤諒介

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 11913 一般社団法人日本植物防疫協会宮崎試験場

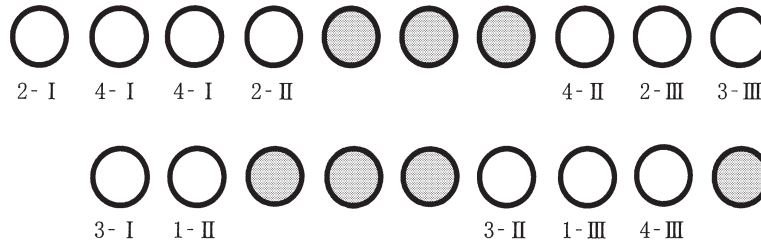
対象病害虫発生状況 多発生

耕種概要

品種:アーウィン 12 年生樹、樹高 1.2m、20 号ポット植え、盃状形整枝 施設栽培

栽植距離:1.9m×2.4m、220 本/10a 施肥その他一般管理は慣行に準じた。

土性:不明、試験期間中の防除:なし

区制・面積・試験区の構成 1 区 4.6 m²(1.9m×2.4m)、1 株、3 連制

1. グレーシアフロアブル、2. 無処理、3. サイモディス DC、4. スピノエース顆粒水和剤、I、II、III は連制を示す。

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2024 年 7 月 5 日 (作物のステージ) 樹高 1.2m、第 1 新梢展開期

(処理方法) 供試薬剤を所定の濃度に希釈し、10a あたり 214L の割合で背負式バッテリー噴霧機を用いて散布した。
展着剤は添加しなかった。

(処理前後の降雨の影響) 施設栽培のため影響はない。

試験期間中の気象条件

月 日	7/5	6	7	8	9	10	11	12
平均気温(℃)	31.2	31.6	31.2	31.3	31.0	29.6	27.4	26.6

試験期間中の気象条件は、近傍の管理条件が類似した施設に設置している観測装置で観測した。太枠で囲んだ日付は散布日を示す。

調査月日・方法

(調査月日) 散布前(7 月 5 日)、同 3 日後(7 月 8 日)および同 7 日後(7 月 12 日)

(調査方法) 各区固定した 5 新梢について、新梢あたり 2 葉(計 10 葉)に生息する虫数を幼虫、成虫別に調査した。
被害は、調査時に茎葉を下記の通り肉眼により観察した。

-: 被害なし。+: 軽微な被害症状を認める。++: 中程度の被害症状を認める。+++: 重度の被害症状を認める。

対 象 病 害 虫 名 アザミウマ類(チャノキイロアザミウマ)

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会宮崎試験場

3. 試 験 成 績

供試薬剤	処理方法	連制	10葉あたりの生息虫数									薬害 7/8,12
			散布前			3日後			7日後			
			7/5			7/8			7/12			
			幼虫	成虫	計	幼虫	成虫	計	幼虫	成虫	計	
99) グレーシアフロアブル フルキサメタト®10.0% Lot No. 26.10-0CL020	4000倍 散布	I	269	5	274	0	2	2	0	0	0	-
		II	197	16	213	2	1	3	0	3	3	-
		III	7	7	14	0	1	1	1	7	8	-
		計	473	28	501	2	4	6	1	10	11	
		(補正密度指数)						(0.8)			(1.7)	BAA-
106) サイモディスDC イソクロセラム9.3% Lot No. HWI002-041-002	5000倍 散布	I	159	52	211	0	0	0	0	3	3	-
		II	116	4	120	0	0	0	0	0	0	-
		III	13	1	14	0	0	0	0	0	0	-
		計	288	57	345	0	0	0	0	3	3	
		(補正密度指数)						(0)			(0.7)	BAA-
対照 スピノエース顆粒水和剤 スピノサト®25.0%	5000倍 散布	I	421	46	467	0	0	0	0	0	0	-
		II	19	15	34	0	0	0	13	4	17	-
		III	11	0	11	1	0	1	2	1	3	-
		計	451	61	512	1	0	1	15	5	20	
		(補正密度指数)						(0.1)			(3.0)	
無 処 理	—	I	161	4	165	332	7	339	169	7	176	-
		II	196	12	208	251	17	268	272	28	300	-
		III	25	1	26	25	1	26	29	9	38	-
		計	382	17	399	608	25	633	470	44	514	
		(補正密度指数)						(100)			(100)	

4. 考 察

本試験における実用性の判定は、散布 3、7 日後の補正密度指数で行った。

99) グレーシアフロアブル 4000 倍希釈液散布 BAA-

本薬剤は、対照薬剤のスピノエース顆粒水和剤 5000 倍希釈液散布と比較して同等であり、無処理と比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。

薬害は認められなかった。

106) サイモディス DC 5000 倍希釈液散布 BAA-

本薬剤は、対照薬剤のスピノエース顆粒水和剤 5000 倍希釈液散布と比較して同等であり、無処理と比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。

薬害は認められなかった。

対 象 病 害 虫 名 ドクガ類(タイワンキドクガ)

試験場名 鹿児島県農業開発総合センター大島支場

担当者氏名 倉本周代

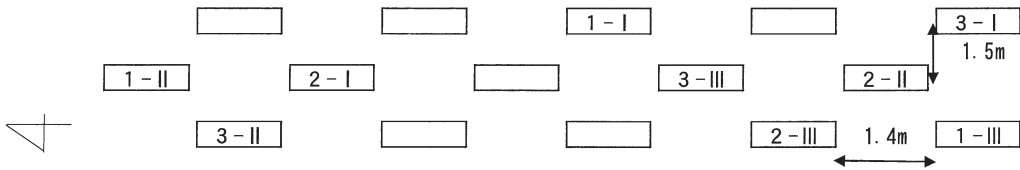
1. 試験目的(依頼事項)
- 防除効果及び薬害の検討
2. 試験方法
- 試験地場所 鹿児島県奄美市名瀬浦上町 農業開発総合センター大島支場内 ガラス室
- 対象病害虫発生状況
- 多発生(放虫)

耕種概要(品種・施肥・一般管理)

品種:アーウィン, 樹齢:3年生, 樹高:100cm, 栽培条件:17 号ポット栽培 鉢植えの配置:150cm×140cm,
施設栽培, 施肥その他一般管理は慣行に準じた。 土性:重埴土, 試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積・試験区の構成

1区1樹 3連制



1:グレーシアフロアブル, 2:ロムダンフロアブル, 3:無処理 I, II, IIIは連制, □は番外を示す

処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2024 年 6 月 4 日 (処理量) 400ℓ/10a

(処理時の作物ステージ) 新梢伸長期

(処理方法) 供試薬剤は, 所定倍数で希釈し, 乾電池式噴霧器(KOSHIN 社製 GT-5HSR)を用いて散布した。風乾後に各区で
2新梢を選定して, それぞれを円筒形のナイロンゴース(直径 30cm, 長さ 70cm)で覆い, 1ゴース当たりタイワンキドク
ガの若・中齢幼虫約 20 頭(合計約 40 頭/区)を放虫した。なお, 展着剤は加用しなかった。

(処理前後の降雨影響) 施設栽培(ガラス室)での試験のため, 降雨の影響なし。

試験期間中の気象条件

月日	6/4	6/5	6/6	6/7	6/8	6/9	6/10	6/11
平均気温(℃)	25.8	25.3	23.4	26.0	23.8	27.7	26.3	24.4
最高気温(℃)	37.2	33.4	31.1	36.9	26.0	35.4	33.5	31.1
最低気温(℃)	19.1	19.4	20.7	21.0	21.7	24.0	21.1	20.7

観測場所:鹿児島県奄美市名瀬浦上町(大島支場マンゴー栽培ガラス室実測値)

調査月日・方法

(調査月日) 散布3日後(6 月 7 日), 散布7日後(6 月 11 日)

(調査方法) 調査はゴース内の生存幼虫数を齢期別に計数した。散布3日後は幼虫の落下等を少なくするため, 新梢にはなるべく
触れずに見取りで調査し, 散布7日後は生存幼虫を採集して, 下記により補正密度指数を算出した。

補正密度指数＝

(処理区処理後の密度/処理区処理前の密度)×(無処理区処理前の密度/無処理区処理後の密度)×100

薬害は茎葉を対象として調査時に肉眼で褐変等の有無がないか観察し, 薬害症状の有無を下記の内容で観察した。

薬害 +++:重度の薬害症状を認める

++ :中度の薬害症状を認める

+ :軽微な薬害症状を認める

− :薬害を認めない

その他

供試虫は 2024 年4月 23 日に奄美市名瀬浦上町の支場内ハウスで交尾中の雌成虫を採集し,室内で産卵ふ化させた幼虫を放
虫した。

対 象 病 害 虫 名 ドクガ類(タイワンキドクガ)

試験場名 鹿児島県農業開発総合センター大島支場

3. 試 験 成 績

表 薬効試験および薬害試験

供試薬剤名	希釈倍数	連制	散布前(6/4)				散布3日後(6/7)				散布7日後(6/11)				薬害	
			若齢	中齢	老齢	計	若齢	中齢	老齢	計	若齢	中齢	老齢	計	3日後	7日後
99) グレーシアフロアブル フルキサミド 10.0% Lot.26.10-OCL020	4,000倍	I	10	33	0	43	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-
		II	0	40	0	40	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-
		III	10	31	0	41	0	4	0	4	0	0	0	0	-	-
		合計	20	104	0	124	0	4	0	4	0	0	0	0		
		(補正密度指数)								3.2				0.0		
対) ロムダンフロアブル テブフェノット 20%	2,000倍	I	5	37	0	42	0	17	0	17	0	0	0	0	-	-
		II	5	35	0	40	0	11	0	11	0	0	0	0	-	-
		III	11	31	0	42	0	5	0	5	0	0	0	0	-	-
		合計	21	103	0	124	0	33	0	33	0	0	0	0		
		(補正密度指数)								26.6				0.0		
無処理	—	I	10	30	0	40	10	30	0	40	0	2	32	34		
		II	10	30	0	40	10	30	0	40	0	5	30	35		
		III	10	30	0	40	10	30	0	40	0	5	25	30		
		合計	30	90	0	120	30	90	0	120	0	12	87	99		
		(補正密度指数)														

4. 考 察

実用性の判定には、散布7日後の補正密度指数を用いた。

99) グレーシアフロアブル 4,000 倍散布 BAA—

本剤 4,000 倍液散布は、対照のロムダンフロアブル 2,000 倍液散布と比較して、効果は同等であり、無処理と比較すると効果が
高いことから、実用性が高いと考えられる。薬害は認められなかった。

対象病害虫名 ドクガ類(タイワンキドクガ)

試験場名 沖縄県農業研究センター

担当者氏名 喜久村智子

1. 試験目的 防除効果及び薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 沖縄県農業研究センター

対象病害虫発生状況 中発生(放虫)

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:アーウィン 樹齢:5年生 樹高:1.5m 栽植距離:1.5~2m 土性:重埴土(島尻マージ)

栽培条件:ポット栽培(直径40cm) 施設栽培

施肥その他一般管理は慣行に準じた。

試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積・試験区の構成 1区 1樹 4連制

2-I	3-I	1-I	2-II
1-II	2-III	1-III	3-II
3-III	1-IV	2-IV	3-IV

1:グレーシアフロアブル 2:ロムダンフロアブル 3:無処理区 I II III IVは連制を示す。

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2024年5月2日

(処理時の作物のステージ) 生育期

(処理方法) 所定の濃度に希釈した薬液を、背負い式手動噴霧器を用いて葉の表裏が十分に濡れるよう散布した(300L/10a)。

(処理前後の降雨影響) 降雨の影響は無かった。

試験期間中の気象条件

近隣施設内(データロガー計測値)

月日	5/2	5/3	5/4	5/5	5/6	5/7	5/8	5/9	5/10
平均気温(℃)	22.7	26.8	27.9	28.0	28.7	29.0	26.1	25.7	25.9

調査月日・方法(月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 処理前(5月2日)、処理1日後(5月3日)、3日後(5月5日)、6日後(5月8日)、8日後(5月10日)

(調査方法) 薬効は、各樹、緑枝10枝に寄生するタイワンキドクガ幼虫を目視により発育ステージ別で計数した。

薬害は、薬効調査時に茎葉の薬害症状を以下の基準により肉眼で観察した。

ー:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。

+++ :重度の薬害症状を認める。

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期、詳細な方法を記載)

4月16~23日に農業研究センター内サヤインゲンおよびマンゴー圃場周辺の草地から採集した成幼虫を飼育して、4/23~5/1に得られた次世代の若~中齢幼虫を5月1日に樹あたり30頭と同期間に得られた卵塊を樹あたり1卵塊放飼し、食害が認められた段階で試験を開始した。

対象病害虫名 ドクガ類(タイワンキドクガ)

試験場名 沖縄県農業研究センター

3. 試 験 成 績

表 1 薬効・薬害試験結果

供試薬剤	処理方法	連制	処理前				1日後				幼虫数(1樹10枝)				6日後				8日後				薬害 5/3, 5/5, 5/8, 5/10
			5/2				5/3				3日後				5/8				5/10				
			若齢	中齢	老齢	計	若齢	中齢	老齢	計	若齢	中齢	老齢	計	若齢	中齢	老齢	計	若齢	中齢	老齢	計	
99)	グレーシアフロアブル	I	4	10	1	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	
	4,000倍	II	7	4	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	
		III	8	9	3	20	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	
	散布	IV	8	12	0	20	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	
		計	27	35	4	66	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	Lot. 0CL020	(補正密度指数)								(3.3)			(0.0)			(0.0)				(0.0)			
対)	ロムダンフロアブル	I	8	4	3	15	5	3	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	
	テブフェノジド 20%	II	11	2	2	15	3	2	0	5	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	—	
	2,000倍	III	7	1	2	10	3	3	2	8	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	—	
	散布	IV	22	3	3	28	5	4	2	11	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	—	
		計	48	10	10	68	16	12	4	32	0	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0		
	Lot. N1326Z 61	(補正密度指数)								(50.5)			(5.1)			(0.0)				(0.0)			
	無処理	I	6	3	1	10	9	2	2	13	10	2	4	16	8	5	5	18	20	4	2	26	
		II	11	3	0	14	3	4	1	8	19	4	1	24	1	5	1	7	3	4	1	8	
		III	15	3	0	18	7	3	0	10	6	0	0	6	10	0	0	10	8	4	0	12	
	—	IV	12	3	1	16	21	2	0	23	19	2	0	21	6	13	0	19	7	8	0	15	
		計	44	12	2	58	40	11	3	54	54	8	5	67	25	23	6	54	38	20	3	61	
		(補正密度指数)								(100)			(100)			(100)				(100)			

4. 考察

本試験における実用性の判定は、処理 3,6,8 日後の幼虫の補正密度指数で行った。

99) グレーシアフロアブル 4000 倍散布 BAA-

本処理は対照処理と比較してほぼ同等の効果を示し、無処理区と比較して効果は高かった。実用性は高いと考えられる。薬害はみられなかった。

対 象 病 害 虫 名 ハダニ類(マンゴーツメハダニ)

試験場名 鹿児島県農業開発総合センター大島支場

担当者氏名 倉本周代

1. 試 験 目 的 (依 頼 事 項) 防除効果及び被害の検討
2. 試 験 方 法 試験地場所 鹿児島県奄美市名瀬浦上町 農業開発総合センター大島支場内 ガラス室
- 対 象 病 害 虫 発 生 状 況 多発生
- 耕種概要(品種・施肥・一般管理)

品種:アーウィン, 樹齢:22 年生, 樹高:150cm, 栽植距離:畝幅 3.6m, 株間 2.45m

施設栽培, 施肥その他一般管理は慣行に準じた。 土性:重埴土, 試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積・試験区の構成

1区1樹 3連制

◁

				2－Ⅲ		1－Ⅲ		3－Ⅲ
		3－Ⅱ	1－Ⅱ	3－Ⅰ	2－Ⅱ		1－Ⅰ	2－Ⅰ

1:ダニオーテフロアブル, 2:カネマイトフロアブル, 3:無処理 Ⅰ, Ⅱ, Ⅲは連制, □は番外を示す

処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

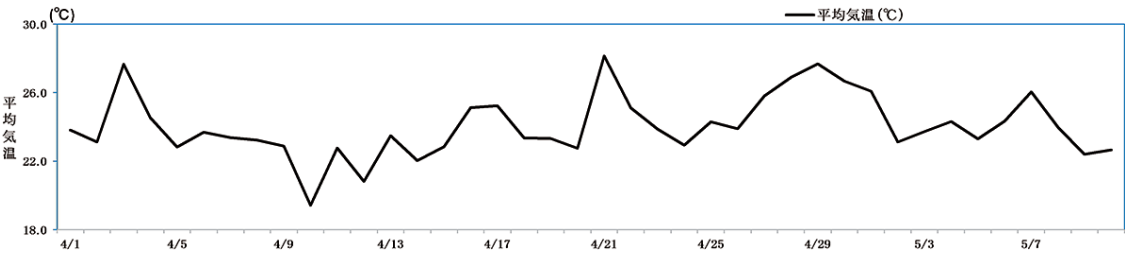
(処理年月日) 2024 年4月9日 (処理量) 700ℓ/10a

(処理時の作物ステージ) 果実肥大期

(処理方法) 供試薬剤は, 所定倍数で希釈し, 動力噴霧器 (ASABA 社製AF-35 GB180) を用いて散布した。なお, 展着剤は加用しなかった。

(処理前後の降雨影響) 施設栽培での試験のため, 降雨の影響なし。

試験期間中の気象条件



観測場所:鹿児島県奄美市名瀬浦上町(大島支場マンゴー施設実測値)

調査月日・方法

(調査月日) 散布3日後(4月 12 日), 散布7日後(4月 16 日), 散布 10 日後(4月 19 日), 散布 13 日後(4月 22 日), 散布 20 日後(4月 29 日), 散布 30 日後(5月9日)

(調査方法) 各樹の任意の 60 葉に寄生する雌成虫数を目視で計数し, 下記により補正密度指数を算出した。

補正密度指数＝

(処理区処理後の密度/処理区処理前の密度) × (無処理区処理前の密度/無処理区処理後の密度) × 100

被害は茎葉を対象として調査時に肉眼で褐変等の有無がないか観察し, 被害症状の有無を下記の内容で観察した。

- 被害 +++ : 重度の被害症状を認める
- ++ : 中度の被害症状を認める
- + : 軽微な被害症状を認める
- － : 被害を認めない

その他

なし

対 象 病 害 虫 名 ハダニ類(マンゴーツメハダニ)

試験場名 鹿児島県農業開発総合センター大島支場

3. 試 験 成 績

表1 防除効果の結果

供試薬剤	希釈倍数	連制	60葉当たりの雌成虫寄生虫数						
			散布前	3日後	7日後	10日後	13日後	20日後	30日後
			4/8	4/12	4/16	4/19	4/22	4/29	5/9
123) ダニオーテフロアブル アシナビル 20.0% Lot. SBC-18G	2,000倍	I	23	0	3	0	0	3	8
		II	8	0	0	0	0	25	37
		III	17	0	0	0	0	37	21
		計	48	0	3	0	0	65	66
		(補正密度指数)		0.0	1.5	0.0	0.0	3.5	4.0
対) カネマイトフロアブル アセキノシル 15.0%	1,000倍	I	8	8	9	3	25	109	205
		II	14	6	7	21	41	335	204
		III	37	8	15	29	75	349	392
		計	59	22	31	53	141	793	801
		(補正密度指数)		19.4	12.9	17.8	28.6	35.0	39.8
無処理		I	12	29	129	152	199	623	244
		II	10	20	27	39	72	559	666
		III	27	45	44	56	139	702	762
		計	49	94	200	247	410	1,884	1,672

表2 薬害症状の発生状況

供試薬剤	希釈倍数	連制	薬害					
			3日後	7日後	10日後	13日後	20日後	30日後
			4/12	4/16	4/19	4/22	4/29	5/9
123) ダニオーテフロアブル アシナビル 20.0% Lot. SBC-18G	2,000倍	I	—	—	—	—	—	—
		II	—	—	—	—	—	—
		III	—	—	—	—	—	—
対) カネマイトフロアブル アセキノシル 15.0%	1,000倍	I	—	—	—	—	—	—
		II	—	—	—	—	—	—
		III	—	—	—	—	—	—
無処理		I						
		II						
		III						

4. 考 察

実用性の判定は、散布3日、7日、10日、13日後の雌成虫数から算出した補正密度指数で行った。

123) ダニオーテフロアブル 2,000 倍散布 AAA-

本剤 2,000 倍液散布は、対照のカネマイトフロアブル 1,000 倍液散布と比較して、まさる効果であり、無処理と比較すると効果が
高いことから、実用性が高いと考えられる。薬害は認められなかった。

担当者氏名 喜久村智子

1. 試験目的 防除効果及び被害の検討
2. 試験方法 試験地場所 沖縄県農業研究センター
- 対象病害虫発生状況 少→中(自然発生)

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:アーウィン 樹齢:12年生 樹高:2m 栽植距離:1.5～2m 土性:重埴土(島尻マージ)

栽培条件: ポット栽培(直径 70cm) 施設栽培

試験期間中の防除薬剤: なし

施肥その他一般管理は慣行に準じた。

区制・面積・試験区の構成 1区 1樹 4連制

	2-I				1-III				
1-I			3-II		2-III				
3-I		1-II	2-II		3-III	2-IV		1-IV	3-IV

1: ダニオーテフロアブル区 2: カネマイトフロアブル区 3: 無処理区 I, II, III, IV は連制を示す。

処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2024 年 6 月 11 日

(処理時の作物のステージ) 果実肥大期

(処理方法) 所定の濃度に希釈した薬液を、背負い式手動噴霧器を用いて葉の表裏が十分に濡れるよう散布した(375L/10a)。

(処理前後の降雨影響) 処理前後に降雨はなかったため、影響は無かった。

試験期間中の気象条件

試験施設内(データロガー計測値)

月日	6/11	6/12	6/13	6/14	6/15	6/16	6/17	6/18	6/19	6/20	6/21	6/22	6/23
平均気温 (°C)	25.7	27.3	27.5	25.5	28.6	30.4	28.6	26.5	30.4	31.5	31.6	31.4	31.6

月日	6/24	6/25	6/26	6/27	6/28	6/29	6/30	7/1	7/2	7/3	7/4	7/5	7/6
平均気温 (°C)	31.8	32.2	32.8	32.4	31.5	32.4	32.0	32.5	33.1	34.0	33.5	33.9	34.6

月日	7/7	7/8	7/9	7/10	7/11	7/12	7/13	7/14	7/15	7/16	7/17	7/18	7/19
平均気温 (°C)	34.5	35.3	33.4	34.2	33.9	34.2	34.9	35.5	34.8	33.5	34.2	34.3	35.3

調査月日・方法(月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 処理前(6 月 11 日)、処理 3 日後(6 月 14 日)、10 日後(6 月 21 日)、19 日後(7 月 1 日)、30 日後(7 月 12 日)、37 日後(7 月 19 日)

(調査方法) 薬効は、各樹につき任意の葉 20 枚に寄生するシュレイツメハダニ雌成虫を目視により計数し、処理 10, 19, 30 日後の結果から以下の式により防除効率を算出した。

防除効率 = $(1 - C_b / T_b \times \sum T_{ai} / \sum C_{ai}) \times 100$

Cb: 無処理区の処理前雌成虫数 Tb: 処理区の処理前雌成虫数

Cai: 無処理区の処理 i 日後の雌成虫数 Tai: 処理区の処理 i 日後の雌成虫数

被害は、薬効調査時に茎葉の被害症状を以下の基準により肉眼で観察した。

－: 被害を認めない。+: 軽微な被害症状を認める。++: 中程度の被害症状を認める。

+++ : 重度の葉害症状を認める。

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期、詳細な方法を記載)

3. 試 験 成 績

表 1 薬効・葉害試験結果

供試薬剤	処理方法	連制	シュレイツメハダニ雌成虫個体数(1樹20葉)						防除効率 (i= 10, 19, 30)	葉害 6/14, 6/21, 7/1, 7/12, 7/19 葉, 果実
			処理前	散布3日後	散布10日後	散布19日後	散布30日後	散布37日後		
			6/11	6/14	6/21	7/1	7/12	7/19		
123) ダニオーテフロアブル	アシナビル 20% 散布	I	2	0	0	0	0	15	99.6	-,-
		II	1	0	0	1	2	14		-,-
		III	10	2	0	0	0	1		-,-
		IV	2	0	1	0	1	28		-,-
		計	15	2	1	1	3	58		
対) カネマイトフロアブル	アセキノシル 15% 散布	I	7	1	14	39	90	185	49.6	-,-
		II	9	15	11	135	209	114		-,-
		III	1	3	20	45	105	123		-,-
		IV	1	0	11	22	73	82		-,-
		計	18	19	56	241	477	504		
Lot. SBC-18G	無処理	I	8	28	62	196	284	222		
		II	1	1	26	23	99	38		
		III	6	5	32	143	312	258		
		IV	0	0	9	29	65	255		
		計	15	34	129	391	760	773		
Lot. 06134	無処理	I	8	28	62	196	284	222		
		II	1	1	26	23	99	38		
		III	6	5	32	143	312	258		
		IV	0	0	9	29	65	255		
		計	15	34	129	391	760	773		

4. 考察

本試験における実用性の判定は、処理 10, 19, 30 日後の防除効率に基づいて評価した。

123) ダニオーテフロアブル 2,000 倍散布 AAA-

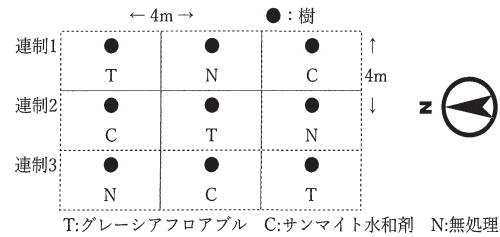
本処理は対照処理と比較して効果はまさり、無処理区と比較して効果は高かった。実用性は高いと考えられる。葉害は認められなかった。

担当者氏名 柿元一樹・濱島朗子

1. 試験目的 防除効果及び薬害の検討
2. 試験方法 試験地場所 鹿児島県大崎町株式会社 Field Styled Lab.試験地
- 対象病害虫発生状況 多発生
- 耕種概要

品種:アーウィン 樹齢:5年生 樹高:約1.7m 栽植距離:約4m×4m 鉢植え栽培(20号鉢) 施設栽培
土性:淡色アロフェン質黒ボク土 試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積・試験区の構成 1区1樹 3連制

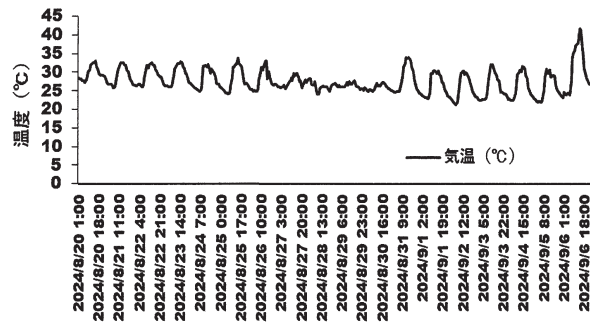


処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2024年8月19日
(処理時の作物のステージ) 生育期(新梢生育期)
(処理方法) 試験薬剤および対照薬剤の処理にあたっては、所定濃度に希釈した薬液を背負い式動力噴霧器により約2L/樹散布した。展着剤は加用しなかった。
(処理前後の降雨影響) 施設栽培のため降雨の影響はなかった。

試験期間中の気象条件

データロガー計測値;期間中平均 27.5℃



調査月日・方法

(調査月日) 2024年8月20日(処理前), 8月23日(3日後), 8月27日(7日後), 9月5日(16日後)
(調査方法) 各試験樹から上位1~2枚目の新葉10枚をポリスチレン製シャーレへ収容して持ち帰り、実体顕微鏡によりチャノホコリダニの成虫および幼虫個体数を計数した。
薬害: 薬効調査時に葉への薬害を以下の基準に従い遠観により評価した。
ー: 薬害を認めない。+: 軽微な薬害症状を認める。++: 中程度の薬害症状を認める。
+++ : 重度の薬害症状を認める。

その他

なし

3. 試験成績

後述

対象病害虫名 チャノホコリダニ

試験場名 株式会社Field Styled Lab.

4. 考察

マンゴーのチャノホコリダニに対するグレーシアフロアブルの効果は、処理後全調査日(処理から3日、7日および16日後)での薬効評価が可能であったため、これら3調査日における本種全個体数から算出した補正密度指数の平均値に基づき評価した。

99) グレーシアフロアブル 4,000 倍 散布 CBB-

本剤;4,000 倍希釈液散布の効果は、対照薬剤であるサンマイト水和剤;1,000 倍希釈液散布の効果にやや劣ったが、無処理区と比較して効果はあった。実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

マンゴーのチャノホコリダニ個体数/10葉

供試薬剤	処理濃度 処理方法	連制	調査項目、調査日、処理後経過日数※												評価 指数 ↑	薬害 8/3 8/27 9/5
			調査日													
			8月20日			8月3日			8月27日			9月5日				
			処理後経過日数													
			処理前			3日			7日			16日				
			成虫	幼虫	計	成虫	幼虫	計	成虫	幼虫	計	成虫	幼虫	計		
99) グレーシアフロアブル フルキサメタミド10.0% Lot. OCL020	4,000倍 散布	1	3	194	197	0	0	0	1	10	11	0	70	70	—	
		2	4	137	141	1	10	11	0	12	12	1	23	24	—	
		3	3	182	185	0	0	0	0	2	2	0	63	63	—	
		合計	10	513	523	1	10	11	1	24	25	1	156	157		
		補正密度指数				3.2			2.7			10.7			5.5	
対) サンマイト水和剤 ピリダベン20.0% Lot. oIG112	1,000倍 散布	1	2	182	184	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	
		2	1	125	126	0	0	0	0	0	0	0	1	1	—	
		3	2	92	94	1	0	1	0	0	0	0	3	3	—	
		合計	5	399	404	1	0	1	0	0	0	0	4	4		
		補正密度指数				0			0			0.4			0.2	
無処理	-	1	0	130	130	1	25	26	2	245	247	8	355	363		
		2	1	125	126	4	134	138	5	348	353	10	544	554		
		3	3	186	189	1	128	129	4	185	189	3	330	333		
		合計	4	441	445	6	287	293	11	778	789	21	1,229	1,250		
		補正密度指数				100			100			100				

※薬剤処理日：8月20日 ↑ 評価指数：処理3,7,16日後における成虫および幼虫個体数の補正密度指数平均値

対 象 病 害 虫 名 ホコリダニ類(チャノホコリダニ)

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会宮崎試験場

担当者氏名 八丁昭龍、近藤諒介

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 11913 一般社団法人日本植物防疫協会宮崎試験場

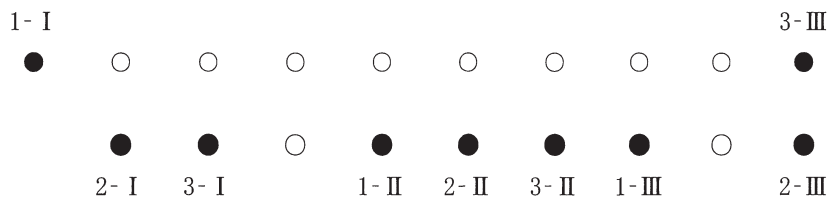
対象病害虫発生状況 少発生(放虫)

耕種概要

品種:アーウィン 12 年生樹、高さ 1.6m、20 号ポット植え、盃状形整枝 施設栽培

栽植距離:樹間 1.9m×2.4m、 施肥その他一般管理は慣行に準じた。

土性:不明 試験期間中の防除:なし

区制・面積・試験区の構成 1 区 4.6 m²(1.9m×2.4m)、1 樹、3 連制

1. グレーシアフロアブル、2. 無処理、3. サンマイト水和剤、 I、II、IIIは連制を示す。

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2024 年 10 月 4 日 (作物のステージ) 第 2 新梢伸長期

(処理方法) 供試薬剤を所定の濃度に希釈し、10a あたり 296L の割合で背負式バッテリー噴霧機を用いて散布した。
展着剤は添加しなかった。

(処理前後の降雨の影響) 施設栽培のため影響はない。

試験期間中の気象条件

月 日	10/4	5	6	7	8	9	10	11
平均気温(℃)	22.8	24.5	26.3	27.0	27.1	25.6	25.4	24.7

試験期間中の気象条件は、近傍の管理条件が類似した施設内に常設している観測装置で観測した。

調査月日・方法

(調査月日) 散布前(10 月 4 日)、同 3 日後(10 月 7 日)および同 7 日後(10 月 11 日)

(調査方法) 各区接種新梢を含む 10 新梢から 1 新梢あたり 1 葉(計 10 葉)を採取し、実験室へ持ち帰った。実験室内で各葉の任意の 2 か所より直径 1.5 cm のリーフディスクをくりぬき(合計 20 枚)、実体顕微鏡下で生息する虫数を卵、幼虫、雌成虫、雄成虫別に分けて計数した。

被害は、調査時に茎葉を下記の通り肉眼により観察した。

-: 被害なし。+: 軽微な被害症状を認める。 ++: 中程度の被害症状を認める。 +++: 重度の被害症状を認める。

その他 散布 3 日前(10 月 1 日)に場内施設きゅうりで発生していたチャノホコリダニを葉ごと採取し、各区 5 新梢に葉片を 1 枚接種し、発生を促した。

対 象 病 害 虫 名 ホコリダニ類(チャノホコリダニ) 試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会宮崎試験場

3. 試験成績

供 試 薬 剤		処理方法	連制	直径1.5cmリーフディスク20枚に生息する虫数															薬害 10/7,11
				散布前					3日後					7日後					
				10/4					10/7					10/11					
				卵	幼虫	雌 成虫	雄 成虫	計*	卵	幼虫	雌 成虫	雄 成虫	計*	卵	幼虫	雌 成虫	雄 成虫	計*	
99) グレーシアフロアブル フルキサメタド10.0% Lot No. 26.10-0CL020	4000倍 散布	I	26	10	14	0	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-		
		II	1	15	3	1	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-		
		III	1	7	5	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-		
		計	28	32	22	1	55	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-		
		(補正密度指数)	(0)															BAA-	
対照 サンマイト水和剤 ビリダベン20.0%	1000倍 散布	I	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-		
		II	99	43	2	3	48	0	1	0	0	1	0	0	0	0	-		
		III	0	5	4	3	12	0	0	0	0	0	1	0	0	0	-		
		計	99	48	7	6	61	0	1	0	0	1	1	0	0	0	-		
		(補正密度指数)	(1.5)															(0)	
無 処 理	—	I	17	14	0	6	20	15	23	3	2	28	2	23	10	0	33	-	
		II	0	2	2	1	5	4	6	2	0	8	0	6	1	0	7	-	
		III	31	9	12	4	25	1	14	4	1	19	0	13	2	0	15	-	
		計	48	25	14	11	50	20	43	9	3	55	2	42	13	0	55	-	
		(補正密度指数)	(100)															(100)	
* 卵を除いた合計値																			

* 卵を除いた合計値

4. 考 察

本試験における実用性の判定は、散布 3、7 日後の補正密度指数で行った。

99) グレーシアフロアブル 4000 倍希釈液散布 BAA-

本薬剤は、対照薬剤のサンマイト水和剤 1000 倍希釈液散布と比較して同等であり、無処理と比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。

薬害は認められなかった。

対象病害虫名・学名 ハナアザミウマ

試験場名 山口県農林総合技術センター農林業技術部 柑きつ振興センター

担当者氏名 岡崎芳夫

1. 試験目的 防除効果及び薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 山口県大島郡周防大島町東安下庄 柑きつ振興センターほ場

对象病虫害发生状况 中发生

耕種概要

品種:「日南1号」 樹齡:32年生 樹高:2.2m 栽植距離:2.5m×5m 土性:SL

栽培条件:露地栽培 施肥、一般管理は慣行に準じた。

試験期間中の防除薬剤 なし

区制・面積・試験区の構成

1 区 1 樹 3 連制

	3-III	2-III													
		3-II	2-II	1-III											
	2-I	1-II							3-I		1-I				

1:OAT-1408 SC 2,000 倍

2:テルスターフロアブル 5,000 倍

3:無処理

I、II、IIIは連制を示す

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(处理年月日) 2024 年 10 月 11 日

(処理時の作物のステージ) 着色終期

(処理方法) 10月11日に供試薬剤を所定の希釈倍数に調製し、動力噴霧機を用い、1樹当たり7L(560L/10a)を果実が十分濡れるように樹冠散布した。樹体の葉液が乾いた後、表面が白色のクラフトテープを縦4cm、横5cmに切り、1樹当たり赤道部から上部の果実60果に張り付けた。

(処理前後の降雨影響) 散布直後における降雨の影響はない。

月日	10/11	12	13	14	15	16	17	18
降水量(mm)	0	0	0	0	0	0.5	0	0

□:処理目、数値は山口県安下庄アメダスデータ

調査月日・方法(月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 散布6日後(10月17日:薬害のみ)、散布14日後(10月25日)

(調査方法) 10月25日にテープを張り付けた果実を採取し、テープを剥がして被害程度を調査した。なお、被害程度の基準および被害度の計算式は以下のとおり。

無:被害なし 少:被覆面に1~2か所程度でわずかに発生 中:被覆面に3か所以上で半分程度に発生

多:被覆面に全体に発生

$$\text{被害度} = ((\text{少} \times 1) + (\text{中} \times 3) + (\text{多} \times 6)) / (\text{全果数} \times 6) \times 100$$

また、テープに付着したアザミウマの頭数を計測した。葉害は散布 6 日後と果実採収時に枝梢と果実を下記の基準 において肉眼で観察した。

薬害: - : 薬害を認めない + : 軽微な薬害症状を認める ++ : 中程度の薬害症状を認める

+++; 重度の薬害症状を認める

試験期間中の気象条件

月日	10/11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
最高气温(℃)	25.1	25.1	26.5	24.9	28.1	28.2	27.0	29.1	25.8	22.1	23.3	21.9	26.4	23.2	23.8
平均气温(℃)	20.8	19.9	21.6	21.9	22.6	24.0	24.3	24.8	23.5	18.1	19.8	20.5	20.5	19.6	21.2
降水量(mm)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	9.0	0.0	0.0	12.5	0.5	0.0	0.0

数値は山口県安下庄アメダスデータ

その他

1 樹当たり 60 果にテープを張り付けたが、テープの剥落、ヤガ被害により、1 樹当たりの調査果数は異なる。

対象病害虫名・学名 ハナアザミウマ

試験場名 山口県農林総合技術センター農林業技術部 柑きつ振興センター

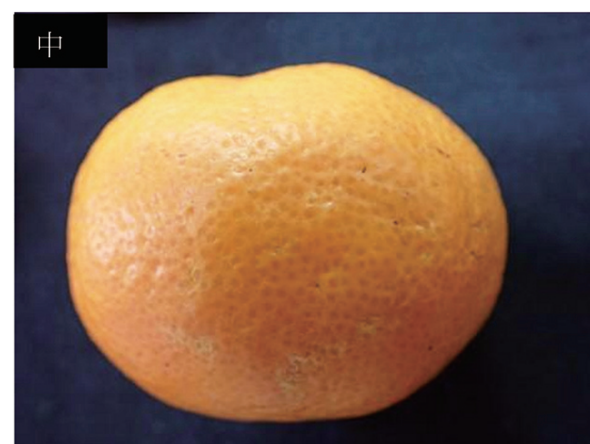


果実に白のクラフトテープを張り付ける



粘着面に付着したハナアザミウマ

被害程度



対象病害虫名・学名 ハナアザミウマ

試験場名 山口県農林総合技術センター農林業技術部 柑きつ振興センター

3. 試 験 成 績

供試薬剤	希釈倍数	連制	被害程度別果数				被害果率 (%)	被害度	付着頭数 /果	薬害 10/16、10/25
			無	少	中	多				
51) OAT-1408 SC 既知化合物 20% Lot.No. 24I-5049	2,000倍	I	52	0	0	0			2.1	—
		II	59	0	0	0			3.3	—
		III	57	0	0	0			4.7	—
		計・平均	168	0	0	0	0.0	0.0	3.4	
		無処理比					(0.0)	(0.0)	(32.4)	
対) テルスターフロアブル ビフェントリン7.2%	5,000倍	I	53	1	0	0			2.6	—
		II	53	0	0	0			1.9	—
		III	50	0	0	0			1.6	—
		計・平均	156	1	0	0	0.5	0.1	2.0	
		無処理比					(0.6)	(0.2)	(19.0)	
無 処 理		I	10	13	18	12			5.6	
		II	0	0	2	47			18.9	
		III	16	11	11	12			6.9	
		計・平均	26	24	31	71	82.9	59.5	10.5	

※付着頭数/果は平均値、()内の数値は対無処理比

4. 考 察

最終散布 21 日後の被害果率、被害度、付着頭数の対無処理比で効果判定を行った。

51) OAT-1408 SC 2,000 倍散布 BAA-

本剤の 2,000 倍散布は、対照薬剤と比較して、効果はほぼ同等で、無処理と比較しては効果が高いことから、実用性は高いと考えられる。なお、薬害は認められなかった。

対象病害虫名 アザミウマ類(ミカンキイロアザミウマ)
試験場名 愛媛県農林水産研究所果樹研究センター

担当者氏名 宮下 裕司・梶原 千穂・魚住 暢

1. 試験目的 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 愛媛県松山市下伊台 果樹研究センター内ほ場

対象病害虫発生状況 中発生(放虫)

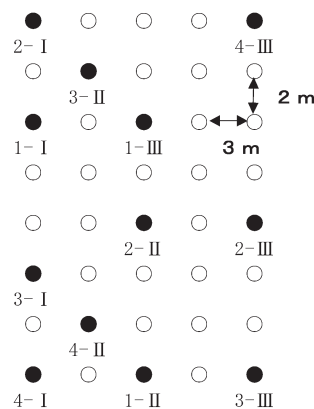
耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:愛媛果試第 28 号 樹齢:7年生 樹高:2m 栽植距離:2×3m 土性:砂壤土

栽培条件:露地栽培 施肥その他一般管理は慣行に準じた 試験期間前の防除薬剤:なし

区制・面積・試験区の構成

1 区 1 樹3連制



1:パダン SG 水溶剤

2:マツチ乳剤

3:ディアナ WDG

4:無処理

I II IIIは連制を示す。

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2024 年 10 月 20 日

(処理時の作物のステージ) 果実着色期

(処理方法) 供試薬剤を所定の希釈倍数に調製し、3L/樹の割合で葉の表裏が十分濡れるように背負式動力噴霧機を用いて散布した。

(処理前後の降雨影響) 処理前後に降雨はなく、影響はなかった。

試験期間中の気象条件

月 日	10/20	10/21	10/22	10/23	10/24	10/25	10/26	10/27	10/28	10/29	10/30	10/31
平均気温(℃)	18.2	20.8	21.3	20.2	18.8	20.9	20.3	22.3	19.5	18.6	19.0	17.8
降水量(mm)	0	0	4.0	37.0	0	0	1.0	4.0	1.5	14.0	0.5	0

観測地点:愛媛県松山アメダスデータ

調査月日・方法(月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 処理 11 日後(10 月 31 日)

(調査方法) 薬効は果実をナイロンゴースごと収穫し、室内においてナイロンゴースを除去し、寄生虫数と食害痕数をルーペで計数した。薬害は、処理3日後(10 月 23 日)と 11 日後(10 月 31 日)に茎葉及び果実の薬害症状を以下の基準により肉眼で観察した。

ー:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。+++ :重度の薬害症状を認める。

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期、詳細な方法を記載)

供試虫は、R6年6月にセンター内のシロツメクサの花から採取し、室内にてゾラマメにより増殖した個体を用いた。

放虫は、薬剤散布当日、薬液が乾いたのちに、各処理樹の果実をナイロンゴース筒(周囲 30cm×長さ 25cm)で被覆し(2果/樹)、1 果あたり 10 頭放虫して、ゴース筒両端を結束バンドで閉じて封をした。

対象病害虫名 アザミウマ類(ミカンキイロアザミウマ)

試験場名 愛媛県農林水産研究所果樹研究センター

3. 試 験 成 績

供試薬剤	処理方法	連制	放 虫 1 1 日 後 (10月31日) 虫 数			調 査 果 数	食 害 痕 数	薬 害 10/23 10/31
			幼 虫	成 虫	合 計			
140) パダンSG水溶剤		I	1	1	2	2	4	—
カルタップ [®] 塩酸塩75.0%	3,000倍	II	0	1	1	2	3	—
Lot. No. 26.10SJC008	散布	III	0	1	1	1※	0	—
		合 計	1	3	4	5	7	
		1果当たり			0.8		1.4	
		(1果当たり無処理比)			(4.4)		(11.4)	
169) マッチ乳剤		I	3	8	11	2	16	—
ルフェスロン5.0%	3,000倍	II	1	2	3	2	5	—
Lot. No. 25.10KYNOK28	散布	III	8	4	12	2	19	—
		合 計	12	14	26	6	40	
		1果当たり			4.3		6.7	
		(1果当たり無処理比)			(23.9)		(54.1)	
対) ディアナWDG		I	0	0	0	2	2	—
スピ [®] ネラム 25.0%	10,000倍	II	2	0	2	2	5	—
	散布	III	1	0	1	2	4	—
		合 計	3	0	3	6	11	
		1果当たり			0.5		1.8	
		(1果当たり無処理比)			(2.8)		(14.9)	
無散布		I	30	7	37	2	26	
		II	9	14	23	2	19	
		III	43	6	49	2	29	
		合 計	82	27	109	6	74	
		1果当たり			18.2		12.3	

※パダン区連制IIIでは1果落果した。

4. 考 察

防除効果の判定は、放虫11日後の虫数を基に行った。

140) パダンSG水溶剤 3,000 散布 BAAー

本処理は、対象処理と比較して効果は同等であり、無処理と比較して高い効果が認められた。実用性は高いと考えられる。
薬害は認められなかった。

169) マッチ乳剤 3,000 散布 DBBー

本処理は、対照処理と比較して効果は劣った。無処理と比較して効果は認められた。実用性はあると考えられる。
薬害は認められなかった。

対象病害虫名 ミカンキイロアザミウマ

試験場名 愛媛県農林水産研究所果樹研究センター

担当者氏名 宮下 裕司・梶原 千柳・魚住 暢

1. 試験目的 防除効果及び薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 愛媛県松山市下伊台 果樹研究センター内ほ場

対象病虫害発生状況 無→中発生(放虫)

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:愛媛果試第28号 樹齡:11年生 樹高:2.2m 栽植距離:2×2m 土性:砂壤土

栽培条件:施設栽培

施肥その他一般管理は慣行に準じたが、灌水は2~4日間隔で約10mm程度行った。

試験期間前の防除薬剤

5/23 エムダイファー水和剤 600 倍、テルスターフロアブル 6,000 倍

6/26 アドマイヤーフロアブル 5,000 倍、スプレーオイル 150 倍

7/12 バロックフロアブル 2,000 倍 テルスターフロアブル 6,000 倍、オリオン水和剤 40 1,000 倍

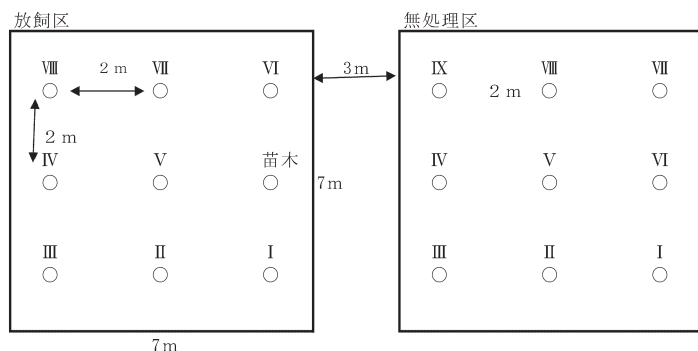
7/29 アドマイヤー顆粒水和剤 10,000 倍、ダニゲッターフロアブル 2,000 倍

8/20 フェニックスフロアブル 4,000 倍、トランスフォームフロアブル 2,000 倍

9/20 フェニックスフロアブル 4,000 倍、サフオイル乳剤 500 倍、アドマイヤー顆粒水和剤 10,000 倍

区制・面積・試験区の構成

1区1棟(8もしくは9調査樹) 連制無



I ~ VIII (IX) は調査樹を示す。

施設状況

APハウス間口7m 奥行7m

サイド:目合い 0.6 mm ネット

屋根面:PO フィルム巻き上げ式

(試験期間中は常時被覆)

処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

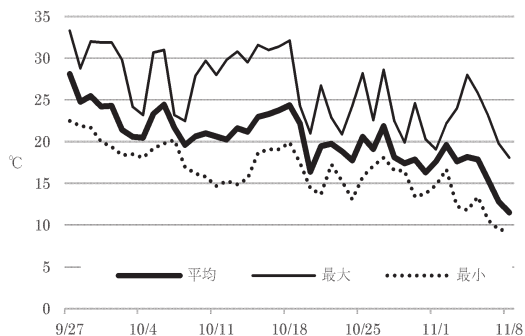
(处理年月日) 2024 年 9 月 27 日、10 月 4 日、10 月 11 日

(処理時の作物のステージ) 果実着色前

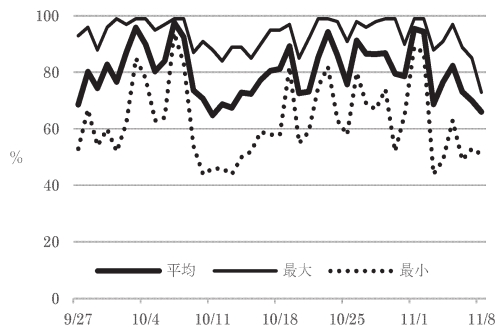
(処理方法) 放飼直前にバック製剤の天敵生物の生存を確認した後、1樹当たり5バックを、直射日光の当たらない樹内部の枝に吊り下げた。

(処理前後の降雨影響) 雨よけ施設栽培のため降雨の影響は無かった。

試験期間中の気象条件 観測地点：現地圃場 SwitchBot 防水温湿度計 W3400010



温度の推移



湿度の推移

対象病害虫名 ミカンキイロアザミウマ

試験場名 愛媛県農林水産研究所果樹研究センター

調査月日・方法(月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 1回目処理前(9/27)、1回目処理7・14・21・28・35・42 日後(10/4、10/11、10/18、10/25、11/1、11/8)

(調査方法) 各調査樹の 20 果(20 果無い場合は全果)に寄生するミカンキイロアザミウマ成幼虫、カブリダニ類及びミカンキイロアザミウマによる被害の有無を計数した。また、各調査樹に未硬化葉が存在する間(～10/11 まで)は、各調査樹 20 未硬化葉に寄生するミカンキイロアザミウマ成幼虫及びカブリダニ数を計数した。葉害は、葉効調査時に茎葉の葉害症状を以下の基準により肉眼で観察した。

－:葉害を認めない。+:軽微な葉害症状を認める。++:中程度の葉害症状を認める。+++ :重度の葉害症状を認める。

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期、詳細な方法を記載)

供試虫は、令和6年6月にセンター内シロツメクサ花に寄生する虫を採集し、室内においてソラマメで増殖した個体を用いた。放虫は、増殖させた成虫を、処理直前に両区に約 500 頭放飼するとともに、幼虫が数十頭寄生したソラマメをキムワイプに包み、みかんネットの中に入れて、全樹に吊るした(1カ所/樹)。本調査園では、無処理区にもカブリダニ類が確認されたため、両区の枝葉からカブリダニを適宜叩き落とし、持ち帰ってプレバラート標本を作製し種を同定した。結果は以下のとおりで、無放飼区に発生していたカブリダニ類はミヤコカブリダニであった。

区	発生種	10月11日	10月18日	11月1日	11月8日	合計
放飼区	スワルスキーカブリダニ	8	12	12	5	37
	ミヤコカブリダニ	1	0	0	0	1
無処理区	スワルスキーカブリダニ	0	0	0	0	0
	ミヤコカブリダニ	7	16	15	10	48

3. 試 験 成 績

未硬化葉調査結果 (20未硬化葉当たり虫数)

供試薬剤	処理方法	調査樹 No.	9月27日				10月4日				10月11日			
			1回目放飼前				1回目7日後				1回目14日後			
			ミカンキイロアザミウマ		カブリダニ		ミカンキイロアザミウマ		カブリダニ		ミカンキイロアザミウマ		カブリダニ	
			幼虫	成虫	合計	幼虫	成虫	合計	幼虫	成虫	合計	幼虫	成虫	合計
110) システムスワルくん・バク製剤 スワルスキーカブリダニ 250頭/パック Lot. No. 5640349334 (1回目) 5640349436 (2回目) 5640349338 (3回目)	5バク/樹 1週間間隔 3回放飼	I	0	0	0	0	0	1	1	1	0	1	1	4
		II	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
		III	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	5
		IV	0	0	0	0	2	1	3	3	1	1	2	4
		V	0	0	0	0	1	0	1	2	0	2	2	5
		VI	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	5
		VII	0	0	0	0	1	3	4	6	0	0	0	2
		VIII	0	0	0	0	1	1	2	1	1	0	1	3
		合計	0	0	0	0	7	7	14	14	2	4	6	30
		1 樹当たり	0	0	0	0	0.9	0.9	1.8	1.8	0.3	0.5	0.8	3.8
		(1 樹当たり無処理比)	(24.6)				(78.8)				(37.5)			
無処理		I	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
		II	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
		III	0	0	0	0	4	0	4	0	1	0	1	2
		IV	0	0	0	0	9	5	14	1	19	4	23	2
		V	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
		VI	0	0	0	0	6	3	9	0	0	1	1	6
		VII	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
		VIII	0	0	0	0	12	1	13	0	3	0	3	4
		IX	0	0	0	0	0	0	0	0	16	0	16	3
		合計	0	0	0	0	32	10	42	1	40	5	45	21
		1 樹当たり	0	0	0	0	3.6	1.1	4.7	0.1	4.4	0.6	5.0	2.3

果実調査結果

供試薬剤	処理方法	調査樹 No.	9月27日				10月4日				10月11日			
			1回目放飼前				1回目放飼7日後・2回目放飼前				1回目放飼14日後・3回目放飼前			
			ミカンキイロアザミウマ		被害果	調査カブリ	ミカンキイロアザミウマ		被害果	調査カブリ	ミカンキイロアザミウマ		被害果	調査カブリ
			幼虫	成虫	合計	数	幼虫	成虫	合計	数	幼虫	成虫	合計	数
110) システムスワルくん・バク製剤 スワルスキーカブリダニ 250頭/パック Lot. No. 5640349334 (1回目) 5640349436 (2回目) 5640349338 (3回目)	5バク/樹 1週間間隔 3回放飼	I	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	5
		II	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	20
		III	0	0	0	0	0	0	0	1	20	3	3	20
		IV	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		V	0	0	0	0	0	0	0	15	0	0	0	15
		VI	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17
		VII	0	0	0	0	1	1	2	3	3	8	11	5
		VIII	0	0	0	0	0	0	0	2	20	0	3	3
		合計	0	0	0	0	1	1	2	7	155	7	12	19
		100果当たり	(0.6)				(4.5)				(12.5)			
		(100果当たり無処理比)	(21.3)				(82.8)				(83.9)			
無処理		I	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
		II	0	0	0	0	0	0	0	1	20	0	0	2
		III	0	0	0	0	0	0	0	1	20	0	2	2
		IV	0	0	0	0	5	1	6	3	20	5	2	7
		V	0	0	0	0	5	5	4	20	1	7	8	4
		VI	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		VII	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		VIII	0	0	0	0	5	0	0	5	0	0	0	5
		IX	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
		合計	0	0	0	0	5	6	11	9	165	6	12	18
		100果当たり	3.0				6.7				13.3			

果実調査結果（続き）																				
供試薬剤	処理方法	調査樹 No.	10月18日 1回目放飼21日後						10月25日 1回目放飼28日後						11月1日 1回目放飼35日後					
			ミカンキイロアザミウマ			被害果 数	調査 果数	カブ リ%	ミカンキイロアザミウマ			被害果 数	調査 果数	カブ リ%	ミカンキイロアザミウマ			被害果 数	調査 果数	カブ リ%
			幼虫	成虫	合計				幼虫	成虫	合計				幼虫	成虫	合計			
110)		I	1	1	2	5	20	0	0	5	5	8	20	2	0	0	0	10	20	2
システムスワルくん・バック製剤	5パック/樹	II	0	0	0	0	20	0	0	1	1	2	20	0	1	0	1	3	20	2
スワルスキー・カブ・リダニ	1週間間隔	III	3	0	3	3	20	1	0	5	5	8	20	1	1	1	2	6	20	0
250頭/バック	3回放飼	IV	0	0	0	1	20	0	0	0	0	1	20	0	0	2	2	4	20	0
Lot. No.		V	0	0	0	0	15	0	0	1	1	1	13	0	0	0	0	0	13	0
5640349334(1回目)		VI	0	0	0	0	17	0	0	1	1	2	17	0	0	0	0	2	17	0
5640349436(2回目)		VII	3	8	11	5	20	3	1	10	11	8	20	4	0	3	3	12	20	3
5640349338(3回目)		VIII	0	3	3	3	20	2	1	10	11	10	20	1	0	5	5	11	20	7
		合計	7	12	19	17	152	6	2	33	35	40	150	8	2	11	13	48	150	14
	100果当たり		4.6	7.9	12.5	11.2			1.3	22.0	23.3	26.7			1.3	7.3	8.7	32.0		
	(100果当たり無処理比)		(10.4)	(18.9)	(14.5)	(34.2)			(1.0)	(46.5)	(13.2)	(57.1)			(1.0)	(19.8)	(4.9)	(50.3)		
無処理		I	0	2	2	1	20	1	0	0	0	5	20	0	2	1	3	8	20	0
		II	0	2	2	5	20	0	1	1	2	4	20	0	23	4	27	11	20	0
		III	2	10	12	10	20	0	74	13	87	10	20	0	41	11	52	17	20	0
		IV	48	26	74	12	20	1	43	12	55	18	20	0	71	17	88	19	20	1
		V	5	21	26	9	20	0	76	28	104	17	20	1	37	15	52	18	20	0
		VI	5	6	11	9	20	0	10	14	24	11	20	1	36	10	46	15	20	0
		VII	0	0	0	2	20	0	2	8	10	5	20	0	6	2	8	7	20	0
		VIII	13	1	14	1	5	0	5	1	6	1	5	0	4	1	5	1	5	0
		IX	0	1	1	5	20	0	3	1	4	6	20	0	9	0	9	9	20	0
		合計	73	69	142	54	165	2	214	78	292	77	165	2	229	61	290	105	165	1
	100果当たり		44.2	41.8	86.1	32.7			129.7	47.3	177.0	46.7			138.8	37.0	175.8	63.6		

果実調査結果（続き）												
供試薬剤	処理方法	調査樹 No.	11月8日 1回目放飼42日後						被害果 数	調査 果数	カブ リ%	薬害
			ミカンキイロアザミウマ			被害果 数	調査 果数	カブ リ%				
			幼虫	成虫	合計							
110)		I	0	2	2	6	20	0	-			
システムスワルくん・バック製剤	5パック/樹	II	0	0	0	3	20	0	-			
スワルスキー・カブ・リダニ	1週間間隔	III	0	2	2	9	20	2	-			
250頭/バック	3回放飼	IV	0	2	2	4	20	0	-			
Lot. No.		V	0	0	0	1	13	0	-			
5640349334(1回目)		VI	1	1	2	4	17	0	-			
5640349436(2回目)		VII	2	2	4	11	20	0	-			
5640349338(3回目)		VIII	2	2	4	11	20	0	-			
		合計	5	11	16	49	150	2				
	100果当たり		3.3	7.3	10.7	32.7						
	(100果当たり無処理比)		(2.4)	(16.6)	(5.8)	(48.6)						
無処理		I	7	4	11	10	20	2				
		II	19	8	27	13	20	0				
		III	75	24	99	20	20	1				
		IV	57	11	68	19	20	0				
		V	29	22	51	19	20	0				
		VI	41	3	44	15	20	3				
		VII	2	0	2	6	20	1				
		VIII	3	0	3	1	5	0				
		IX	0	1	1	8	20	0				
		合計	233	73	306	111	165	7				
	100果当たり		141.2	44.2	185.5	67.3						

※薬害調査日 10/4、10/11、10/18、10/25、11/1、11/8

※薬害調査日 10/4、10/11、10/18、10/25、11/1、11/8

4. 考察

防除効果の判定は、1回目放飼 21、28、35、42 日後の虫数及び被害果数の無処理比を基に行った。

110) システムスワルくん・バック製剤 5パック/樹 4回放飼 –BB–

本処理は、無処理と比較して効果は認められた。実用性はあると考えられる。

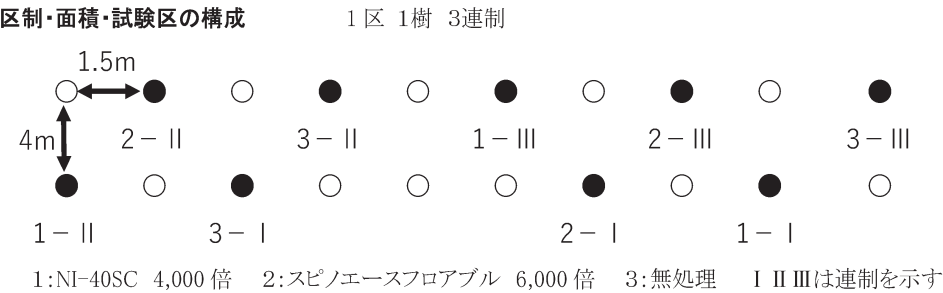
本剤を導入したことによる樹体・果実への害は認められなかった。

対象病害虫名 ミカンハモグリガ
試験場名 愛媛県農林水産研究所果樹研究センター

担当者氏名 梶原 千椰・宮下 裕司・魚住 暢

1. 試験目的 防除効果及び被害の検討
2. 試験方法 試験地場所 松山市下伊台町 愛媛県農林水産研究所果樹研究センター内圃場
対象病害虫発生状況 多発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)
品種:伊予柑 樹齢:4年生 樹高:約 1.2m 栽植距離:4m×1.5m 土性:砂壤土 栽培条件: 露地栽培
施肥その他一般管理は慣行に準じた。
試験期間中の防除薬剤:なし



処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響
(処理年月日)2024 年 8 月 16 日、23 日、9 月 2 日
(処理時の作物のステージ)夏芽伸長期
(処理方法) 供試薬剤を所定の希釈倍数に調製し、約 0.6L/樹の割合で樹全体が十分濡れるように背負式動力噴霧機を用いて散布した。
(処理前後の降雨影響) 処理前後に降雨はなく、影響はなかった。

試験期間中の気象条件

月日	8/16	8/17	8/18	8/19	8/20	8/21	8/22	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27
平均気温 (°C)	28.7	28.7	28.3	24.2	27.3	28.2	28.8	28.5	28.6	28.1	26.9	27.9
降雨量 (mm)	0	0	0	30.0	0	0	0	0	0	0	5.0	0

月日	8/28	8/29	8/30	8/31	9/1	9/2	9/3	9/4	9/5	9/6	9/7	9/8	9/9
平均気温 (°C)	25.3	24.6	24.7	24.9	25.5	25.9	25.4	25.7	25.4	25.9	25.9	26.2	27.3
降雨量 (mm)	17.5	50.0	123.5	4.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

観測地点:果樹研究センター内

調査月日・方法(月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)
(調査月日) 3回目処理7日後(9月9日)
(調査方法) 各樹から新葉を7枚以上持つ 10 新梢を任意に選び、全葉を被害程度別に調査した。
無:加害痕なし。 小:加害痕があるものの実害なし。 中:加害痕は葉の 1/2 以内でやや実害あり。
多:加害痕は葉の 1/2～巻葉で実害あり。
被害度指数は、{(小×1)+(中×3)+(多×6)}/(全葉×6)×100 で算出した。
被害は、薬効調査時に果実、茎葉の被害症状を以下の基準により肉眼で観察した。
－:被害を認めない。+:軽微な被害症状を認める。++:中程度の被害症状を認める。
+++ :重度の被害症状を認める。

対象病害虫名 ミカンハモグリガ

試験場名 愛媛県農林水産研究所果樹研究センター

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期、詳細な方法を記載)

供試樹の新葉の発生を促すため、8月5日に強剪定を行った。

3. 試 験 成 績

供試薬剤名	処理方法	連制	調査葉数	被害程度別葉数				被害率 (%)	被害度	薬害 9/2、9/9
				無	小	中	多			
36) NI-40SC 新規化合物 200 g /L Lot No. F-23157-2	4,000倍 散布	I	101	11	34	43	13	89.1	39.8	—
		II	92	11	13	44	24	88.0	52.4	—
		III	103	19	32	41	11	81.6	35.8	—
		平均						86.2	42.6	
		無処理比(%)						86.2	43.0	
対) スピノエースフロアブル スピノサド 20.0%	6,000倍 散布	I	110	47	39	19	5	57.3	19.1	—
		II	100	24	31	32	13	76.0	34.2	—
		III	115	12	46	53	4	89.6	33.2	—
		平均						74.3	28.8	
		無処理比(%)						74.3	29.1	
無処理		I	108	0	0	3	105	100	98.6	
		II	114	0	0	1	113	100	99.6	
		III	91	0	0	2	89	100	98.9	
		平均						100	99.0	
		無処理比(%)						100	100	

4. 考察

防除効果の判定は、3回目処理7日後の被害度を基に行った。

36) NI-40SC 4,000 倍散布 CCC—

本処理は、対照処理と比較して効果がやや劣った。無処理と比較して効果は認められるが、その程度はやや低かった。効果はやや低い実用性はあると考えられる。

薬害は認められなかった。

		作物名 (カンキツ)																																																																														
(2024) 年 度 委 託																																																																																
対象病害虫名・学名 ミカンハダニ																																																																																
試験場名 山口県農林総合技術センター農林業技術部 柑きつ振興センター																																																																																
		担当者氏名 岡崎芳夫																																																																														
1. 試験目的 防除効果及び葉害の検討																																																																																
2. 試験方法 試験地場所 山口県大島郡周防大島町東安下庄 柑きつ振興センターほ場																																																																																
対象病害虫発生状況 多発生																																																																																
耕種概要																																																																																
品種:「宮川早生」 4年生 樹高:1.2m																																																																																
栽培条件: 容量 40Lのポット栽培 ポットの土は真砂土、バーミキュライト、牛糞堆肥で作成 年 3 回施肥																																																																																
区制・面積・試験区の構成 1 区 1 樹 3 連制																																																																																
<table><tr><td>2-Ⅲ</td><td>4-Ⅲ</td><td>1-Ⅲ</td><td></td><td></td><td>3-Ⅱ</td><td>1-Ⅱ</td><td></td><td>2-Ⅰ</td></tr><tr><td>3-Ⅲ</td><td></td><td></td><td>4-Ⅱ</td><td></td><td>2-Ⅱ</td><td>4-Ⅰ</td><td>3-Ⅰ</td><td>1-Ⅰ</td></tr></table>				2-Ⅲ	4-Ⅲ	1-Ⅲ			3-Ⅱ	1-Ⅱ		2-Ⅰ	3-Ⅲ			4-Ⅱ		2-Ⅱ	4-Ⅰ	3-Ⅰ	1-Ⅰ																																																											
2-Ⅲ	4-Ⅲ	1-Ⅲ			3-Ⅱ	1-Ⅱ		2-Ⅰ																																																																								
3-Ⅲ			4-Ⅱ		2-Ⅱ	4-Ⅰ	3-Ⅰ	1-Ⅰ																																																																								
1:ORO-030S3D 液剤 500 倍 2:フーモン 1,000 倍 3ダニコングフロアブル 4,000 倍 4:無処理 Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは連制を示す																																																																																
処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響																																																																																
(処理年月日) 1回目 2024 年 10 月 9 日 2回目 10 月 16 日																																																																																
(処理時の作物のステージ) 着色期																																																																																
(処理方法) 供試薬剤を所定の希釈倍数に調製し、背負式動力噴霧機を用い、1樹当たり 2L を葉の表裏が十分濡れるように樹冠散布した。																																																																																
(処理前後の降雨影響)																																																																																
<table><tr><td>月日</td><td>10/9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td></tr><tr><td>降水量(mm)</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0.5</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr></table>				月日	10/9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	降水量(mm)	0	0	0	0	0	0	0	0.5	0	0	0	0	0																																																	
月日	10/9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21																																																																			
降水量(mm)	0	0	0	0	0	0	0	0.5	0	0	0	0	0																																																																			
□ : 処理日、数値は安下庄アメダスポイントデータ																																																																																
2回目散布は降雨後、樹が乾いてから散布しており、降雨の影響はない。																																																																																
試験期間中の気象条件																																																																																
<table><tr><td colspan="2"></td><td colspan="3">10月</td><td>11月</td></tr><tr><td colspan="2"></td><td>上</td><td>中</td><td>下</td><td>上</td></tr><tr><td rowspan="6">気温 (℃)</td><td rowspan="3">平均</td><td>R6</td><td>22.1</td><td>22.2</td><td>19.9</td><td>17.6</td></tr><tr><td>平年</td><td>20.9</td><td>19.1</td><td>17.1</td><td>15.4</td></tr><tr><td>平年差</td><td>1.2</td><td>3.1</td><td>2.8</td><td>2.2</td></tr><tr><td rowspan="3">最高</td><td>R6</td><td>25.4</td><td>26.2</td><td>22.9</td><td>21.3</td></tr><tr><td>平年</td><td>24.7</td><td>23.1</td><td>21.0</td><td>19.5</td></tr><tr><td>平年差</td><td>0.7</td><td>3.1</td><td>1.9</td><td>1.8</td></tr><tr><td rowspan="3">最低</td><td>R6</td><td>19.6</td><td>18.4</td><td>17.5</td><td>14.2</td></tr><tr><td>平年</td><td>17.5</td><td>15.5</td><td>13.5</td><td>11.6</td></tr><tr><td>平年差</td><td>2.1</td><td>2.9</td><td>4.0</td><td>2.6</td></tr><tr><td rowspan="3">降水量 (mm)</td><td>R6</td><td>79.5</td><td>9.5</td><td>39.5</td><td>104.5</td></tr><tr><td>平年</td><td>41.3</td><td>40.1</td><td>48.4</td><td>30.7</td></tr><tr><td>平年比</td><td>192.5</td><td>23.7</td><td>81.6</td><td>340.4</td></tr></table>						10月			11月			上	中	下	上	気温 (℃)	平均	R6	22.1	22.2	19.9	17.6	平年	20.9	19.1	17.1	15.4	平年差	1.2	3.1	2.8	2.2	最高	R6	25.4	26.2	22.9	21.3	平年	24.7	23.1	21.0	19.5	平年差	0.7	3.1	1.9	1.8	最低	R6	19.6	18.4	17.5	14.2	平年	17.5	15.5	13.5	11.6	平年差	2.1	2.9	4.0	2.6	降水量 (mm)	R6	79.5	9.5	39.5	104.5	平年	41.3	40.1	48.4	30.7	平年比	192.5	23.7	81.6	340.4
		10月			11月																																																																											
		上	中	下	上																																																																											
気温 (℃)	平均	R6	22.1	22.2	19.9	17.6																																																																										
		平年	20.9	19.1	17.1	15.4																																																																										
		平年差	1.2	3.1	2.8	2.2																																																																										
	最高	R6	25.4	26.2	22.9	21.3																																																																										
		平年	24.7	23.1	21.0	19.5																																																																										
		平年差	0.7	3.1	1.9	1.8																																																																										
最低	R6	19.6	18.4	17.5	14.2																																																																											
	平年	17.5	15.5	13.5	11.6																																																																											
	平年差	2.1	2.9	4.0	2.6																																																																											
降水量 (mm)	R6	79.5	9.5	39.5	104.5																																																																											
	平年	41.3	40.1	48.4	30.7																																																																											
	平年比	192.5	23.7	81.6	340.4																																																																											
数値は安下庄アメダスポイントデータ																																																																																
調査月日・方法(月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、葉害の判断方法・時期を記載)																																																																																
(調査月日)																																																																																
1 回目散布前(10/9)、1 回目散布 2 日後(10/11)、1 回目散布 7 日後・2 回目散布前(10/16)、																																																																																
1 回目散布 9 日後 2 回目散布 2 日後(10/18)、1 回目散布 16 日後 2 回目散布 9 日後(10/25)、																																																																																
1 回目散布 28 日後 2 回目散布 21 日後(11/6)、1 回目散布 36 日後 2 回目散布 29 日後(11/14)																																																																																
(調査方法) 1 樹当たり 50 葉について寄生するミカンハダニ雌成虫を調査した。葉害は雌成虫計数時に枝葉、果実を肉眼で観察した。																																																																																
防除効率:																																																																																
$\left(1 - \frac{Cb}{Tb} \cdot \frac{\sum_i Tai}{\sum_i Cai}\right) \times 100$ Cb : 無処理区の処理前雌成虫数 Tb : 処理区の処理前雌成虫数 Cai : 無処理区の処理 i 日後雌成虫数 Tai : 処理区の i 日後雌成虫数 但し i = 処理 9、21、29 日後の雌成虫数																																																																																
葉害: - ; 葉害を認めない + ; 軽微な葉害症状を認める ++ ; 中程度の葉害症状を認める +++ ; 重度の葉害症状を認める																																																																																

対象病害虫名・学名 ミカンハダニ

試験場名 山口県農林総合技術センター農林業技術部 柑きつ振興センター

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期、詳細な方法を記載)

3. 試 験 成 績

供試薬剤	希釈 倍数	連制	50 葉／樹当たり雌成虫数								防除 効率	葉害
			1回目 処理前	1回目 2日後	1回目 7日後	1回目 9日後	1回目 16日後	1回目 28日後	1回目 36日後	10/11、10/16		
					2回目 処理前	2回目 2日後	2回目 9日後	2回目 21日後	2回目 29日後	10/18、10/25		
			(10/9)	(10/11)	(10/16)	(10/18)	(10/25)	(11/6)	(11/14)	11/ 6、11/14		
53)ORO-030S3D 液剤 Orange Oil 6% Lot.23L1705	500 倍	I	44	5	40	1	3	49	151	92	—	
		II	87	6	32	3	5	86	58		—	
		III	75	4	53	1	14	76	82		—	
		計	206	15	125	5	22	211	291			
対)フーモン ポリグリセリン脂肪酸 エステル82.5%	1,000 倍	I	60	0	26	1	5	56	69	90	—	
		II	78	6	69	3	19	125	135		—	
		III	80	4	65	5	18	106	153		—	
		計	218	10	160	9	42	287	357			
参考) ダニコングフロアブル ピフルブミド 20%	4,000 倍	I	146	0	0	9	14	20	91	96	—	
		II	48	0	0	2	20	3	47		—	
		III	20	0	0	8	16	27	49		—	
		計	214	0	0	19	50	50	187			
無 処 理		I	135	202	336	745	803	1,300	1,630			
		II	28	23	50	98	162	476	762			
		III	57	45	99	159	234	664	1,003			
		計	220	270	485	1,002	1,199	2,440	3,395			

4. 考 察

2 回目処理 9 日後、2 回目処理 21 日後、2 回目処理 29 日後の防除効率で判定した。対照薬剤は気門封鎖剤のフーモンとした。

53) ORO-030S3D 液剤 500 倍 7 日間隔2回散布 BBB-

本剤の 500 倍、7 日間隔 2 回散布は、対照薬剤に比べて、防除効果はほぼ同等で、無処理と比較して効果はあることから、実用性はあると考えられた。なお、葉害は認められなかった。